

菊田幸一教授 著作目録

メタデータ	言語: jpn 出版者: 明治大学犯罪学研究所 公開日: 2017-10-02 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 菊田, 幸一 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10291/19048

菊田幸一教授 古稀祝賀

死刑問題に関する文献目録

付 菊田幸一教授 著作目録



明治大学犯罪学研究所

2004・12・15

一八六七年

神田孝平「西洋諸国公事裁判の事」中外新聞三三三号（『明治文化全集』一七卷所収）

一八七五年

津田真道「死刑ハ刑ニ非ズ」明六雜誌八月号

一八七七年

甲賀拙造「死刑論」法律雜誌一〇〇一二号

高橋基一「論説」朝野新聞一〇月二〇日

一八七八年

清水大吾「国事犯の死刑廃すべし」民間雜誌一八七八年三月八日号（一二九号）

好南居士「死刑ノ害ヲ論ス」法律雜誌二一号

一八八一年

植木枝盛「世界ノ万国ハ断然死刑を廃ス可キヲ論ズ」愛国新誌二〇〇二二号

一八八四年

ベルネル述 小幡信篤訳「廢死刑論」法学協會雜誌一〇号（一八八四年）、一一～一二号（一八八五年）、
二三～二五号（一八八六年）

一八八五年

ジュール・バルニ－撰 田部香藏訳「死刑論」明法雜誌九号（一八八五年）、一二号（一八八六年）

一八八七年

岱麗樵夫「死刑論」明法雜誌三〇号

一八八八年

富井政章「国事犯ノ処分」法学協會雜誌四九号

無名氏「死刑の性質」明法雜誌五六号

一八八九年

佐野尚「死刑を以て犯罪を圧止するの駁説を読む」大日本監獄協會雜誌二卷七号

一八九〇年

山崎柳藏「死刑論」大日本監獄協会雑誌三卷八号、一〇号

一八九二年

英国ホワルド協会年報抄訳「死刑廃止問題に関する各国の回答」大日本監獄協会雑誌五卷二号
花井卓蔵「死刑廃止論」法学新報一七卷七号、一一号

一九〇〇年

田中一雄『死刑囚の記録 上巻』（日本犯罪学会）

小河滋次郎「廃死刑論（一）（二）」監獄協会雑誌一三卷二号、三号

山上義雄「廃死刑に就て」監獄協会雑誌一三卷八号

早崎春香「死刑廃止すべし」監獄協会雑誌一三卷一〇号

留岡幸助「死刑廃止論」監獄協会雑誌一三卷一二号

一九〇一年

小河滋次郎『獄事談』（東京書院）

一九〇二年

小河滋次郎『刑法改正案の二眼目 死刑及び刑の執行猶予』（明宝堂）

小河滋次郎「死刑廃止について」監獄協会雑誌一五卷三号

君塚庄次郎「日本古代における死刑執行禁止の法令」監獄協会雑誌一五卷六号

一九〇四年

田中一郎「死刑場裏の観察」監獄協会雑誌一七卷七号

一九〇六年

小河滋次郎「死刑廃止論」中央公論一〇月号

一九〇七年

監獄協会雑誌二〇卷二号「刑法号」

安藤義導「改正刑法案に対する吾人の希望」監獄協会雑誌二〇卷二号

- 浦和監獄講習会「刑法改正に対する愚見の二、三」監獄協会雑誌二〇卷二号
- 大竹岩次郎「刑法改正に対する希望」監獄協会雑誌二〇卷二号
- 岡熊一「刑法改正案に付て」監獄協会雑誌二〇卷二号
- 神谷龍海「死刑廃止を望む」監獄協会雑誌二〇卷二号
- 神貞庸「刑法改正案に対する批評の批評」監獄協会雑誌二〇卷二号
- 荻屋哲公「大罪人として人を殺し候事」監獄協会雑誌二〇卷二号
- 川口南甫「刑法改正案に対する卑見」監獄協会雑誌二〇卷二号
- 川村慎吾「改正刑法に対する死刑廃止の希望」監獄協会雑誌二〇卷二号
- 木名瀬礼助「刑法改正案に就ての所感」監獄協会雑誌二〇卷二号
- 国司広勝「刑法改正に就て」監獄協会雑誌二〇卷二号
- 小山斉「死刑廃止を絶叫す」監獄協会雑誌二〇卷二号
- 小山鉦次「死刑廃止論」監獄協会雑誌二〇卷二号
- 佐々木祐昭「刑法改正案に対する意見」監獄協会雑誌二〇卷二号
- 佐瀬庄三郎「刑法改正案を読んで」監獄協会雑誌二〇卷二号
- 杉野喜祐「刑法改正案に対する所見」監獄協会雑誌二〇卷二号
- 四天王寺教馬「刑法改正に就ての希望」監獄協会雑誌二〇卷二号

田中義達「押田芳之助」高安博道「刑法改正案に対する意見」監獄協会雑誌二〇卷二号

田中肅郎「刑法改正案に対する批評」監獄協会雑誌二〇卷二号

佃離見「刑法改正案に就て」監獄協会雑誌二〇卷二号

坪井直彦「刑法改正案に対する希望」監獄協会雑誌二〇卷二号

富樫信淳「刑法改正案に対する所感」監獄協会雑誌二〇卷二号

留岡幸助「刑法改正案に対する卑見」監獄協会雑誌二〇卷二号

中村侑男「刑法改正案に対する雜感」監獄協会雑誌二〇卷二号

那須寂湛「林田淨」死刑廃止を望む」監獄協会雑誌二〇卷二号

西元龍拳「改正刑法」監獄協会雑誌二〇卷二号

野口謹造「刑法改正案に対する意見」監獄協会雑誌二〇卷二号

藤野亮道「刑法改正案について」監獄協会雑誌二〇卷二号

前田俊太郎「死刑に対し反正的条件附執行猶予を与ふるの制を論ず」監獄協会雑誌二〇卷二号

水哉生「刑法改正案に就て」監獄協会雑誌二〇卷二号

南木大憲「刑罰の体面上より観たる死刑の価値」監獄協会雑誌二〇卷二号

美濃部達吉「刑法改正案について」監獄協会雑誌二〇卷二号

吉野謹吉「監獄は死刑を執行すべき場所にあらず」監獄協会雑誌二〇卷二号

和田千松郎「刑法改正案に就て」監獄協会雑誌二〇卷二号

蘭弁田彦次郎「刑法改正案に就て」監獄協会雑誌二〇卷二号

監獄協会雑誌編集局「刑法改正案に就て」監獄協会雑誌二〇卷二号

花井卓蔵「刑罰法規と監獄」監獄協会雑誌二〇卷六号

碌々学人「死刑問題の未来を論じ併せて適用につき望む所あり」監獄協会雑誌二〇卷六号

樋口秀雄「死刑存廃の問題」太陽二月二〇日〜三月一日号

山内香「死刑存廃論」法律新聞四五六号

勝本勘三郎「死刑ノ存廃ニ付テ」法学志林九卷五号

一九一〇年

「仏国ニ於ケル死刑廃止案及其ノ理由書」法学志林二一卷一〇号

一九一一年

田中一雄『死刑囚の記録 下巻』（日本犯罪学会）

田中太郎「死刑及殺人罪の統計」統計集誌三六五号

一九一三年

勝本勘三郎「死刑存廃論」太陽一二月一日号

一九一六年

三角生「死刑囚の哀訴」監獄協会雑誌二九卷八号

一九一七年

白露生編『裁判物語——死刑より無罪へ』（閑中書房）

青木七太郎「死刑物語」冒險世界四月号

一九一九年

和気律次郎『死刑囚の手記』（玄文社）

菊地寛「ある抗議書」中央公論四月号

一九二一年

荻屋哲公「死刑者大観」監獄協会雑誌三四卷四号

中央法律新報一卷七号「死刑問題号」

雨花子「我国死刑の沿革」中央法律新報一卷七号

花井卓蔵「死刑は悪刑也」中央法律新報一卷七号

中島弘道「死刑論（死刑の威嚇作用と浄化作用）」中央法律新報一卷七号

牧野英一「死刑廃止運動の要点」中央法律新報一卷七号

牧野英一「死刑ニ就テノ雜筆」法学志林二三卷八、九号

布施辰治「死刑廃止論（上）（中）（下）」中央法律新報一卷七号、八号、九号

深志松郎「死刑といふ事」日本及日本人五月一日

石崎貧樂生「死刑囚の死に対する態度」監獄協會雜誌三四卷七号

一九二二年

花井卓蔵『死刑俗論』（博文館）

ハリ・L・デヒイス「死刑廃止に就て（1）（2）」監獄協會雜誌三五卷一〇号、一二号

一九二三年

米田豊『刑台上的感謝——死刑囚 山口豁氏の手記』（小兵士団）

一九二五年

勝本勘三郎「死刑について」『刑法の理論及び政策』所収（有斐閣）

一九二六年

澤田撫松「死刑になった人々」東京九月号

滝川幸辰「死刑廃止論ノ一典型」法学論叢二卷四号

一九二八年

尾佐竹猛「死刑の沿革（上）（中）（下）」刑政四一卷六号、七号、八号

柏木義円「死刑廃止」上毛教界月報三五五号

滝川幸辰「死刑」法学論叢二〇卷一号

滝川幸辰「死刑廃止への道」改造九月号

滝川幸辰「羅馬の死刑」法学論叢二〇卷四号

一九二九年

ベツカリニア（風早八十二訳）『犯罪と刑罰』（刀江書院、一九二九年、岩波書店、一九五八年）

大井静雄「死刑の威嚇的效果」正義五卷三号

木村亀二「死刑に関する独逸帝国議会刑法委員會の決議について」法学協會雜誌四七卷三号

奈良正路「法律哲学における死刑の階級性」思想八八号

一九三〇年

古田大次郎『死刑囚の思い出』（大森書房、一九三〇年 黒色戦線社、一九七一年 平凡社、一九八〇年）

布施辰治『死刑囚十一話』（山東社）

沢田順次郎「死刑の適用に麻酔剤を採用する議——一名刑罰進化論（1）（2）」刑政四三卷一号、二号

田中一雄「死刑囚断末語」『近代犯罪科学全集（14）犯罪珍書集二』（武侠社）

和田岩雄「あはれ、ギロチンの朝露」法学新潮一卷一号

松原濱治「死刑執行人問書」風俗雜誌七月一日号

「獄中記 死刑囚 野口男三郎手記」『近代犯罪科学全集（14）犯罪珍書集二』（武侠社）

一九三一年

不破武夫「死刑に務て（１）（２）」司法協会雑誌一〇巻一号、二号

マーカス・ユー・カヴァナック「死刑は犯罪を防止するか」刑政四四卷二号

イー・ロイ・カルヴァート「死刑を廃止したる国々——その経験は何をもたらしたか」法曹会雑誌九

卷四号

尾後貫莊太郎「アメリカにおける死刑制度」刑政四四卷四号

「英国議會に於ける死刑の試験的廃止論案」刑政四四卷四号

エス・マーグリー・フライ「オランダ及びスカンジナビアに於ける死刑廃止」刑政四四卷五号

柴硯文「死刑断想」犯罪学雑誌四卷四号

武内利栄子「明治初年の罪人首切りの実情」文芸春秋六月号

レウキス・エー・ロース（北村薩雄訳）「死刑は犯罪を防止し得るや」自警一四五号

マックス・フレッシュ「死刑は危険な虚構の手段」刑政四四卷一〇号

武藤文雄「死刑に関する一資料——英国下院の死刑についての特別委員会の報告および決議」法学志林三

三卷一〇号、『刑法における概念の規範的構成』（有斐閣、一九三四年）

一九三二年

江家義男「死刑論」早稻田法学一二卷

一九三三年

滝川幸辰『刑法史の或断面』（政経書院）

布施弥平治『日本死刑史』（威光館）

藤原俊雄「死刑廃止論（１）（２）（３）（４）」法律新報三四三号、三四四号、三四五号、三四六号

トーステン・セリン「常識死刑論」教誨研究八卷一・二号

一九三四年

E・ローイ・カルヴァート（竹田直平訳）『二〇世紀における死刑』（立命館大学出版部）

熊崎藤三「刑法理論と死刑論」早稲田法学二号

入江達吉「ギロチンを繞って」改造七月号

浅野研真「日本仏教と死刑救助」教誨研究九卷八号

荻屋公正「二十世紀に於ける死刑」教誨研究九卷九号

牧野英一「死刑及び無期刑」『刑法改正の諸問題』（良書普及会）

一九三五年

勝水淳行『青年心理と犯罪（付 死刑囚）』（総葉社）

一九三六年

中野孝一「死刑論の一齣」行刑思潮八卷一号

木村亀二「死刑論」中央公論六月号、法と民族五月号（一九四一年）

安斎保「死刑の種々相（1）（2）」日本法学二卷八号、九号

村上常太郎「古今死刑綺談」中央公論九月号

森長英三郎「死刑雑感」法律新聞四〇四一、四〇四三号

一九三七年

前田河広一郎『サッコ・ヴァンゼッテ事件——廿世紀最大不祥事』（河出書房）

三木泰「死刑問題の動向」法律時報九卷三号

ジョン・ベートン「デモクラシーと死刑」刑政五〇卷一〇号

寺田四郎「欧州大法曹の面影——近代刑法学の開祖——死刑廃止論の先駆チエーザレ・ボネサーナ・マル

ケーゼ・ディ・ベッカリア」中央大学々報一〇卷三号、五号

布施辰治「死刑廃止論者の立場から——最近の世相と感想」廓清二七卷一号

一九三八年

刑務界編集局「青年死刑囚の最後の手紙（１）（２）（３）（４）」刑務界二三卷一二号（一九三八年）、一

四卷二号、二号（一九三九年）

一九三九年

森長英三郎「明治以後の死刑数」法律新聞四三六三号

一九四〇年

木村亀二「死刑に関するフランスの新命令——執行の公開廃止」法学九卷一号

一九四三年

木村亀二「死刑と教育刑」法学一一卷一二号

一九四六年

正木亮『志願囚——囚人とともに三〇年』（朝日新聞社、一九四六年、河出書房、一九五六年、正木祝賀

会、一九六五年)

木村亀二「新憲法と刑罰の理念」警察研究一八卷一〇・一一号、『刑法の基本概念』(有斐閣、一九四八年)

牧野英一「死刑の封建制」文化展望一卷四号

一九四七年

吉田洋一「電気椅子と円匙」改造四月号

一九四八年

木村亀二「新憲法と刑罰の問題」法律タイムズ二卷六号、『新憲法と刑事法』(法文社、一九五〇年)

島田一男「絞首刑雑考」雄鶏通信四卷九号

八木胖「死刑問題のうごき」法律のひろば一卷一号

手塚豊「近代日本の死刑」三色旗八号

福井盛太「死刑について」新法曹会報一号

不破武夫「死刑の問題」法律新報七四七号

一九四九年

尾後貫莊太郎「死刑のゆくへ」『神奈川大学昇格記念論文集』

牧野英一「死刑是非論の昨今」警察研究二〇巻六号

「死刑是非論の新趨勢」倫理五四六輯

木村亀二「死刑再考——最高裁判所の判決を中心として」法律のひろば二巻一号、『新憲法と刑事法』

（法文社、一九五〇年）

木村亀二「死刑は廃止されるべきである」思索二四号

木村亀二『死刑論』アテネ文庫（弘文堂）

平野龍一「死刑についての試論」警察研究二〇巻七号

盛秀雄「死刑と日本国憲法（判例批評）」法と経済一〇六—一〇七号

団藤重光「高田卓爾「死刑と日本国憲法（判例批評）」判例研究二巻二号、刑事判例研究会編『刑事判例評

釈八』（有斐閣、一九五〇年）

座談会（花山信勝「中川玄昭」「伊江朝睦」「川上惇」「宇野海」「加藤武雄」「長部謹悟」「小川太郎」「滝沢勝司」

野村正男）「死刑囚を語る」刑政六〇巻四号

細田源吉「生と死の極点——死刑囚教誨の実践」刑政六〇巻四号

中村融訳「トロップマンの死刑（1）（2）（3）——ツルゲーネフの回想録より」刑政六〇巻九号、一〇

号、一二号

一九五〇年

門松正一『絞首刑』（ジープ社）

荒井貢次郎「死刑史話」白門二卷九号

小野清一郎「死刑の法理」刑事判例研究会編『刑事判例評釈 八』（有斐閣）

平野龍一「わが国の死刑」警察研究二二卷二号

団藤重光「死刑は違憲か」判例タイムズ三号、刑事判例研究会編『刑事判例評釈 八』（有斐閣）

北山河「死刑囚とその俳句」矯正教育四月号

幸徳秋水「死刑の前」世界評論五卷四号

木村亀二「死刑」刑政六一卷六号

細田源吉「生死久遠のあり方——死刑囚の音信を通して」刑政六一卷八号

栗山栄「死刑なき国の死刑——シベリヤ抑留生活」刑政六一卷八号

川上悍「死刑囚の面影（1）（2）」刑政六一卷一一号、一二号

不破武夫「死刑に就て」『刑事法上の諸問題』（弘文堂）

篠田龍雄「死刑囚の最後の法悦」信仰五卷一〇号

三宅正太郎「死刑囚の手記」『三宅正太郎全集第二巻』

一九五一年

最高裁判所刑事局『刑事裁判資料五六』（最高裁判所）

藤井恵照『死刑囚物語』（百華苑）

平野龍一『死刑』（法律学体系・法学理論編）（日本評論社）、『犯罪者処遇法の諸問題（増補版）』に収録

（一九八二年）

市川秀雄「死刑と日本国憲法」法学新報五八巻二号

戒能通孝「死刑と無罪」日本評論二六巻二号

手塚豊「日本法制史夜話——日本の絞首台」三色旗三五号

打越定男「死刑のはなし」白門三巻八号

一九五二年

ビクトル・ユーゴー（豊島与志雄訳）『死刑囚最後の日』（岩波書店）

松尾三郎『絞首台のひびき——あるインテリ戦犯死刑囚の手記』（世界社）

滝川政次郎「死刑存廃談義」自由と正義三巻四号

三宅修「死刑拾遺」自由と正義三卷四号

宮城タマヨ「少年死刑囚の家」更生保護三卷五号

伊藤勝「死刑——検事のメモ」自警三四卷七号

正木亮「死刑」日本刑法学会編『刑事法講座第三卷』（有斐閣）

正木亮「絞首刑は残虐か」法律のひろば五卷四号

木村亀二「刑法の課題——ゼネ・スト、安楽死、死刑」中央公論六七卷七号（一九五二年）

小林正貴「獄中記 生きている死刑囚」小説公園九月号

牧野英一「死刑についての一考察、執行方法の人道化」季刊刑政一卷二号

牧野英一「スイス及びイタリアにおける死刑復活論」季刊刑政一卷二号

前田俊太郎「わが国における死刑の緩和傾向」犯罪学雑誌三号

T・K「死刑論」刑政六三卷一一号

石橋忠男「戦争放棄と死刑廃止に就て」自由と正義三卷一二号

「死刑囚に聖画贈る」刑政六三卷三号

一九五三年

玉井策郎『死と壁——死刑はかくて執行される』（創元社）

木村亀二『断頭台の運命』（角川書店）

青木秀「死刑の医学倫理学的考察」矯正教育四卷四号

青木英五郎「ヴァンゼンティ（サツコ）の裁判（1）（2）」自由と正義四卷九、一〇号

植松正「脱獄死刑囚の心理」文芸春秋三月号

木村亀二「死刑論についての最近の傾向」法律時報二五卷四号、『刑法雑筆』

木村亀二「死刑をめぐる判例の傾向」判例時報五号

小山いと子「犯罪者の人権より良民の人権を——死刑はあってもよいか」婦人公論三八卷三号

杉本太兵衛「死刑」更生保護四卷一〇号

高橋正己「死刑誤判考——欧米に起こった四つの裁判例とその考察」犯罪学雑誌一九卷二号

田中昌太郎「五人は死刑か無罪か」犯罪学雑誌一九卷一号

滝川四郎「再軍備の発音を獄中に聞いて インテリ死刑囚の手記」文芸春秋一月号

滝川政次郎「死刑の早期執行に異議あり」婦人公論三八卷三号

手塚豊「明治初年の死刑数」法学研究二六卷一号

中島健蔵「死刑は廃止すればよいと思う」婦人公論三八卷三号

萩原福三「句作にすぎない死刑囚」地上五二八

平井信也「米国を裁くローゼンバーグ」世界九二号

古畑種基「死刑執行方法に関する法医学的考察」法律のひろば六卷六号

正木ひろし「死刑は廃止すべからず」婦人公論三八卷三号

矢内原忠雄「死刑廃止」嘉信一六卷九号

安平政吉「死刑の刑事政策的意義」『新刑事政策』（巖松堂）

渡辺一夫「死刑について」改造

梅汝璈「法律から見たローゼンバーグ事件」新時代二九号

「死刑はあつてもよいか」婦人公論三八卷三号

「死の恐怖を忘れる死刑囚」週刊朝日九月一三日号

一九五四年

高村晋『日本国憲法における死刑と基本的人権』（松山商大協同組合出版部）

森溪川『獄中の賛美』（基督教文書伝導会）

ローゼンバーグ（山田晃訳）『ローゼンバーグの手紙——愛は死をこえて』（光文社）

小川ゆり子「私は死刑囚の母」婦人朝日一月号

牧野英一「新憲法下におけるわが国の死刑論」季刊刑政二卷三号

牧野英一「イギリスの死刑調査委員会の報告」季刊刑政二卷三号

牧野英一「英米における死刑の問題」季刊刑政二卷三号

向江瑋悦「絞首刑違憲論・死刑廃止論議」法律のひろば七卷三号

木村亀二「死刑と確信犯人」改造四月号、『刑法雑筆』

豊田孝和「死刑廃止か存続か」自由と正義五卷四号

仙台地方刑務審議会「死刑廃止の問題について」刑政六五卷六号

大島正義「絞首刑は憲法三六条に違反するか」自由と正義五卷一〇号

阿部純二「死刑と残虐な刑罰」ジュリスト六八号

原田清司「憲法における死刑論への一考察」横浜市立大学論叢五卷五・六号

木田純一「ソビエト死刑論」東欧文化八号

一九五五年

参議院法務委員会調査室『刑法等の一部を改正する法律案の逐条説明書——死刑の廃止、刑法等の一部を改正する法律案に関する資料（一）』（二六）（参議院、一九五五—一九五六年）

正木亮『死刑』（河出書房）

正木亮「文化の様相と刑罰」社会改良一卷一、二号

向江瑋悦「さらし首廃止論議」法律のひろば八卷二号

「死刑廃止論議」法律のひろば八卷二号

倉光俊夫「女死刑囚」小説公園五月号（

古畑種基「死刑の法医学」科学朝日六月号

安平政吉「死刑は廃止すべきか」警察時報一〇卷六号

榎本高義「死刑囚 齊藤弘のことども」刑政六六卷六号

木村亀二「高まる死刑廃止の声」週刊読売七月三十一日号

古川健次郎「死刑囚と死刑廃止論について」警察公論一〇卷八号

正木ひろし「最近の死刑判決をめぐって」新女苑九月号

有松祐夫「少年死刑囚を読む」自由と正義六卷九号

笠信太郎「素人の立場から」社会改良一卷二号

小田貞順「死を待つ日々の記録」婦人公論四〇卷一二号

木田純一「ソビエトにおける死刑について——ウチエフスキ教授の書簡」法律時報二七卷三号

日沖憲郎「死刑をめぐる議会論争——ドイツ連邦議会の場合」ジュリスト八三号

小川太郎「イギリスの死刑」社会改良一卷一号

座談会（菊池省三〓中山義秀〓児井英生〓吉村廉〓片岡薫〓内海突破〓安部徹〓牧真介〓木室郁子〓堀真

道〓西村高兄〓本田清一〓小川太郎）「少年死刑囚を語る」刑政六六卷七号

佐藤義蔵「死刑是非」刑政六六卷一一号

中島健蔵「応報の思想」社会改良一卷一号

中島健蔵「罪ありて罰あり」社会改良一卷二号

笹内純一「死刑について」警察時報一〇卷六号

黒田節哉「死刑廃止への一考察——その理念と国家社会的地盤」司法研修所報一五号

植松正「死刑存廃論議拾遺」警察時報一〇卷六号

植松正「死刑に関する世論」警察時報一〇卷一一号

一九五六年

調査立法考査局『死刑の存廃に関する外国の実情とその理論』（国立国会図書館）

正木亮「死刑囚と小島」社会改良一卷三号

正木亮「死刑と矯正官の地位」刑政六七卷三号

正木亮「死刑存廃論への一考察」法律のひろば九卷五号

正木亮「死刑と新聞」社会改良一卷四号

正木亮「死刑廃止賛成論」犯罪学雑誌二二卷四号

正木亮「最近の死刑問題」研修九三号

羽仁五郎『死刑廃止と人命尊重——参議院法務委員会の公聴会から』（駿台社）

羽仁五郎「死刑廃止論」世界一二三号〜一二四号、『羽仁五郎戦後著作集第三卷 政治論』

植松正『刑法ノート』（有信堂）

植松正「死刑の存廃」時の法令一九六号

赤城慧『死刑囚——絞首して罪は消えるか』（大衆社）

小泉輝三郎『昭和犯罪史正談』（大学書房）

佐々木一珍「死刑と裁判官と平和憲法と」自由と正義七卷二号

武藤運十郎「死刑廃止は時期尚早」国会九卷二号

正木ひろし「不徹底な死刑廃止論」産経時事二月一二日号

井上勇「ふたつの死刑」世界週報三七卷九号

家永三郎「明治時代の死刑廃止運動」社会改良一卷三号

木村亀二「死刑廃止法案」法学セミナー五月号

木村亀二「死刑」法律学演習講座『刑法』（青林書院）

古川健次郎「死刑制度について」警察学論集九卷四号

古川健次郎「兇悪犯と死刑」判例時報七四号

古川健次郎「日本とイギリスにおける死刑存廃論」法律のひろば九卷五号

古川健次郎「英国の死刑廃止」社会改良二卷一号

古川健次郎「イギリス上院における死刑廃止法案の否決」社会改良二卷二号

古川健次郎「イギリスの死刑廃止」世界週報三七卷一〇号

竹内正「死刑問題の反省」島根大法学二号

渡辺照宏「仏教は死刑をどう見るか」大世界一一卷四号

松村克己「廃止論の基礎がキリスト教にあるか」ニューエイジ八卷三・四号

大槻憲二「死刑廃止運動の批判」精神分析一四卷四号

田畑忍「キリスト教と死刑」ニューエイジ八卷三・四号

芳賀檀「人間性の回復のために」ニューエイジ八卷三・四号

奥津敬一郎「死刑廃止論の根底にあるもの」ニューエイジ八卷三・四号

大谷美隆「法的問題とキリスト教」ニューエイジ八卷三・四号

大谷美隆「死刑廃止論」専修大学論集一一号

阿波利二「ある死刑囚の訴え」ニューエイジ八卷三・四号

本田清一「純粹に良心的な意味で」ニューエイジ八卷三・四号

本南健二「死刑廃止論の『位置』」週刊朝日四月二九日号

小俣延夫「死刑是非考」自由と正義七卷七号

八木国之「死刑存廃の趨向」白門八巻五号

笠信太郎「真に許し難いもの」社会改良一卷四号

シエルドン・グリュック（安倍治夫訳）「死刑についてのほんとうの話」法学セミナー三号

黒川慧「死刑廃止を要望する教育家の声明」レファレンス六五号

長田新「死刑廃止のは非について」社会改良二巻一号

垂水克己他「死刑廃止は是か非か——昭和三十一年五月参議院法務委員会公聴会における口述」犯罪学雑誌

二二巻四号

藤野英一「憲法三十六条（残虐刑の禁止）の違反という意味について」判例タイムズ六一号

林利男「或る死刑囚の遺言書」自由と正義七巻九号

海野晋吉「賛否をめぐるうん蓄」社会改良二巻二号

宮澤浩一「死刑廃止の歴史——西ドイツ連邦共和国を中心として」法学研究二九巻一〇・一一号

牧野英一「死刑廃止法案の上程」季刊刑政四巻四号

安平政吉「死刑は廃止すべきか」経済時代二二巻一一号

向井啓雄「イギリスの死刑廃止——その背景と余波について」中央公論七一巻四号

正宗白鳥「死刑廃止論に対する疑問——懷疑と信仰」中央公論七一巻三号

西村高兄「いわゆる死刑廃止法案について」法律のひろば九巻五号

西村克彦「死刑論の一断面——平野助教授の所説をめぐって」法経協会雑誌一七号

中島健蔵「死刑廃止論の一断面」法学セミナー二二号

滝川春雄「死刑廃止の問題点」経済人一〇卷九号

高田義文「絞首刑の合憲性」(判例批評)『判例注解刑法』

中田主税「死刑廃止の問題」刑政六七卷五号

平松「女学生と死刑囚」刑政六七卷九号

「有期刑執行中死刑判決確定した場合の有期刑の執行停止」刑政六七卷一一号

一九五七年

手島一路『四人の死刑囚』(蘇鉄書房)

青柳文雄「自然法と死刑廃止論」世紀八五号

海野晋吉「三〇余年前絞首刑を見た印象」社会改良二卷三号

正木亮「死刑囚の自殺」社会改良二卷二号

正木亮「刑法改正と死刑廃止(上)」(中) (中)の二(四)「社会改良二卷四号、三卷一号、三卷二号

(一九五七年)、三卷四号(一九五八年)

正木亮「死刑廃止論」ジュリスト一三〇号

正木亮「死刑に代るもの」社会改良三卷二号

手塚豊「絞首刑は縊死刑か」三色旗一〇八号

平林たい子「刑法改正にのぞむ」社会改良二卷四号

石川仲伊「死刑囚と共に」社会改良三卷二号

平野義太郎「最近の死刑廃止論・死刑執行猶予制度」法律時報二九卷二一号

向江璋悦「絞首刑は憲法違反」中央大学新聞一一月五日号

向江璋悦「死刑執行は憲法違反だ」日本週報一一月一五日号

馬越旺輔「死刑を無罪にした喜びを語る」東京弁護士会会報一二号

樋口豊治「二人の死刑囚と小島への愛情」刑政六八卷一二号

牧野英一「イギリス殺人法（一九五七年）の制定」季刊刑政五卷四号

藤木「死刑囚の短歌集」刑政六八卷七号

「米兵死刑囚第一号」週刊朝日四月七日号

「死刑囚監房増設」刑政六八卷六号

一九五八年

アルベール・カミュ（杉捷夫・川村克己訳）『ギロチン』（附J・ブロック・ミッシェル死刑論）（紀伊国

屋書店

刑政六九卷八号「死刑論特集号」

安倍治夫「国連第一二回総会における死刑制限条項案の採択について」社会改良三卷三号

大浦甫「カミユの死刑廃止論」社会改良三卷三号

小川太郎「誤判による死刑」社会改良三卷三号

小川太郎「死刑の効用」刑政六九卷八号

竹内正「アルトハウス『キリスト教倫理学の問題としての死刑』」島根大学論集(社会科学)四号

正木亮「ガイルス・プレイエフエアの死刑は必要かをよんで」社会改良三卷三号

正木亮「死刑廃止の理論活動と運動——明治初年以來今日まで」刑政六九卷八号

正木亮「現代の恥辱」刑政六九卷九号

正木亮「権力と魔力」社会改良四卷四号

正木亮・小野清一郎(対談)「尊い人の命・死刑廃止の問題をめぐって」刑政六九卷四号

林貞夫「死刑囚の歌」自由と正義九卷四号

手塚豊「明治初期の死刑廃止論」法学セミナー二四号

手塚豊「生き返った死刑囚」法学セミナー三〇号

宮坂宏「中国の死刑問題管窺」社会改良三卷四号

宮坂宏「中国の死刑をめぐる——死刑の廃止と死刑の緩刑」刑政六九卷八号

宮坂宏「古代中国の刑政についての二、三の問題」刑政六九卷一二号

木村亀二「ゲーテと死刑」社会改良四卷一号

笠信太郎「古きものと新しきもの」社会改良四卷一号

藤田尚「死の否定」社会改良四卷一号

川村克己「われらすべて死刑執行人」社会改良四卷一号

朝倉京一「死刑の廃止と西ドイツ行刑の立場」刑政六九卷八号

朝倉京一「イギリスにおける死刑を宣告された者の処遇」刑政六九卷一二号

池田恵美「死刑の廃止と人間の進歩」刑政六九卷八号

高橋与三郎「死刑は必要であるか」刑政六九卷八号

長谷川永「死刑は必要である」刑政六九卷八号

松浦冴子「死刑は廃止すべきである」刑政六九卷八号

茄子原子「断腸の記」刑政六九卷八号

山口久一「死刑は不必要である」刑政六九卷八号

荒正人「革命と死刑」法学セミナー三〇号、社会改良四卷二号

判例時報刊行会「拘禁中の死刑囚と基本的人権」判例時報一五九号

松本貞男「死刑囚の処遇問題」矯正教育九卷一〇号

向江瑋悦「絞首刑違憲論」法律のひろば一一卷二二三号

石田武夫「死刑囚と信仰のこと」矯正教育一〇卷六号

西村克彦「絞首刑廃止論——ケストラーの『絞首刑についての考察』」法律のひろば一一卷七号

夏目文雄「アメリカにおける死刑廃止論の動向——その発展課程における人と業績素描（1）（2）」法律

のひろば一一卷一一二二号

カール・シュースラー（夏目文雄訳）「死刑の威嚇的効力」法律のひろば一一卷九号

田原義衛「刑法の死刑の規定の合憲性」（判例批評）『判例注解刑法』

大沢正男「死刑存廃問題をめぐって」山梨学院法経研究二卷一号

藤木「死刑囚の点訳奉仕」刑政六九卷六号

一九五九年

ジェローム・フランク・バーバラ・フランク（児島武雄訳）『無罪——三六の誤判例』（日本評論社）

ロースン・テイバー（田辺五十鈴訳）『私は死にたくない』（荒地出版社）

アーサー・ケストラー（西村克彦訳）『絞首刑』（青林書院）

遠藤義雄『真理は死刑の鎖も断つ』（日本教文社）

岩沢克『実録帝銀事件 白い波の波紋』（現代社）

正木亮「死刑は違憲である」総合法学二巻三号

植松正「死刑は憲法違反ではない」総合法学二巻三号

平松幹夫「ケストラの死刑廃止運動」社会改良四巻四号

平野義太郎「中華人民共和国の刑法および人間改造」季刊法律学二七号

木村亀二「死刑執行人」社会改良五巻一号

木村亀二「絞首と縊首」法学セミナー一月号

日沖憲郎「死刑の将来」時の法令三一五号

長尾治助Ⅱ井上史文「死刑廃止論の反省と理論づけ」山梨学院法経研究三巻一号

樫田忠美「死刑廃止への道——死刑執行猶予制度の提案」法学新報六六巻五号

「シン・シン刑務所の死刑囚の処遇」刑政七〇巻二号

藤木「死刑囚对教誨師野球大会」刑政七〇巻二号

「死刑からくも存置」刑政七〇巻三号

津久井「死刑囚の座談会から」刑政七〇巻三号

玉井「死刑囚点訳と文鳥を盲児に贈る」刑政七〇巻一〇号

一九六〇年

上田誠吉「後藤昌次郎『誤った裁判——八つの刑事事件』」(岩波書店)

向江瑋悦『死刑廃止論の研究』(法学書院)

C・チエスマン(皆藤幸蔵訳)『死刑囚二四五五号』(新潮社)

北山河「北さとり『処刑前夜』」(光文社)

前田信二郎「絞首刑の検討」矯正教育一一卷二号

前田信二郎「死刑の追放」『犯罪と刑罰』

隈崎渡「女子死刑囚断章」白門一二卷三号

小野清一郎「人權の保障における刑事実体法の役割及びに刑事制裁の諸目的及びその適正な限界につい

て」自由と正義一一卷五号

阿部真之助「死刑廃止と国民意識」サンデー毎日七月三日号

正木亮「生命は地球より重い」死刑一号

正木亮「死刑廃止は一步前進した」社会改良五卷四号

正木亮「死刑のゆくへ——刑法典における刑事政策の諸問題(2)」法律のひろば一三卷一二号

板津秀雄「絞刑吏の残酷日記——死刑執行人の苦悩」文芸八月号

笠信太郎「太平楽」社会改良五卷四号

笠信太郎「制度は人の心をつくる」社会改良五卷四号

本田清一「死刑囚にも宣告猶予を」刑政七一巻八号

坂西志保「一人の男の死」社会改良五巻四号

S・ブレヴサー（外間寛訳）「死刑（1）（2）」法律時報三三巻一二号～一三三号

朝倉京一「死刑執行方法を違法とする行政訴訟について」法律のひろば二三巻一一号

木村亀二「死刑とドイツ刑法改正委員会」法学セミナー一一月号

団藤重光「死刑事件と国選弁護人」ジュリスト二二三号

小林高記「死刑論拝見」社会改良六巻一号

佐々木繁典「素朴な復讐心の満足」社会改良六巻一号

西村克彦「刑法改正と社会改良」社会改良六巻一号

所一彦「死刑の合憲性」『判例百選』所収（有斐閣）

千種達夫「絞首刑」判例時報二四二号

竹田直平「立法における死刑——立法上の死刑は廃止すべきでない」甲南法学一卷一号

樫田忠美「死刑廃止への道」『林追悼刑事事法学論集』

岡崎文規「霞のなかの死刑史」法律時報三二巻七号

織田文二「死刑の見せ物」刑政七一巻六号

間山精治「雅樹君の誘かい殺人事件と死刑小論」刑政七一巻七号

「少年非行と死刑」刑政七一巻五号（一九六〇年）

一九六一年

Ｌ・ケネディ（新庄哲夫訳）『処刑された被害者』（新潮社）

ラートブルフ（田中耕孝太郎訳）『ラートブルフ著作集第一巻 法哲学』（東京大学出版会）

木村亀二「奇妙な死刑肯定論」法学セミナー三月号

正木亮「生命の尊重」社会改良六巻三号

正木亮「絞首刑をめぐる諸問題」社会改良六巻四号

正木亮「死刑囚の処遇」刑政七二巻九号

正木亮「蘇った太政官布告」死刑五・六号

正木亮「蘇った太政官布告——最高裁の絞首刑合憲判決批判」法学セミナー六六号

岩松茂「死刑確定者の拘置等について」刑政七二巻五号

大塚郁哉「死刑宣告の法廷」社会改良六巻四号

小橋川昭慶「刑場昔話」社会改良六巻四号

野村正男「絞首刑論の結末」社会改良六巻四号

栗田正「死刑（絞首刑）の宣告は憲法第三一条に違反するか」（判例批評）ジュリスト二三二号

伊藤栄樹「明治六年太政官布告第六五号の効力・死刑の宣告は憲法第三一条に違反するか」警察研究三二二
卷九号

清水洪「死刑囚と音楽」矯正教育一二卷九号

平野利「三人の死刑囚の心境」東京弁護士会会報二二号

佐藤一「死刑被告として一二年」中央公論七六卷一〇号

長谷川永「スウェーデンにおける死刑廃止の歴史」社会改良七巻一号

竹田直平「死刑」刑法雑誌一一卷一・二号

一九六二年

平林たい子『人の命』日本文学全集三八（新潮社）

白石凡「命あつてのもの種」社会改良七卷二号

「仏の慈悲を描いた死刑囚」サンデー毎日四月一日号

林貞夫「或る死刑囚物語——この物語を死刑廃止論者に贈る」自由と正義二三卷六号

前田信二郎「現在の法令による死刑執行方法の違法を主張して死刑を執行される義務を負わないことの確

認を求める訴の適否」(判例批評) 民商法雑誌四六卷六号

正木亮「憲法と死刑」社会改良七卷三号

平林たい子「アイヒマンの死刑」社会改良七卷三号

宮澤浩一「刑事学のパイオニア達、その一、ベッカリアとベンサム」三色旗一七三三号

利光三津夫「平安時代における死刑停止について」法学研究三五卷九号

「死刑囚と法務大臣のハンコ」サンデー毎日一二月一六日号

栗原喜代子「死刑囚Nのこと」更生保護一三卷一二号

武安将光Ⅱ所一彦「日独英三国における生命犯に対する刑の量定」法務総合研究所研究部資料一〇号

木村亀二「残虐な刑罰」社会改良七卷二号

一九六三年

齊藤金作「死刑」『刑法講座一卷』

正木亮「無実の罪」社会改良八卷二号

正木亮「死刑のゆくへ」『刑法と刑事政策』所収（有斐閣）

笠信太郎「暴力的な風土」社会改良八卷二号

森下忠「ニュージールランドに於る死刑廃止の顛末」刑政七四卷七号

「法廷闘争七年半 刑場に消えた男」週刊朝日八月九日号

滝川幸辰「死刑問題への一寄与」『刑法史の断層面』（一粒社）

滝川幸辰「ローマの死刑」『刑法史の断層面』（一粒社）

所一彦「明治六年太政官布告第六五号の効力——死刑の宣告は憲法第三十一条に違反するか」（判例批評）

警察研究三四卷四号

莊子邦雄「死刑と残虐な刑罰」『憲法判例百選』（有斐閣）

市川秀雄「ソーステン・セーリン教授の死刑論」法学新報七〇卷五号

一九六四年

正木亮『死刑——消えゆく最後の野蠻』（日本評論社）

正木亮「戦争と死刑」死刑一〇号

正木亮「生命の重さ」社会改良九卷一号

ユリウス・フチーク（秋山正夫訳）『絞首台からのレポート』（青木書店）

ユリウス・フチーク（栗栖継訳）『絞首台からのレポート』（岩波書店）

佐々木久雄『処刑を待つ日々』（山光書房）

木村亀二「刑法と刑法改正」法学研究三七卷一号（一九六四年）、『刑法改正と世界潮流——

法準備草案の検討』（日本評論社、一九六五年）

改正刑

宮澤浩一「死刑の存廃に関する資料」法学研究三七卷一号

宮澤浩一「死刑存廃論の立場」法学研究三七卷一号

田中精一「ボン基本法における死刑の廃止について」法学研究三七卷一号

青柳文雄「死刑存置論」法学研究三七卷一号

手塚豊「明治六年太政官布告第六五号野効力——最高裁判所判決に対する一異見」法学研究三七卷一号

大塚仁「死刑廃止論」ジュリスト三〇〇号

飯田忠雄「中華人民共和国における刑罰思想と死刑の執行猶予制度」刑法雑誌一三卷二・三・四号

所一彦「絞首刑の執行方法の法的根拠」（判例批評）『刑法判例百選』（有斐閣）

西村克彦「英・仏・独・奥の死刑廃止論」罪と罰二卷一号

大野真義「死刑制度の歴史(1)」阪大法学五二号

植松正「死刑判決への反応——狭山女高生殺害事件判決にちなんで」時の法令四九三号

一九六五年

佐藤寛『宮沢賢治とある死刑囚』（洋々社）

柘植文雄『石の叫び』（毎日新聞社）

有田繁雄「死刑確定者の処遇等の問題」刑政七六卷一一号

アルトウール・カウフマン（宮澤浩一訳）「死刑について」法曹時報一七卷七号（一九六五年）、社会改良

一〇卷二号（一九六六年）、『刑事法論集第五卷』

植松正「平林たい子」古畑種基「正木亮」死刑は廃止すべきか」社会改良九卷三・四号

西原春夫「西ドイツの死刑存廃運動」社会改良九卷三・四号

長谷川永「イギリスの死刑」社会改良九卷三・四号

神崎清「死刑廃止論の立場から」ジュリスト三一三三号

木村亀二「イギリスの死刑廃止法案」法学セミナー三月号

坂本武志「死刑の執行猶予」判例時報四〇五号

下村康正「死刑存廃論問題によせて」白門一七卷二号

土屋正三「西ドイツにおける死刑復活論」警察研究三六卷一号

羽仁五郎「死刑廃止の立法」社会改良一〇卷一号

福島徳良夫「一九六四年謀殺（死刑廃止）法案（イギリス）」外国の立法一七号

藤木英雄「死刑の存廃と殺人犯に対する量刑」罪と罰二卷四号

正木亮「死刑廃止運動一〇年の足あと（1）（2）（3）（4）」社会改良一〇卷一号（一九六五年）、一〇

卷二号、一〇卷三号（一九六六年）、一〇卷四号（一九六七年）

宮坂宏「中国の死刑問題をめぐって」社会改良九卷三・四号

森下忠「フランスの死刑」法律時報三七卷一一号

横山晃一郎「東ドイツと死刑」社会改良九卷三・四号

一九六六年

梁秀庭『ソウルの死刑場』（新興書房）

正木亮「吉益脩夫編『正田昭・沈黙ノート』（みすず書房）

正木亮「死刑問題と矯正官」刑政七七卷一号

太田博也『生きている死者——死刑囚は訴える』（講談社）

網田覚一「死刑の量定——刑事裁判の理論と現実」法律時報三八卷一三三号

大野真義「死刑」社会改良一〇卷二号

トーステン・セリン「死刑は減じる」社会改良一〇卷二号

フランク・ダウトリー（大野真義訳）「イギリスにおける死刑の廃止」社会改良一〇卷三号

福島徳良夫「一九六五年謀殺（死刑廃止）法案（イギリス）」外国の立法二二号

森下忠「フランスの死刑廃止運動」社会改良一〇卷三号

一九六七年

坂西志保Ⅱ中島健蔵Ⅱ笠信太郎『一人の生命は全地球よりも重し』（南窓社）

山口清人Ⅱ久代『愛と死のかたみ』（集英社）

斉藤静敬『死刑再考論』（表現社）

奥村誠「死刑に関する世論調査について」法律のひろば二〇巻一二号

木村亀二「死刑存廃についての世論調査」法学セミナー一二月号

W・クリフォード（田村達美訳）「英国における死刑に関する考察」社会改良一一巻一号

佐伯千仭Ⅱ小林好信「死刑存廃論」『講座日本近代法発展史一一巻』、『近代日本近代法発展史一一巻』

団藤重光「アメリカのガス死刑と電気死刑」『刑法紀行』（創文社）

中島健蔵「革命と死刑」社会改良一〇巻四号

中山勲「死刑合憲論批判——最高裁判例を中心として」阪大法学六一号

西原春夫「死刑存廃論争」『刑事法研究第一巻』

ハンス・W・マテック「死刑の分析」社会改良一一巻一号

正木亮「法務大臣と電気殺」刑政七八巻八号（一九六七年）

正木ひろし「統計に出ない泣き寝入り死刑」アサヒ芸能一〇月二十九日号

八木国之「死刑制度に関する最近の問題点——死刑存廃論以外の」白門一九巻七号

一九六八年

佐藤幸治『生と死の記録』（講談社）

丸山友岐子『逆うらみの人生』（社会評論社）

正木亮『現代の恥辱——わたしの死刑廃止論』（矯正協会）

正木亮『死刑廃止論者——笠信太郎』社会改良一一卷三号

古田大次郎『死の懺悔・或る死刑囚の遺書』（春秋社）

日本犯罪心理研究会『死刑囚の記録』（清風書房）

難波英夫『死を見つめて』（理論社）

大島渚『絞首刑』（至誠堂）

正田昭『夜の記録』（聖パウロ女子修道会）

熊倉武『死刑は刑罰か』社会改良一一卷二号

高木健夫『死刑に対する毛沢東の考え方』社会改良一一卷二号

野村正男『笠さんと死刑廃止論』社会改良一一卷二号

川村克己『死の暴力』社会改良一一卷三号

中川甫『古い衣を脱いで』社会改良一一卷三号

原田香留夫『裁判を通して見たる死刑の在り方』社会改良一一卷三号

別宮貞雄「死刑の不合理」社会改良一一卷三号

木村亀二「死刑廃止百年の国」法学セミナー八月号

斎藤静敬「死刑論の一試論」千葉大学教養部研究報告(A) 一号

墨谷葵「死刑に関する資料」阪大法学六六号

ポール・コルニール(宮本恵生訳)「死刑——この時代錯誤的制裁」『矯正論集』

一九六九年

長部日出雄『死刑台への逃走』(立風書房)

児島桂子『一死刑囚への祈り——歌人・島秋人の生涯』(修道社出版)

ヴァルター・ベンヤミン(高原宏平・野村修編・解説)『ヴァルター・ベンヤミン著作集——暴力批判

論』(晶文社)

小川太郎「刑事政策における諸問題(2) 死刑の問題」警察学論集二二卷一〇号

小川太郎「死刑確定者再審特例法案について」社会改良一一卷四号

香川達夫「死刑」森下編『刑事政策演習』

勝部真長「死刑のなかった日本」更生保護二〇卷六号

川村克己「カミュの死刑論」社会改良一一卷四号

神余正義「死刑と殘虐刑の禁止」(判例批評)判例時報五四六号

木村亀二「死刑の問題」日本学士院紀要二七卷一号

正木亮「死刑囚の恩赦」刑政八〇卷一〇号

正木亮「日本における死刑存廢論」社会改良一一卷四号

一九七〇年

上野裕久『仁保事件』(敬文堂)

大川新作『たたかひの記録——罪を負う』(有信堂)

榎本高義『死刑執行を顧みて』(自己)

小泉輝三郎『三九件の真相——秘録大正・昭和事件史』(読売新聞社)

青地晨「死刑囚島秋人をめぐって」社会改良一二卷一号

淀川長治「死刑ということ」社会改良一二卷一号

秋山哲二「英國の死刑廢止に想う」ジュリスト四四四号

マルク・アンセル(本吉邦夫訳)「二〇世紀後半における死刑」法と人権三号

飯田忠雄「蘆蔚乾の死刑執行猶予問題」神戸学院法学二卷一号

飯田忠雄「中国の死刑執行猶予制度」法律時報四二卷六号

斎藤静敬「死刑存廃の理論と系譜」法律時報四二卷六号

宮澤浩一「死刑廃止の社会的条件——西ドイツとイタリアの場合と中心として」法律時報四二卷六号

柳本正春「イギリスにおける死刑制度の廃止」法律時報四二卷六号

植松正「立法問題としての死刑」時事解説二月二五日号

岡崎格「死刑の存続」罪と罰七卷三号

小川太郎「死刑における正義とは何か」エコノミスト四八卷九号

小川太郎「死刑の問題」『刑事政策の推移と問題』

小川太郎「日本刑事政策史上の人々（その一九）花井卓蔵」罪と罰七卷二号

小川太郎「日本刑事政策史上の人々（その二一）牧野英一」罪と罰七卷四号

菊田幸一「死刑制度と世論」法律時報四二卷六号

木田純一「ソ連の死刑復活と社会的背景」法律時報四二卷六号

畔柳柔太郎「死刑判決に関する量的考察」自由と正義二二卷一一号

滋賀秀三「清朝の判例にあらわれた宗教の私刑——特に私的な死刑に対する国家の態度について」国家学

会雑誌八三卷三、四号

莊子邦雄「死刑の合憲性」『刑法判例百選』（有斐閣）

下村康正「死刑存廃論」下村八木編『刑法総論』

田中澄江「死」更生保護二一巻二号

藤木英雄「死刑廃止をめぐる一、二の問題」罪と罰七巻三号

ホセ・ヨンパルト「死刑廃止の問題をめぐる——特に法律上の立場から」ソフィア一九巻二号

前田俊郎「死刑適用の先例的基準」法律のひろば二三巻一〇号

正木亮「イギリスの死刑永久廃止」刑政八一巻二号

本田正義「自殺した死刑囚」罪と罰七巻三号

一九七一年

正田昭『獄中日記・母への最後の日記』（女子パウロ会）

トニー・パーカー（奥村廉明訳）『死刑への偽証（上）（下）』（成文堂）

中島一衛『わたしは死刑囚』（芙蓉書房）

小川太郎「死刑論の方向」法律のひろば二四巻一一号

木村亀二「死刑の執行延期案の再考」法学セミナー八月号

竹内正「死刑存廃論の一考察」人権通信六巻五号

前田俊郎「ある死刑判決の問題点（1）（2）」上智法学論集一四巻三号、一五巻一号

前田俊郎「死刑適用基準の検討」法律のひろば二四巻三号

前田俊郎「死刑の適用とコンピュータ」法律のひろば二四卷六号

三原憲三「死刑存廃論——史的展開」創価法学一卷一号

八木国之「死刑の執行延期制度の問題性」時の法令七五五号

山下知克「死刑の是非に関する一考察」関西外国語大学研究論集一六号

一九七二年

佐藤誠獄中歌日記『自由か死か』（三恵印刷）

大村行雄「死刑と恩赦」罪と罰九卷二号

青柳文雄「死刑」罪と罰一〇卷一号

生田典久「米国連邦最高裁の死刑違憲判決」ジュリスト五一号

生田典久「米国死刑違憲判決におけるダグラス判事の賛成意見について」ジュリスト五二〇号

斉藤静敬「死刑」大塚Ⅱ宮澤編『演習刑事政策』（青林書院）

佐藤功「党議拘束の緩和——国会への註文の一つ」時の法令七七二・七七三号

鈴木義男「死刑」大塚Ⅱ宮澤編『演習刑事政策』

田島裕「キャリフォーニア州最高裁、死刑は違憲判決をめぐって」ジュリスト五〇四号

田島裕「犯罪と死刑」莊子Ⅱ大塚Ⅱ平松編『刑罰の理論と現実』

野村正男「死刑問題をめぐる国際的潮流」社会改良一二卷二号

前田俊郎「過渡的死刑存置論(1)(2)」法律のひろば二五卷九、一〇号

前田俊郎「死刑存置の計量犯罪学的考察」人権通信七卷一号

三井誠「米連邦最高裁『死刑違憲判決』の検討——『死刑は残虐かつ異常な刑罰』をめぐって」法律時報

四四卷一二号

松尾浩也「アメリカにおける死刑——連邦最高裁の違憲判決によせて」現代法ジャーナル一卷一〇号

野村二郎「現代と死刑」現代法ジャーナル一卷一〇号

宮澤浩一「死刑雑考」現代法ジャーナル一卷一〇号、『刑事法学論集第三卷』

宮澤浩一・斉藤静敬「死刑」宮澤Ⅱ西原Ⅱ中山Ⅱ藤木編『刑事政策講座二卷』

一九七三年

永山則夫『無知の涙』（角川書店）

宇野峰雪「アメリカ連邦最高裁の死刑違憲判決と最高裁の死刑合憲判決」死刑一六号

大久保清「死刑確定後に泣いた最後の手記」新評七月号

斉藤静敬「死刑の検討——現代社会で死刑制度はどのような意味を持ち得るのか」内藤Ⅱ西原編『刑法を

学ぶ』

塚本重頼「死刑の違憲性」判例時報六八六号

中田修「フアター・カナダの事情を特に考慮した、死刑の犯罪防止効果の研究」犯罪学雑誌三九卷一号
ホセ・ヨンプルト||金沢文雄「死刑存廃の問題」『法と道徳——その理論と実践』

一九七四年

森川哲郎『日本死刑史』（日本文芸社）

佐藤誠獄中歌集『処刑地』（東邦出版社）

島秋人『遺愛集』（東京美術）

小木貞孝『死刑囚と無期囚の心理』（金剛出版）

阿部純二「死刑と残虐な刑罰」『憲法判例百選（第三版）』（有斐閣）

大杉剛夫「絞首台からの告発」流動一〇月号

金沢文雄「自然法と死刑」政経論叢二三卷五・六号

佐藤勲平「死刑をめぐる二、三の動向について」警察研究四五卷五号

S・W・スチュアート（大谷實||熊谷蒸佑訳）「刑法における死刑の効果」『現代イギリス刑法』

奈良正路「法律哲学における死刑の階級性」思想八八号

米田泰邦「一人の生命は地球よりも重い」大阪弁護士会編『一億人の刑法』

一九七五年

青地晨『冤罪の恐怖』（社会思想社）

阿部純二「死刑とその存廃論」八木編『刑事政策原論』（酒井書店）

香川達夫「死刑」森下Ⅱ須々木編『刑事政策』所収（法学書院）

椿幸雄「死刑」西原編『判例刑法Ⅰ総論』

藤田貴恵子「アメリカの死刑囚」刑政八六卷七号

「最高裁判事の病氣と死刑囚の運動（アメリカ）」刑政八六卷九号

八木国之「死刑制度に関する改革論」『刑事政策原論』（酒井書店）

宮本英三郎「刑法改正案の死刑をめぐる討議と批判——法務省と日本弁護士会の見解を中心として」横浜

商大論集八卷一・二号

一九七六年

ベッカリーア（佐藤晴夫訳）『ベッカリヤの犯罪と刑罰論』（矯正協会）

ルイス・ナイザー（村上博基訳）『ローゼンバーグ事件の全貌（上）（下）』（文化放送開発センター）

徳富健次郎『謀叛論』（岩波書店）

生田典久「米国連邦最高裁の死刑に関する新判例とその背景」ジュリスト六二六号

出射義夫「死刑事件の弁論」法律のひろば二九卷五号

勝尾鏖三「死を賜うべき」研修三三六号

鴨下守孝「死刑執行方法の合憲性」矯正判例研究会編『裁判例中心行刑実務の基本問題』

左津前武「アメリカにおける死刑の復活——連邦最高裁の死刑は合憲判決をめぐって」刑政八七卷一一号

佐藤多美夫「死刑廃止についての一考察」北海道駒沢大学研究紀要一一号

平出禾「アメリカの死刑論議」法律のひろば二九卷一二号

八木国之「監獄法の改正と近代化への断想」ジュリスト六二二号

一九七七年

日本弁護士連合会編『再審』（日本評論社）

バーバラ・レヴィ（喜多迅鷹・元子訳）『パリの断頭台』（文化放送開発センター）

守川正道『サッコ・ヴァンゼッティ事件』（三三書房）

井射義夫「帝国銀行事件の問題点」『検事物語』（高文堂出版）、『検事の控室』（中央公論社、一九八六

年）

宮澤浩一『刑事政策の源流と潮流』（成文堂）

岩井宜子「死刑と憲法」藤木英雄編『刑法Ⅰ「総論」判例と学説7』

「死刑と憲法」藤木英雄編『刑法の争点』（有斐閣）

小川太郎「一人のアメリカ死刑囚」刑政八八巻五号

吉川経夫「死刑の存廃」法学セミナー二六七号

斎藤充功「宮城刑務所で考えた死刑の是非」宝石四月号

墨谷葵「死刑の犯罪抑止力についての議論」平場還暦祝賀『現代の刑事法学（下）』

辻本義男「イギリスの死刑廃止と世論」犯罪学研究会誌一号

平出禾「アメリカの死刑復活第一号」法律のひろば三〇巻三号

藤田一雄「生きている死刑囚」改造五月号

前田俊郎「今後の死刑減少傾向」犯罪学雑誌四三巻三号

前田俊郎「死刑減少の今後の推移」専大法学研究所紀要三号

三原憲三「死刑存廃論の法的根拠」創価法学七巻一号

宮澤浩一「死刑廃止論の一試稿」『刑事法学論集三巻』

八木国之「死刑制度の展望」小川古希祝賀『刑事政策の現代的課題』（有斐閣）

R・ミールボルM・ミールボル「愛は死を越えて——ローゼンバークの子供たち」文芸春秋二月号

一九七八年

加賀乙彦『宣告』（新潮社）

「死刑囚の死刑志願」潮七月号

吉村昭『メロンと鳩』（講談社）

無実の死刑囚連絡会議『無実を叫ぶ死刑囚たち』（三二書房）

ジェームス・マクレンドン（喜多迅鷹・元子訳）『電気椅子』（パシフィカ）

クリントン・T・ダフィ（柴野方彦訳）『死刑囚』（サンケイ出版）

佐木隆三『閃光に向って走れ』（文芸春秋社）

佐木隆三『復讐するは我にあり』（講談社）

井上正治「刑事訴訟の構造と『事実認定』」ジュリスト六六〇号

岡田紀夫「リボンをつけた死刑囚」新評一月号

小田中聰樹「裁判問題史素描——戦前日本の公正裁判問題と再審制度」ジュリスト六六〇号

鶴飼信成「死刑と憲法」専修法学論集二七号

木野村博生「死刑と無期懲役刑との距離」更生保護と犯罪予防四八号

留岡幸助「死刑存廃の討議」『留岡幸助著作集第一巻』

留岡幸助「死刑廃止論」『留岡幸助著作集第一巻』

能勢弘之『ヨーロッパにおける誤判研究の現状』誤判問題を考える（意見集）——ジュリスト六六〇号
松尾浩也『ミラー事件——アメリカにおける『誤判』の一時例』ジュリスト六六〇号

藤本哲也『死刑と犯罪抑止力』『犯罪学講義』（八千代出版）

藤本哲也『アメリカにおける死刑論争のもう一つの側面』犯罪と非行三五号

布施弥平治『神亀の死刑廃止』日本法学四三卷二号

光藤晃皎『再審からみた事実認定』ジュリスト六六〇号

村田健二他『パネルデスカッション——死刑の報道および立会人制度について』犯罪学研究会誌二号

横山晃一郎『事実認定と最高裁——その史的考察』ジュリスト六六〇号

「特集 刑事裁判と誤判」ジュリスト六六〇号

一九七九年

市川悦子『足音が近づく 死刑囚・小島繁夫の秘密通信』（立風書房）

後藤昌太郎『冤罪』（岩波書店）

青木英五郎『日本の刑事裁判——冤罪を生む構造』（岩波書店）

朴寿南『李珍宇全書簡集』（新人物往来社）

ホーリス・ブリークレイ（大場正史訳）『死刑執行人』（桃源社）

平沢貞道『遺書・帝銀事件』（現代史出版会）

津崎至『屈辱』（サンケイ出版）

佐木隆三『曠野へ』（講談社）

一色次郎『魔性』（三一書房）

秋山駿「犯罪における生の意味——加賀乙彦『宣告』について」波三月号

植松正「死刑の存在意義」研修三七六号

小澤禮一「国際アムネスティ編 死刑」罪と罰一七卷一号

加賀乙彦「三菱銀行事件と死刑」世界四〇一号

齊藤静敬「死刑制度——その存廃をめぐる——粕谷進編『現代の法律問題——時の法を探る』

正田伝「忘れられた死刑囚——財田川事件」創九卷七号

正田伝「続・忘れられた死刑囚——財田川事件再審開始決定」創九卷八号

正田伝「誤判と死刑」創九卷九号

竹内正「死刑問題の一考察」研修三七六号

畑山博「死を見つめる心」少年補導二七七号

三浦綾子「誰の罪か」本七月号

水戸巖「死刑廃止論ノート——国家に殺人の権利はない」インパクション三号

森川哲郎「煉獄の画家 平沢貞道」創九三号

山口三郎「死刑制度への疑問——編集者への手紙」世界五月号

一九八〇年

真蔦栄『私はアリバイのある死刑囚』（汐文社）

後藤昌太郎『無実 冤罪事件に関する一二章』（三一書房）

青柳文雄『日本人の罪と罰』（第一法規出版、一九八〇年）のち『日本人の犯罪意識』と改題、中央公論社、一九八六年）

山本石樹『王朝法制と死刑停廃・恩赦・放免の研究』（明玄書房）

森川哲郎『新版 帝銀事件』（三一書房）

森川哲郎『獄中三十三年 死刑囚平沢と共に生きて』（現代史出版会）

クラーク・ハワード（大庭忠男訳）『処刑のデッドライン』（早川書房）

死刑廃止をすすめるつどい『死刑廃止宣言』（三一書房）

斉藤静敬『新版 死刑再考論』（成文堂）

加賀乙彦『死刑囚の記録』（中央公論）

K・O『さらばわが友』（現代史出版会）

鴨良弼『刑事再審の研究』（成文堂）

佐々木義軌『処刑台に白き道を開く』（中外日報社、一九八〇年、探究社、一九八二年）

二・一七集会パンフ『現代と大逆事件——天皇制と死刑制度を問う』（二・一七集会パンフ委員会）
石橋恕篤『残酷な刑罰について』（富士大学紀要一三巻一号）

一色次郎『冤罪からの出発——死刑制度への問いかけ』（第三文明五月号）

板倉宏『死刑』藤木〓板倉著『刑法案内・刑法理論と常識』

岩本勲『二〇〇年ぶりのギロチン廃止』月報三重法経セミナー三二号

澤登佳人『日本刑務文学の現況』法政理論一三巻二号

倉田哲治『大逆事件と死刑廃止』インパクション五月号

白石凡『人の命は地球より重し』暮らしの手帖六四号

前田俊郎『ある死刑判決の問題点』岩井〓遠藤〓樋口〓平野編『日本の犯罪学6』

三原憲三『死刑廃止論（1）』（創価大学創立一〇周年記念論文集）

菊田幸一『わたくしの死刑廃止論』JCCD一五号

一九八一年

佐藤友之〓眞壁呉『冤罪の戦後史』（図書出版会）

三原憲三『現代に死刑は必要か』（第三文明社）

丸山友岐子『逆うらみの人生——死刑囚・孫斗八の生涯』（社会評論社）

滝川幸辰『滝川幸辰 刑法著作集』全五卷（世界思想社）

加賀乙彦『犯罪ノート』（潮出版社）

K・O『続 さらばわが友』（現代史出版会）

秋山哲治『若干のキリスト教神学者の死刑論』大阪経済法科大学研究所紀要創刊号

浅井敦『執行延期付死刑について』法律のひろば三四卷四号

石橋恕篤『死刑と憲法（1）（2）』富士大学紀要一四卷一号（一九八一年）、二号（一九八二年）

一色二郎『ギロチンよ、さらば——死刑廃止に踏み切ったフランス』第三文明二四八号

金沢文雄『死刑廃止を望む』時の法令一一二六号

兼頭吉市『少年死刑論』JCCD一八号

菊田幸一『永山則夫と死刑』Law School一八号

鮫島武次『死刑と安楽死』日本安楽死協会編『安楽死編集第七集』

中京介『死刑制度をめぐる』警察公論三六卷一一号

西垣内堅佑『死刑囚に言論の自由はあるのか』現代の眼二二卷一二号

森本真吾『フランスの死刑廃止と世論』JCCD二〇号

齊藤信次「死刑制度とその運用はどうすべきか」『向江瑋悦博士追悼論文集』

鈴木義男「国連会議と死刑」罪と罰一八巻二号

勢藤修三「死刑制度（1）」（18）法学セミナー三一五～三三二号（一九八一～一九八二年）

一九八二年

小田中聰樹『誤判救済と再審』（日本評論社）

カール・レーダー（西村克彦・保倉和彦訳）『死刑物語——その起源・歴史・犠牲者』（原書房）

前坂俊之『日本死刑白書』（三一書房）

福岡免田栄さんを守る会（入江良信）『死刑囚免田栄の光芒』（福岡免田栄さんを守る会）

平沢貞道画集刊行会編『痛恨の画布——平沢貞道・獄中画と書簡集』（みやま書房）

筑波昭『昭和四十六年 群馬の春』（草思社）

築山俊昭『無実 李珍宇』（三一書房）

加藤松次『最近の裁判例における死刑と無期の限界——刑事求刑事件を中心として』法務研究報告書六七

卷六号

K・O『真相死刑囚舎房（上）（下）』（徳間書房）

生田典久「少年の家庭歴を減刑事由に考慮しない死刑判決の違憲性——米最高裁判決」ジュリスト七六四

号

石橋怒篤「わが国における絞首刑の法的根拠——太政官布告第六五条の効力について」富士大学紀要一五
卷一号

稲岡彰「怨霊思想と死刑停止」法研論集二六号

海老坂武「死刑論議以前のこととして」世界四三七号

岡野光雄「死刑制度の動向」福田Ⅱ大塚編『刑法総論Ⅱ』

鎌田慧「死刑囚は生還できるか——財田川事件再審裁判報告」朝日ジャーナル二四卷五〇号

黒川芳正「死刑囚考——加賀乙彦『宣告』批判」インパクション一八号

斉藤静敬「死刑」三原Ⅱ斉藤編『刑事政策』（芦書房）

清田義英「中世死罪考」早稲田法学五七卷三号

関力「死刑——現状と課題」大東法学九号

田中克巳「明代の死刑——民俗と法律」成城文芸九八号

辻本義男「死刑存廃論の焦点」JCCD二三号

長尾龍一「死刑」『犯罪学（1）』

西原春夫「生命刑（死刑）の合憲性」『大法廷判決巡歴刑法Ⅰ』

西村克彦「二一世紀の刑法にのぞむ（下）」判例時報一〇三九号

ホセ・ヨンバルト「現在廃止されつつある死刑制度は廃止すべきか」上智法学論集二五卷二・三号

ホセ・ヨンバルト「死刑制度の七つのコントラスト」ソフィア三〇巻三号、JCCCD二二号、死刑廃止の

会報二四号

森川哲郎「宣告午前九時の恐怖——死刑囚の叫びを聞け」現代一六巻五号

森下忠「刑法の旅 ヨーロッパ(2)」判例時報一一三三三号

JCCD編集部「米国最高裁における未成年者への死刑判断」JCCD二二号

一九八三年

アムネステイ・インターナショナル日本支部『世界の死刑事情』(大陸書房)

『世界の死刑拷問事情 Parts 』(大陸書房)

布施弥平治『修訂 日本死刑史』(厳松堂書店)

勢藤修三『死刑の考現学』(三省堂)

E・S・シュナイドマン(白井徳満・白井幸子訳)『死の声』(誠信書房)

辻本義男『史料 死刑廃止論』(成文堂)

高橋良雄『鉄窓の花びら——死刑囚へのレクイエム』(求龍堂、一九八三年、三一書房、一九九〇年)

鎌田慧『死刑台からの生還 無実! 財田川事件の三十二年』(立風社)

井上正仁「アメリカにおける死刑制度の現況——その概観」ジュリスト七九八号

岩井宜子「日本における死刑廃止論の現状」ジュリスト七九八号

上原正夫「注射による死刑の執行——大量処刑の兆し」判例タイムズ四八三三

植松正「刑法の話題7——死刑囚の短歌に想う」時の法令一一七二号

内村剛介「死刑は望まずと言いつつ——スパイに死刑、スパイに英雄」日本及び日本人一五七二号

梅沢利彦「いぜん根強い『応報』の刑罰感——死刑制度に関する日本人の意識をさぐる」朝日ジャーナル

七月二二日号

大出良知「松山事件再審公判傍聴記①②⑩」法学セミナー二七卷一二号〜二八卷九号（一九八三年〜一九

八四年）

大林茂喜「実録・大正の刑事① 連続尼僧殺し事件（前編・中編・後編）」月刊警察一卷一号、二号、三

号

対談（大谷實〓宮澤浩一）「永山事件最高裁判決と死刑制度——死刑存廃論の行方を考える」法学セミナー

一三四五号

加藤松次「死刑・無期量刑選択の変化——判決の傾向」ジュリスト七九八号

菊田幸一「わたくしの死刑廃止論」書斎の窓三〇一号

木下貴司「永山最高裁判決の意義」法律のひろば三六卷一〇号

寒河江洋子「死刑判決から執行までの秘められた実情」朝日ジャーナル二五卷九号

椎橋隆幸「死刑と再審（誤判）」白門三五卷一二号

重松一義「倫理刑としての死刑永久存続論」ジュリスト七九八号

清水範造「元拘置所長の死刑廃止論——編集者への手紙」世界四五二号

下川耿史「死刑囚教誨師・石川好伊」伝統と現代七五号

下村康正「死刑論議昨今」不動産法律セミナー一四卷一〇号

竹沢哲夫「刑事施設法案と死刑確定者——『刑政』増刊号の解説批判」自由と正義三四卷一号

高瀬暢彦「刑罰としての人殺し」捜査研究三二卷三号

高瀬暢彦「瀕死の刑罰としての死刑」捜査研究三二卷四号

高瀬暢彦「絞首刑は残虐ではないか」捜査研究三二卷五号

高瀬暢彦「死刑は廃止すべきか」捜査研究三二卷六号

高瀬暢彦「死刑は存置すべきか」捜査研究三二卷七号

高瀬暢彦「死刑に犯罪抑止力があるか」捜査研究三二卷八号

高瀬暢彦「死刑囚に生き返る権利はあるか」捜査研究三二卷九号

高瀬暢彦「死刑冤罪をどう救済するか」捜査研究三二卷一〇号

高瀬暢彦「死刑存廃論に決着がつくか」捜査研究三二卷一一号

田中開「西ドイツにおける終身自由刑の改革——第二〇次刑法変更法律の施行にちなんで」ジュリスト七

九八号

玉川洋次『犯罪』現象と死刑制度」新地平一〇七号

辻本義男「戦前における日本の死刑廃止論」ジュリスト七九八号

辻本義男「死刑制度を考える」JCCD二七号

戸田信久「外国における死刑制度の現況」法律のひろば三六卷一〇号

中京介『死刑』にとり組む最高裁」警察公論三八卷六号

永野周志「国家の統治構造とえん罪」新地平一〇七号

新倉修「フランスは死刑を廃止した」ジュリスト七九八号

西原春夫「死刑制度を考える——永山事件を契機として」法学教室三八号

荻原滋「無期刑の死刑への変更と二重の危険」判例タイムズ四八三号

原木英夫「絞首台からの告発（１）（２）（３）（４）」ミスター・ダンディ五月号、六月号、七月号、八月

号

日方ヒロ子『殺し頃』にならんようにしようね」新地平一〇七号

福富弘美『死刑台からの生還』『日本死刑白書』朝日ジャーナル二五卷四二号

古川健次郎「永山判決に思う」法律のひろば三六卷九号

松尾浩也『連続射殺事件』最高裁判決をめぐって」ジュリスト七九八号

的場純男「死刑制度と世論について」研修四二四号

「我が国における死刑制度の意義と課題」法律のひろば三六卷一〇号

前坂俊之「全調査Ⅱ明治・大正・昭和の死刑誤判事件①②③④⑤」月刊サーチ一〇卷六号、七号、八号、

九号、一〇号

前田俊郎「死刑と無期の分水嶺——新しい死刑・無期懲役識別表」ジュリスト七八七号

前田俊郎「それからの死刑適用基準——死刑・無期懲役識別再追試結果」法律のひろば三六卷五号

丸山友岐子「死刑制度」Free一〇月号

丸山友岐子「国だからといって人殺しには変わりはない」月刊サーチ一〇卷九号

水戸巖「死刑廃止をすすめるために」新地平一〇七号

三原憲三「被告人の人格に改善可能性が残されているとして、被告人を処した原判決を破棄したうえ無期

懲役に処した事件」創価法学二三卷二号

三原憲三「死刑廃止論(2)」創価法学二三卷二号

宮澤浩一「勢藤修三『死刑の考現学』」法学セミナー三四七号

柳俊夫「永山最高裁判決——その経緯と概要」法律のひろば三六卷一〇号

柳本正春「遠くて、近い道」ジュリスト七九八号

山下知克「死刑囚が死刑を選択できるか」関西外国語大学研究論集三六号

横川敏雄「死刑制度の実感的考察」ジュリスト七九八号

座談会（丸山友岐子Ⅱ杉原美津子Ⅱ庄司宏Ⅱ原桃子Ⅱ木原武彦）「今、なぜ死刑制度廃止なのか」新地平一

〇七号

ローク・M・リード（岩本智子訳）「テキサス州における死刑法制の変遷と現状」ジュリスト七九八号

一九八四年

佐藤秀郎『最後の大冤罪 松山事件』（現代史研究会）

永山則夫『木橋』（立風書房）

免田栄『獄中記』（解説・青地晨）（社会思想社）

木下厚『つくられた死刑囚——再審・松山事件の全貌』（評伝社）

大道寺将司『明けの星を見上げて』（れんが書房新社）

森長英三郎『新編史談裁判①④』（日本評論社）

朴壽南『罪と死と愛と・新版』（三一書房）

死刑をなくす女の会『女たちの死刑廃止「論」』（三一書房）

熊本日日新聞社『検証免田事件——よみがえった死刑囚』（日本評論社）

朝日新聞社『無実は無罪に——再審事件のすべて』（すすさわ書店）

前坂俊之『誤った死刑』（三一書房）

E・フィルポッツ（橋本訳）『溺死人』（東京創元社）

アムネスティ・インターナショナル（辻本義男Ⅱ荻田裕訳）『日本の死刑 アムネスティ代表団 日本派遣

団 一九八三年二月二日～三月三日』アムネスティ・インターナショナル日本支部）

アムネスティ・インターナショナル（辻本義男Ⅱ荻田裕訳）『日本の死刑（アムネスティ代表団日本派遣

報告）』世界四六一号、アムネスティ・ニュースレター一四九号

アムネスティ・インターナショナル（中国研究編集部訳）『中華人民共和国における死刑①②』中国研究

一五六号、一五七号

佐野洋Ⅱ西嶋勝彦『死刑が無罪か——えん罪を考える』（岩波書店）

青木正芳Ⅱ青地晨「有罪から無罪への道」月刊状況と主体一〇四号

青木正芳Ⅱ岡田忠典Ⅱ真部勉「絞首台からの帰還」文芸春秋六二卷一〇号

荒木伸怡「冤罪防止と裁判官の役割」警察研究五五卷七号

飯室勝彦『死刑判決』をいやがる裁判官』死刑をなくす女の会ニュース五号

井口茂「法学軽談義——死刑」不動産法律セミナー一五卷九号

石井三記「カラス事件の法的側面——一八世紀フランスの誤審事件①②」法学論叢一一四卷六号、一一五

卷一 号

石島泰「冤罪を生む司法の病根」文芸春秋六二卷一〇号

稲田輝明「死刑選択の許される規準——無期懲役を言い渡した控訴審判決が検察官の上告により量刑不当

として破棄された事例」ジュリスト八〇五号

岩井宜子「死刑と憲法」、「死刑の適用基準」藤木英雄編『刑法の争点（増補）』

上野芳久「死刑判決と比較均衡審査の要否」判例タイムズ五三七号

上原正夫「死刑囚の事件で明けた米連邦最高裁の新開延期」判例タイムズ五一号

鵜飼信成「死刑の違憲性」『司法審査と人権の法理——その比較憲法史的研究』

遠藤誠「刑の時効——帝銀事件平沢氏に刑の時効は適用されるか？」法学セミナー二八卷一一号

遠藤誠「戒律と死刑」仏教タイムス八月一五号

遠藤誠「仏教と冤罪」仏教タイムス九月一五号

大出良知「解明された誤判の構造——松山事件再審無罪判決の検討」法学セミナー二八卷一〇号

大出良知「財田川事件の検討①②③」警察研究五五卷一二号（一九八四年）、五六卷五号、五六卷一一号

（一九八五年）

大林茂喜「実録・大正の刑事②」ピス健事件（１）（２）（３）（４）月刊警察二卷一、二、三、四

号

大林茂喜「実録・大正の刑事③ 宣教師キャンベル強盗殺人事件（１）（２）（３）（４）」月刊警察二卷五

号、六号、七号、八号

荻田裕「日本の死刑 報告について」世界四六一号

小田中聰樹「再審の二、三の問題について——再審開始決定の効力を中心に」法学四七卷五号

小田島森良・青地晨「松山事件 襟当ての血痕の謎を追う」月刊状況と主体一〇五号

加藤克佳「死刑囚による人身保護令状の請求を棄却する裁判に対する上訴とこれに伴う死刑執行延期請求

の処理方法」判例タイムズ五三四号

鎌田慧「財田川事件（法・光と影）①②③」法学セミナー二八卷二号、三号、六号

鎌田慧「冤罪の闇に目を閉ざした無罪判決——『財田川』再審判決公判に思う」朝日ジャーナル二六卷一

二号

北山六郎「冤罪と再審」部落解放二二二号

小泉祐康「死刑囚再審無罪判決を考える（いま、裁判官は）」法学セミナー増刊・総合特集シリーズ二七

『現代の裁判』

頃安健司「永山判決後における死刑判決の動向」研修四三八号

竹村照雄「生命刑の意味」罪と罰二一巻四号

倉田哲治「北山六郎」島田正雄「竹沢哲夫」座談会・弁護人が語る死刑再審三事件無罪確定の意義」自由

と正義三五卷一一号

雀炳錫「中華人民共和国の死刑制度について」法政論集一二四号

斉藤ヒデ「松山事件 母は訴える」文芸春秋六二卷一〇号

沢田猛「渡辺幸雄「無実の死刑囚 二九年の叫び」——島田事件・再審への道（上）（中）（下）」新日本文

学三月号、四月号、五月号

篠倉満「陪審裁判制のメリットとデメリット①⑥」月刊サーチ一卷一号〜六号

莊子邦雄「死刑の合憲性」『刑法判例百選——総論（第二版）』（有斐閣）

鈴木淳二「菊田幸一」辻本義男「死刑裁判と弁護士——永山事件主任弁護人にきく」JCCD三〇号

墨谷葵「死刑選択の許される基準」ジュリスト八一五号「昭和五八年度重要判例解説」

高田昭正「財田川事件の再審無罪判決」法学教室四六号

田中勝「F・カフカ『死刑判決』——『ある闘いの記録』・『観察』をめぐって」神戸学院大学紀要一七号

田中輝和「松山事件再審無罪判決」法学教室四九号

田畑忍「死刑廃止論者の一人として」死刑をなくす女の会ニュース五号

辻本義男「世界における死刑」犯罪学研究誌八号

辻本義男「ヨーロッパ人権条約と死刑廃止」JCCD三一号

辻本義男「欧米における死刑制度の最近の動向①②」こだち二二（一九八四年）、二三号（一九八五年）、

第二東京弁護士会刑法改正対策特別対策委員会編『死刑制度は必要か——死刑問題討議資料（1）』

辻本義男「死刑」宮澤Ⅱ藤本編『講義 刑事政策』所収（青林書院新社）

手塚豊「近代日本の絞首台」『明治刑法史の研究（上）』手塚豊著作集第四巻』

手塚豊「今泉秀太郎（ボンチ絵画家）の死刑方法改正論」『明治刑法史の研究（上）』手塚豊著作集第四巻』

手塚豊「明治六年太政官布告第六五号の効力——最高裁判所判決に対する一愚見」『明治刑法史の研究

（上）手塚豊著作集第四巻』

手塚豊「明治初年の死刑数」『明治刑法史の研究（上）』手塚豊著作集第四巻』

手塚豊「生き返った死刑囚とその処置」『明治刑法史の研究（上）』手塚豊著作集第四巻』

所一彦「死刑の執行方法」『刑法判例百選Ⅰ総論（第二版）』（有斐閣）

戸田信久「死刑制度をめぐって」研修四二九号

長島敦「死刑——国連第二回諮問グループ会議（昭和四三年・ジュネーブ）」『犯罪防止と犯罪者の処遇国

連と世界の動き』

夏目文雄「死刑選択の許される基準、無期懲役を言い渡した控訴審判決が検察官の上告により量刑不当と

して破棄された事例——連続ピストル射殺魔事件上告審判決」判例評論三〇五号

西宮弘「殺すな——なぜ死刑制度廃止を求めるか」月刊状況と主体一〇三号

野村二郎「死刑と無期」書齋の窓三三九号

樋口和博「日本の裁判 いま昔」月刊サーチー一卷一号

福井厚「免田事件再審無罪判決」ジュリスト八一五号〔昭和五八年度重要判例解説〕

福田年宏「死刑存廃論議に忘れられたもの」犯罪学研究誌八号

フオイベ・C・エルズワース リー・ロス（明治大学犯罪学研究室訳）「死刑と犯罪廃止論者と存置論者に

ついでに精細な調査（正）（続）」法律論叢五六卷六号、五七卷三号

前坂俊之「証拠不十分のまま極刑判決——鹿児島県夫婦殺人事件」月刊サーチー一卷二号

松尾浩也「死刑選択の基準」『刑法判例百選——総論（第二版）』（有斐閣）

丸山義博「『レ・ミゼラブル』を書くまでのヴィクトル・ユーゴー③——『東方詩集』と『死刑囚最後の

日』の問題」東京理科大学紀要・教養編一六号

光藤景皎「免田事件判決」法学教室四〇号

水戸巖「日本の死刑制度廃止は可能だ」旬刊民報二月一五日号

三原憲三「死刑選択の許される規準」創価法学一四卷一号

八木國之「死刑制度廃止論への展望と提案」『新派刑法学の現代的展開』

横川敏雄Ⅱ加藤尚武Ⅱ西部邁Ⅱ畔柳達雄Ⅱ喜田村洋一Ⅱ倉田哲治「座談会 誤判と陪審を語る」自由と正

義三五卷一三三号

文藝春秋六二卷一〇号「特集 司法の犯罪」

一九八五年

アムネスティ・インターナショナル日本支部『死刑——その実態と廃止への道』

日方ヒロコ『ねずみ女は食み破る』(社会評論社)

横山晃一郎『誤判の構造——日本型刑事裁判の光と影』(日本評論社)

横川和夫編著『荒廃のカルテ——少年鑑別所番号一五八九』(共同通信社)

吉田タキノ『裁かれるのはだれか——松山事件』(けやき書房)

村野薫『死刑執行』(東京法経学院出版)

平沢武彦『壁に一枚の絵があつて——わが父は死刑囚・平沢貞通』(徳間書店)

徳永五郎『その人をその人として』(日本基督教団出版局)

澤田東洋男『囚獄の門——ドキュメント・司法記者(パートⅡ)』(現代評論社)

青山与平『真実は生きている——日本巖窟王五十年目の無実』(ぎょうせい)

佐野洋『静かすぎる被告人』(光文社)

佐木隆三『勝ちを制するに至れり 上・下』(毎日新聞社)

木村修康『慟哭の死刑囚歌人 牟礼事件・冤罪を訴え続ける佐藤誠』(暁印書館)

岩川隆『殺人全書』(光文社)

マリエッタ・ジェイガー（村田桂一訳）『スージーはどこへ——我が子を誘拐されて』（成山社）

東京弁護士会刑法改正対策特別対策委員会編『死刑制度は必要か——死刑問題討議資料（1）』

渥美東洋「死刑はアメリカで復活するのか」判例タイムズ五五二号

荒川雅行「アメリカ合衆国の死刑制度に関する文献の紹介（1）（2）」警察研究五六卷一〇号、一一号

荒川雅行「D・C・パルドウス、C・プラスキー、G・ウッドワース『死刑判決の比較検討——ジョージ

ア州の経験科学的研究』警察研究五六卷一一号

飯田滋明「ゲイリー・グットバスター『死刑判決に関する司法審査』警察研究五六卷一二号

石井正雄「死刑制度存廃について論ず」白門三七卷一号

石堂功卓「死刑は是か非か」中京法学二〇卷一号

伊藤栄樹「死刑について——罰則のはなし」時の法令一二五四号

上野芳久「アメリカ及び我国における死刑判決と比較均衡審査①②」国学院大学法研論叢一二号、一三号

上野芳久「陪審の無期刑勧告を覆して死刑を科することの可否」判例タイムズ五五五号

上原正夫「米海軍スパイ事件と連邦死刑法（英米法律事情）」判例タイムズ五六一号

植松正「法務大臣と死刑」法令ニュース三月号

植松正「死刑の時効」時の法令一二五一号

遠藤誠「死刑の時効・再論——奥平康弘教授の批判に答える①②」法学セミナー三〇卷三号、四号

遠藤誠「法務省との衝突をおそれた地裁決定」月刊状況と主体一一五号

遠藤誠「人身保護法と平沢問題」自由と正義三六卷一〇号

遠藤誠「帝銀事件の問題点(上)(下)」救援四月号、五月号

遠藤誠「死刑囚・平沢貞通氏の信仰」仏教タイムス四月二五日号

遠藤誠「人身保護裁判と木魚」仏教タイムス七月五日号

遠藤誠「人身保護請求書、第一回準備書面、第二回準備書面、第三回準備書面、第四回準備書面、第五回

準備書面、東京地裁の人身保護請求棄却決定について」法政理論一八卷二号

大川隆康「死刑再審三事件の無罪確定——人権擁護活動の多様化」自由と正義三六卷三号

大久保治男「死刑——江戸の夜話」戸籍時報三三〇号

大谷實「死刑の時効について」判例タイムズ五五二号

大林茂喜「実録・大正の刑事④ 少女姦魔 吹上佐太郎の犯罪(1)(2)(3)」月刊警察三卷三号、四号、

5号

大林茂喜「実録・大正の刑事⑤ 鈴弁殺し(1)(2)(3)(4)(5)」月刊警察三卷六号、七号、八号、

九号、一一号

岡部保男「再審法改正へ今年こそ」自由と正義三六卷三号

加賀乙彦Ⅱ倉田哲治(対談)「死刑を語る」自由と正義三六卷一〇号

勝尾鏖三「死を賜るべきである」法律のひろば三八卷六号

菊田幸一「辻本義男」死刑問題に関する国会議員の意識」法学セミナー三〇卷一二号

木村修治「獄中からの死刑廃止論」死刑廃止あいち

黒田純吉『死刑廃止論』台頭の好機」週間法律新聞六月二八日号

斎藤豊治「M・E・ウォルフガング」M・メルツナー『序文』警察研究五六卷一〇号

斎藤文夫「最近五年間における死刑問題研究の動向と特徴」犯罪心理学研究二三卷一号

沢登俊雄「応報刑論の再検討と死刑」第二東京弁護士会刑法改正対策特別対策委員会編『死刑制度は必要

か——死刑問題討議資料(1)』

沢登佳人「冤罪を根絶する妙策、圧制から人権を守る砦としての陪審」陪審裁判三〇号

沢登佳人『蓮の糸』を切った人々へ——『時効は死刑執行を促す』論への反論」月刊状況と主体一一六号

沢登佳人「被拘留者に対する死刑の時効の適用に関する法務大臣への意見書」法政理論一八卷一号

沢登佳人「死刑囚の時効について——平沢貞通の人身保護請求事件の顛末と批評(1)」法政理論一八卷二

号

沢登佳人「死刑囚の時効について——平沢貞通の人身保護請求事件の顛末と批評(2)」法政理論一八卷三

号

自由法曹団「再審裁判の動向と評価」法と民主主義一九四号

鈴木淳二「永山最高裁判決を超えて」自由と正義三六卷一〇号

鈴木義男「アメリカにおける死刑——実情と問題点」判例タイムズ五三九号

高橋良雄「死刑執行の実務について」第二東京弁護士会刑法改正対策特別対策委員会編『死刑制度は必要か——死刑問題討議資料（一）』

瀧賢太郎「死刑の確定裁判を受けた者につき刑法——一条二項による拘置がなされている場合における死刑の時効の進行の有無（一）（二）（三）」研修四四五～四四七号

瀧賢太郎「死刑の時効について——東京地裁決定昭六〇・五・三〇、最高一小決定昭六〇・七・一九をめぐって」警察学研究三八卷一〇号（一九八五年）

瀧賢太郎「刑法——一条二項の拘置を受けている者についての死刑の時効の成否」捜査研究三四卷一一号

辻本義男「西ヨーロッパにおける死刑①②」JCCD三二、三三三号

辻本義男「死刑と世論」JCCD三四号（一九八五年）

辻本義男「死刑廃止への道」JCCD三五号（一九八五年）

辻本義男「死刑問題へのアプローチ」ホセ・ヨンバルト編『法と理論（六）』（成文堂）

辻本義男「死刑問題に関する文献」自由と正義三六卷一〇号

辻本義男「死刑問題に関する国会議員の意識」法学セミナー三〇卷一二号

辻本義男「ガイドマップ①②死刑」法学セミナー三〇卷一二号（一九八五年）、三一卷二号（一九八六年）

中京介「平沢死刑囚の人身保護請求棄却」警察公論四〇卷八号

仲武雄「法曹先輩鼻首の怪」自由と正義三六卷八号

中野目善則「Arizona v. Rumsey, 52 U.S.L.W. 4655 (U.S. May 29, 1984)——死刑量刑手続に第五修正の

二重危険禁止条項が適用されるとされた事例」比較法雑誌一九卷三号

西村克彦「極刑に対する日米両国の対応」青山法学論集二六卷三・四号

二村浩一「国際法、国際組織と死刑」自由と正義三六卷一〇号

庭山英雄「死刑の時効——平沢問題を中心として」法学教室五七号

樋口和博「生命（いのち）の重さ」自由と正義三六卷一〇号（一九八五年）

平沢武彦「死刑確定三〇年——帝銀事件の謎」月刊状況と主体一一四号

福田平「死刑の時効について——帝銀人身保護請求事件決定を契機として」判例時報一一六五号

古川健次郎「女性死刑囚」法律のひろば三八卷三号

前坂俊之「誤判による死刑」自由と正義三六卷一〇号

前田俊郎「わが国における死刑死滅の可能性」自由と正義三六卷一〇号

丸山友岐子「死刑囚・孫斗八との交遊録」自由と正義三六卷一〇号

水戸巖「死刑と『倫理』」自由と正義三六卷一〇号

水戸巖「死刑制度の廃止をめざして——死刑は『殺す側』の問題という視点から」月刊状況と主体一一五

号

号

三原憲三「会社幹部二名殺害等の事件について死刑の量刑が是認できるとされた事例」創価法学一五卷一

宮澤浩一「加賀乙彦『死刑囚の記録』——ミネルヴァのふくろう」時の法令一二五四号

森下忠「スペインの死刑廃止」判例時報一一三五号

森下忠「死刑の時効と平沢問題」法律のひろば三八号九号

守山 正「死刑」沢登Ⅱ所Ⅱ星野Ⅱ前野編『刑事政策』（蒼林社出版）

森井嶂Ⅱ斉藤幸夫Ⅱ斉藤ヒデ「二九年目の生還——松山事件の元被告とその母に聞く（インタビュー）」部

落解放二三〇号

安永澤太「法曹先輩梟首刑の惨」自由と正義三六卷八号

JCCD編集部「死刑囚と教誨師——某教誨師に聞く」JCCD三四号

和島岩吉「人権と死刑」『和島岩吉人権論稿——弁護私生活五〇余年と人権』

自由と正義三六卷一〇号「特集 死刑」

一九八六年

佐藤清彦『「大冤罪」 死後、犯人出ず』（イクオリティ）

谷口優子『蒼茫の獅子』（立花書房）

団藤重光『この一筋につながる』（岩波書店）

遠藤誠『帝銀事件裁判の謎』（青山館）

客野澄博『放火魔——死刑囚・古川義雄連続放火事件』（東京法経学院出版）

三原憲三『尊属殺人と裁判』（第三文明社）

日本弁護士連合会『続・再審』（日本評論社）

日向美則『沈黙の絶叫——死刑囚の愛と信仰』（京都修道院出版部）

古川泰龍『死は救えるか——医療と宗教の原点』（地湧社）

W・アラン・ウィルバー（内田一郎訳）『アメリカ合衆国の連邦最高裁判所とデュー・プロセス・オブ・ロ

ーの保障』（早稲田大学比較法研究所）

青木英五郎著作集刊行委員会編『青木英五郎著作集第一巻 裁判官の法意識』（田畑書店）

アントニ・コシチ『ポーランドにおける法と道徳』（名古屋大学出版会）

東京三会死刑シンポ実行委員会『死刑廃止を考える——シンポジウム「死刑制度は必要か」』（東京弁護士

会・第一東京弁護士会・第二東京弁護士会）

浅利祐一『アメリカ合衆国連邦最高裁判所における死刑の違憲審査基準（1）（2）』（北大法学論集三六巻

四号（一九八六年）、三八卷四号（一九八八年）

稻田輝明「1. 死刑選択の許される基準 2. 無期懲役を言い渡した控訴審判決が検察官の上告により量刑不当として破棄された事例」法曹時報三八卷二号「最高裁判所判例解説」

今上益雄「死刑の確定裁判を受けた者が刑法第一一条第二項に基づき拘置されている場合における死刑の時効の進行の有無——『帝銀事件』人身保護請求事件（昭和六〇・七・一九最高一小決）」東洋法学二九卷一号

上野芳久「未決勾留中の良好な態度は死刑事件における減輕事由となるか（アメリカの刑事新判例紹介——一六）判例タイムズ六一六号

遠藤誠「国家権力の解体なくして真の死刑廃止はない」救援二月号

遠藤誠「最高裁判例と諸行無常」仏教タイムズ四月五日号

遠藤誠「平沢貞通氏の死刑の時効」新雑誌X七月号

遠藤誠「ああ顛倒夢想」仏教タイムズ六月一五日号

遠藤誠「帝銀事件・再審請求棄却について」週刊法律新聞九月二六日号

遠藤誠「裁判所の二枚舌」新雑誌X十一月号

遠藤誠「帝銀事件の再審請求棄却」新雑誌X十二月号

大林茂喜「実録・大正の刑事⑥ バラバラ事件 六反池のおりえ殺し（1）（2）（3）（4）」月刊警察四

卷七号、一一号（一九八六年）、五卷三号、五号（一九八七年）

小川太郎「改正刑法草案への提言」『亜細亞法学二〇卷一・二号』

菊池さよ子「死刑囚処遇改善の問題点」『監獄法改悪』所収（緑風出版）

小西吉呂「ウィリアム・C・ベイリイ」『抑止と死刑のリサーチにおけるデータの分析作業——シカゴにおける謀殺罪の事例』『警察研究五七卷一号』

河野通弘「ウェルシュ・S・ホワイト」『死刑事件における精神医学鑑定と修正五条の特権』『警察研究五七卷八号』

小山雅亀「ウィリアム・J・バウアーズ」『ファーマン判決後の死刑法のもとでの恣意性と差別のひろがり』『警察研究五七卷一一号』

佐木隆三「一家五人惨殺に判決、死刑は多発傾向」『サンデー毎日』一月一九日号

佐藤昭夫「三〇年間の拘置と死刑の時効——平沢貞通氏の人身保護請求事件、東京地裁昭和六〇年五月三〇日決定に関連して」『早稲田法学六一卷二号』

佐藤雅美「サム・G・マクファアランド」『死刑は殺人罪に対して短期的抑止効果をもつか？——アメリカにおける最近の四つの死刑執行の効果についての研究』『警察研究五七卷一〇号』

瀬田川昌裕「死刑制度について」『秋田法学七号』

武田誠「G・リチャード・ストレイファ」『死刑志願』『警察研究五七卷三三号』

辻本義男「死刑制度と世論」JCCD三九号

西村克彦「極刑と日米両国の憲法」『日本国刑法の前途』所収（成文堂）

西村克彦「刑の時効という制度について」『日本国刑法の前途』所収（成文堂）

萩原滋「死刑を選択する陪審の責任を軽んじさせる検察官と死刑判決の有効性」判例タイムズ五七五号

早川武夫「アメリカの死刑観このごろ」法学セミナー三一巻五号

松山巖「世紀末の一年(1)(2)」朝日ジャーナル一月三日号、一七日号

宮崎英生「死刑に反対する陪審員の排除基準」判例タイムズ六〇九号

山名京子「ブライアン・フォースト『死刑と抑止作用——実証は対立しているか』」警察研究五七巻七号

由比宏忠「責任についての一考察——死刑を中心として」早稲田法学六一巻三・四号

「死刑問題に関する国会議員に対するアンケート結果」JCCD三六号

「裁判官と死刑——元裁判官に聞く」JCCD三八号

「死刑廃止運動のあり方」JCCD三七号

「死刑執行の法的根拠に再び憲法上の論議を」JCCD三八号

「誤判の死刑執行 一九八五年アメリカ犯罪学会年次報告紹介 News Box」ジュリスト八五三三号

「KBGの迫害と孤独に耐えた精神と愛の記録チャランスキーがいま語る獄中の九年間」ニューズウィー

ク二月二七号

「死刑の是非に一石 米最高裁の判決 死刑制度反対論の一角がくずれる」 ニューズウィーク五月二九日号

「いのちの刻印——ある教誨師の回想」 毎日新聞・北海道版三月二十八日～四月八日

「一審死刑 廃止論者に衝撃を与えた『朝倉』この残虐 東京練馬一家五人殺し」 週刊読売一月一九日号

一九八七年

勝田清孝『冥海に潜みし日々』（創出版）

小笠原和彦『李珍宇の謎』（三一書房）

小坂井澄『死刑囚生きる』（徳間書店）

ホセ・ヨンパルト『刑法の七不思議』（成文堂）

ナワル・エル・サーダウイ（鳥居千代香訳）『〇度の女——死刑囚ファイルダス』（三一書房）

樋口和博『峠の落とし文』（立花書房）

アムネスティ・インターナショナル編（辻本義男・辻本衣佐訳）『アメリカの死刑——アムネスティ・イ

ンターナショナル報告書』（アムネスティ・インターナショナル日本支部）

藤井嘉雄『御定書百箇條と刑罰手続』（高文堂出版社）

谷口優子『尊属殺人罪が消えた日』（筑摩書房）

日本死刑囚会議Ⅱ表の会編著『死刑囚からあなたへ——国には殺されたくない』（インパクト出版会）

遠藤誠『帝銀事件と平沢貞通氏』（三一書房）

合田士郎『そして、死刑は執行された』（恒友出版）

フランツ・シュミット（藤代幸一訳）『ある首斬り役人の日記』（白水社）

白砂巖『雪冤 島田事件——赤堀政夫はいかに殺人犯にされたか』（社会評論社）

澤地和夫『殺意の時』（彩流社）

牟礼事件全国連絡会『いわれなき罪に問われて——牟礼事件の事実』（牟礼事件全国連絡会）

モンテスキュー（野田良之Ⅱ稲本洋之助Ⅱ上原行雄Ⅱ田中治男Ⅱ三辺博之Ⅱ横田地弘訳）『法の問題』上

巻・中巻』（岩波書店）

平田直人『賽の河原に積む石いくつ——罪を詠む日々』

秋山哲治『死刑囚の時効について』同志社法学三九卷一・二号

アムネスティ・インターナショナル（辻本義男訳）『西ヨーロッパにおける死刑——一九八六年改訂版』J

CCD四〇号

アムネスティ・インターナショナル編（辻本義男訳）『西ヨーロッパにおける死刑の現況』中央学院大学

総合科学研究所紀要五巻一号

H・ベドウ（上野芳久）「死刑とアメリカ州憲法上の権利」JCCD四二号

遠藤誠「永山則夫君の事件」新雑誌X二月号

遠藤誠「国家が握る生殺与奪の権」仏教タイムス一月一五号

遠藤誠「大島噴火と国家秘密法」新雑誌X三月号

遠藤誠「平沢貞通老、重症！」仏教タイムス三月一五号

遠藤誠「平沢貞通さんを救おう」大法輪六月号

遠藤誠「帝銀事件平沢貞通老」跳竜六月号

遠藤誠「永山則夫君への死刑判決」仏教タイムス六月一五号

遠藤誠「平沢貞通老、死す」新雑誌X七月号

遠藤誠「人間の死を弄ぶものは」仏教タイムス七月二五号

遠藤誠「法務省、発狂す」新雑誌X八月号

遠藤誠「平沢貞通氏の恨みは必ず晴らす」月刊タイムス八月号

遠藤誠「無能な弁護士」新雑誌X九月号

遠藤誠「外相と内徳のさとし」仏教タイムス九月五日号

大和田徹「小樽から見た帝銀事件」創一七卷七号

大塚公子「死刑執行人の苦悩と現実 ①⑩」創三月号〜一二月号

大林茂喜「実録・大正の刑事」⑦ 仮面の牧師 島倉儀平の犯罪(1)(2)(3)(4) 月刊警察五卷六号、

七号、八号、一〇号

岡村青「波崎事件は冤罪」で広がる支援の輪 朝日ジャーナル二月二七日号

尾崎良康「死刑の時効について(1)(2)」愛知教育大学社会学論集二七号(一九八七年)、二八号(一九

八八年)

海保眞夫「絞首台と十八世紀の文人たち」学鑑八四卷九号

河上和雄「死刑について 法のうちそと(3)」月刊警察五卷八号

菊田幸一「死刑と意思の自由」JCCD四一号

菊田幸一「死刑と世論」明治大学社会科学研究所紀要二六集(二五卷二号)

菊田幸一「『意思』『責任』と死刑」法律論叢六〇卷二・三合併号

小山雅亀「死刑の恣意的・差別的適用——McCleskey 判決を中心に」西南学院大学法学論集二〇卷二号

佐久間哲夫「『冤罪』を詠む歌人死刑囚の三五年」中央公論一〇二卷一三三三

佐木隆三「死刑囚平沢貞通の死と残された謎」婦人公論七二卷七号

佐藤雅美「H・A・ベドウ『ペンサム』の功利主義的死刑批判」警察研究五八卷五号

三枝有「死刑選択の基準——永山事件判決より(昭和五八・七・八・最高二小判決)」中京法学二二卷二号

高田卓爾「帝銀事件の残したもの——その教訓と課題」法学教室八四号

滝鼻卓雄「死刑事件の新局面」受驗新報三七卷五号

G・カイザー(竹村典良)「犯罪学の焦点から見た死刑」JCCD四二号

竹村照雄「生命刑について」受驗新報一二月号

竹村照雄「生命刑を考える」法の支配七一号

高橋良雄「死刑廃止を訴える元東京拘置所長」猪瀬直樹『死を見つめる仕事』(新潮社)

猪瀬直樹「(高橋良雄)死刑囚は我が師なり」『日本凡人伝——死を見つめる仕事』(新潮社)

辻本義男「アメリカと西ヨーロッパにみる死刑制度の動向」法学セミナー三二卷二号

辻本義男「アメリカにおける死刑と精神異常者の問題」中央学院大学法学論叢創刊号

T・セリン(辻本義男)「死刑」JCCD四二二号

仁科雅治「R・レムパート」『一九八〇年代における死刑——シンポジウムを振り返って』警察研究五八卷
一号

仁科雅治「R・ペイターノスター」『被害者の人種及び犯罪の分布——サウス・カロライナ州における死刑
の求刑』警察研究五八卷二号

野村二郎「平沢の死と刑事司法」アーティクル一六号

荻野茂「連続殺人犯・勝田清孝会見印象記」創四月号

平田勝雅Ⅱ西山雅明Ⅱ小山雅亀Ⅱ横溝秀樹「死刑に関するアンケート調査」西南学院大学法学論集二〇卷

二号

福田育子「マイケル・L・ラディットⅡマーガレット・バンディバー」『フロリダ州最高裁と死刑上告』警察研究五八卷三号

藤本哲也「カナダにおける死刑廃止」比較法雑誌二一巻一号

増本弘文「D・アーチャーⅡR・ガートナーⅡM・ベイテル」『殺人と死刑——威嚇仮説の国際的な比較検討』警察研究五八卷四号

三原憲三「死刑執行方法の合憲性」

菊田編著『判例刑事政策——矯正処遇編』（新有堂）

村井敏邦「カリフォルニア最高裁判所首席判事の再任拒否と死刑問題」一橋論叢九八卷五号

村越明「義兄・平沢貞通の四〇年」文芸春秋六五卷八号

森川澄子「無念の死——平沢貞通と関わった二五年」創一七卷七号

百瀬武雄Ⅱ松永栄治Ⅱ安森幹彦Ⅱ吉田弘之Ⅱ青木信人「殺人及び強盗致死事件に見る量刑の変遷と地域間格差」法務総合研究所研究部紀要三〇号

百瀬武雄「殺人及び強盗致死事件に見る量刑の変遷と地域間格差」

研修四七〇号

横藤田誠「心神喪失者の死刑執行と修正八条、一四条」判例タイムズ六四二号

横溝秀樹「死刑と無期の情状に関する考察——刑種選択の当否が争われた近年の判例の比較を中心とし

て」西南学院大学大学院法学研究論集五号

吉田敏雄「死刑」『行刑の理論』（慶応通信）

松永栄治「量刑の時代的変遷と地域間格差について」罪と罰二四巻四号

木村静子「死刑の判決」時の法令一三〇二号

中京介「死刑をめぐる」警察公論四二巻六号

後義輝「死刑廃止と精神障害者人権法の確立①②③」スズラン一〇巻九号、一〇号、一一号

「特集 死刑」週刊読売三月二九日号

「死刑の現場——元検事が語る『私が立ち会ったその瞬間』」週刊読売三月二九日号

大塚公子「最後のボタンを押す刑務官たちの証言」週刊読売三月二九日号

佐藤清彦「奇談再現 生き返った死刑囚」週刊読売三月二九日号

「確定囚二五人の犯歴と近況」週刊読売三月二九日号

「諸外国にみる死刑再審事情」週刊読売三月二九日号

「特集 死刑を考える」朝日ジャーナル四月二四日号

藤森研「命と命の果てしない螺旋 取材帳をめくって」朝日ジャーナル四月二四日号

益永利明「死刑囚による死刑廃止論」朝日ジャーナル四月二四日号

荒井まり子「死者に謝罪し続ける日々」朝日ジャーナル四月二四日号

インパクション五〇号「特集 死刑執行停止へ向けて」

麻生令彦「フランスはいかにして死刑を廃止したか」インパクション五〇号

菊池さよ子「いま死刑NO!というために」インパクション五〇号

大道寺将司「『確定死刑囚』の壁を超えて」インパクション五〇号

丸山友岐子・菊池さよ子・杉浦明（座談会）「死刑廃止運動をどう闘うか」インパクション五〇号

日本死刑囚会議・麦の会「矢部光男さん、大坪清隆さんの処刑糾弾！」インパクション五〇号

「最近の死刑論・死刑事情（1）——国連ニュースレター死刑特集号」JCCD四二号

「死刑判決の裏に人種差別の影？」ニューズウィーク五月一四日号

「死刑廃止論を遠のかせる功明ちゃん誘拐殺人事件のこの残虐」週刊読売一〇月四日号

「未成年者の死刑で論争」ニューズウィーク一〇月八日

「元死刑囚監房掃夫が書いた『死刑囚棟』の人間ドラマ」週刊サンケイ一二月五日号

刑事判例研究会「刑事判例研究(5) 死刑選択の基準——永山事件判決より」中京法学二二巻二号

一九八八年

小林穂波『死刑執行人からの手紙』（悠飛社）

アムネスティ・インターナショナル編（辻本義男訳）『西ヨーロッパにおける死刑の現況』（アムネスティ）

イ・インターナショナル

和多田進『ドキュメント帝銀事件』（筑摩書房）

平沢武彦編『われ、死すとも瞑目せず——平沢貞道獄中記（毎日新聞社）

斉藤充功・岡田晃房『ルポルタージュ 七つの刑務所プラス1』（時事通信社）

佐々木満『文学に現れた罪と罰（外国編）』（矯正協会）

梶谷善久『誤診・誤判・誤報』（恒和出版）

大塚公子『死刑執行人の苦悩』（創出版）

小沢信男『犯罪百話 昭和篇』（筑摩書房）

高田正之『鞭と鎖の帝国——ホメイニ師のイラン』（文藝春秋社）

合田士郎『続 そして、死刑は執行された』（恒友出版）

甲斐仁志『狭山事件を推理する——Vの悲劇』（三一書房）

高柳真三『江戸時代の罪と刑罰抄説』（有斐閣）

ジョン・スウェイン（大場正史訳）『西洋拷問刑罰史』（雄山閣出版）

チンギス・アイトマーフ（佐藤祥子訳）『処刑台』（群像社）

渡辺清『歌集 星よ輝け』

渥美東洋『死刑と適正手続』『刑事訴訟を考える』（日本評論社）

菊田幸一『死刑——その虚構と不条理』(三一書房)

阿南成一「死刑——法律論を超えて」アーティクル二八号

いのうえせつこ「かながわ・ストップ・ザ・死刑」死刑停止会議ニュースレター〇号

植松正「歌人となった死刑囚」法令ニュース二三卷八号

植松正「死刑存廃の論議」時の法令一三五九号

内坂晃「義の冠」からしだね四九号

上田都史「北山河」小沢信男『犯罪百話 昭和篇』(筑摩書房)

遠藤誠「帝銀事件の人身保護請求事件」法令ニュース四月号

遠藤誠「連続ピストル射殺魔永山則夫君の事件」法令ニュース六月号

遠藤誠「帝銀事件は生きている」財界展望九月号

大岡昇平「李少年は果たして兇悪か」小沢信男『犯罪百話 昭和篇』(筑摩書房)

大塚公子「切実に死刑廃止を望む刑務官たち——『死刑執行人の苦悩』を書き終えて」死刑停止会議ニュースレター〇号

大場智彦「アメリカの死刑制度論争①②」警察時報四三卷一、三号

大林茂喜「実録・大正の刑事⑧ 浅草の薪炭商一家塵殺事件(1)(2)(3)(4)」月刊警察六卷二号、

三号、四号、五号

大林茂喜「実録・大正の刑事」⑨ 二人の真犯人 大森おハル殺し(1)(2)(3)「月刊警察六卷六号、八号、九号」

大林茂喜「実録・大正の刑事」⑩ 死刑から無罪 函館の丸山楼主殺し(1)(2)(3)「月刊警察六卷一〇号、一一号(一九八八年)、七卷一号(一九八九年)」

岡田和郎「死刑ラッシュ批判される——国連人権専門委員会報告」死刑停止会議ニュースレター〇号
加藤久雄「刑事政策的視点による死刑廃止への一考察」法学研究六一卷二号

ウィリアム J・ブレナン J r. (金原恭子訳)「合衆国最高裁からみた憲法裁判と死刑」アメリカ法一九八八年一号

覚正豊和「死刑制度廃止に向けて——法律界での本格的検討望む」週刊法律新聞六月一七日

覚正豊和「死刑停止連絡会議正式に発足——呼びかけ人総会報告」死刑停止会議ニュースレター〇号
菊池さよ子「六月、大阪で二名執行——執行数の増加が心配」死刑停止会議ニュースレター〇号

倉田哲治「血塗られた手をおのかせている殺人者をも救いたい」死刑停止会議ニュースレター〇号

菊田幸一「死刑と無期刑の限界」JCCD四四号

菊田幸一「死刑囚の母親に聞く」JCCD四五号

菊田幸一「死刑執行停止連絡会議の発足」JCCD四六号

菊田幸一「風速 平安時代の死刑停止を現代に」JCCD四六号

菊田幸一「精魂を傾け死刑執行停止の実現の努力」死刑停止会議ニュースレター〇号

近藤一男編「ある死刑囚の歌集『落梅』」(1)(2)(3) JCCD四五号、四六号(一九八八年)、四七号(一九八九年)

田畑忍「死刑の廃止・死刑の執行停止とヒューマニズム」死刑停止会議ニュースレター〇号

古賀宏之「死刑相当とは」罪と罰二五卷三号

小堀久男「死刑は合憲か」追手門経済論集二三卷一号

佐木隆三「こんにちは、事件屋です」小沢信男『犯罪百話 昭和篇』(筑摩書房)

佐木隆三「殺人事件は減少、死刑判決は急増、なぜか」週刊ポスト一二月一六日号

佐木隆三「連続誘拐殺人事件 女の単独死刑判決と男の責任」婦人公論七三卷四号

佐竹伸彦「紫陽花がいくども・歌人若松善紀のこと」死刑と人権九月号

鈴木淳二「大塚公子」弁護士さんと死刑事件を語る「死刑停止会議ニュースレター〇号

柴田光蔵「ギリシャの死刑・ローマの死刑」時の法令一二三二二号

瀬戸内寂聴「考えてみよう死刑廃止」東京新聞十一月一〇日

高橋良雄「天国と地獄」小沢信男『犯罪百話 昭和篇』(筑摩書房)

竹田直平「立法における死刑」『刑法と近代法秩序』(成文堂)

武田和夫「永山裁判に問われるべきこと——私にとつての『死刑廃止』」文藝夏号(三七卷二号)

辻本義男「少年と死刑——最近のアメリカの事例」法の支配七二号

辻本義男「カナダ首相の死刑復活反対演説」JCCD四四号

辻本義男「リビア——緑の革命、死刑廃止を提案」JCCD四六号

辻本義男「市民のための反死刑読本 死刑の不条理性を実証 ぜひ一読を」死刑停止会議ニュースレター

〇号

辻本衣佐「中国の公開処刑」JCCD四五号

手島史夫「世界の死刑状況 アムネスティの報告から・・・」死刑停止会議ニュースレター〇号

ラリー・コックス（長沢三枝子訳）「死刑——人権からの考察（前）（後）」アムネスティ・ニュースレター

一九〇、一九一号

中空壽雄「Ford v. Wainwright, U.S. 106 S. Ct. 2535 (1986)——心神喪失者に対する死刑の執行と第八

修正」アメリカ法一九八八年一号）

林董一「尾張藩の火刑について」『法と刑罰の歴史的考察——平松義郎博士追悼論文集』（名古屋大学出版

会）

羽山忠弘「花の国号の海賊」法律のひろば四一巻一一号）

エドワード・ブジョストフスキー「合法的な殺人である死刑制度」『不思議な日本人』（東研出版）

本田靖春「遺書」小沢信男『犯罪百話 昭和篇』（筑摩書房）

丸山友岐子「メジャーにしたい死刑廃止運動」死刑停止会議ニュースレター〇号

正延哲武「異様な死刑判決書①②」創一八卷三、四号

正延哲武「島田事件、ついに結審 検察側『石山意見書』の虚妄を撃つ」創一八卷一〇号

松永栄治・吉田弘之「強盗致死事件判決に見る量刑因子の数量化」法務総合研究所研究部紀要刑事政策研究

究三一

町田朔二「篠塚一彦「死刑の適用規準」アーティクル二六号

三原憲三「わが国における死刑の歴史的展開（１）（２）（３）」朝日法学論集創刊号（一九八八年）、二号

（一九八九年）、三号（一九九〇年）

向井武子「死刑廃止について——運動の中からの報告」からしだね四九号

森英樹「死刑の執行方法と法定手続（昭和六三・二・一九名古屋高判）」法学セミナー三三卷八号（

山下知克「アメリカにおける未成年者の死刑論議」関西非行問題研究二二・一三三

結城洋一郎「死刑囚の人権と刑の時効について——東京地裁六〇・五・三〇決定を素材として」小樽商科

大学・商学討究三九卷一号

湯川洋「イギリスにおける刑の上限に対する考え方」名城法学三七卷別冊

ホヤ・モハ・ネー「Die Vollstreckung der Todesstrafe in Japan', The Review of Comparative Law,

1988, Vol.1, Lublin, Poland.

和島岩男「私の死刑廃止論」アーティクル二二二号

「大阪・短大生刺殺事件」サンデー毎日二月二一日号

「悪魔の心を持つ女が味わう天国と地獄」サンデー毎日二月二八日号

「見せしめのため公開処刑——パキスタン 五歳の子供を殺したかどで・・・」アサヒグラフ三月二五日号

「最後まで数珠を握りしめて——朴大統領射殺犯『処刑現場写真』公表の意味」フォーカス五月二〇日号

「朴大統領を射殺した金戴圭KCIA部長の罰——絞首刑の瞬間が韓国マスコミで公表された事情」フラ

イデー五月二七日号

「電気イスを待つ米国の未成年犯罪者」朝日ジャーナル五月二七日号

「廃止を』『停止を』で盛り上がった集会」朝日ジャーナル七月一日号

「死刑と無期懲役のはざま——下井草一家四人殺人放火事件」法学セミナー四〇一号

「安楽死を切望する終身犯」刑政九九巻四号

一九八九年

大野正男・渡部保夫編『刑事裁判の光と陰』（有斐閣）

渡部保夫Ⅱ伊佐千尋『病める裁判』（文藝春秋）

ジョナソン・グリーン編・刈田元司・植松靖夫著訳『最後のことば 聖者から死刑囚まで』（社会思想社）

澤地和夫『監獄日記 東京拘置所の四季』（彩流社）

山崎百合子『死刑囚からの恋うた』（草思社）

伊佐千尋『島田事件』（潮出版社）

アムネスティ・インターナショナル編（辻本義男訳）『死刑と人権 国が殺すとき』（成文堂）

ダニエル・アラス（野口雄司訳）『ギロチンと恐怖の幻想』（福武書店）

モニク・ルバイイ編（柴田他訳）『ギロチンの祭典』（ユニテ）

クレリー他著 ジャック・ブロス編（吉田春美訳）『ルイ十六世幽囚記』（福武書店）

鈴木鶴子『江藤新平と明治維新』（朝日新聞）

K・B・レーダー（西村克彦・保倉和彦訳）『図説死刑物語』（原書房）

谷口正孝『裁判について考える』（勁草書房）

恒友出版編『そして死刑は執行された 三 元死刑囚たちの証言』（恒友出版）

自由法曹団編著『ザ・代用監獄』（白石書店）

赤堀政夫『寺沢暢紘』江口良子「四人目の生還者赤堀さんに近況を聞く」死刑停止会議ニュースレター三

号

浅野健一「ジャカルタから見た死刑と犯罪報道」JCCD五〇号

安形静男「日本の死刑廃止論者（1） 安部磯雄」 JCCD五〇号

アムネステイ・インターナショナル（辻本衣佐訳）「中華人民共和国における死刑」 JCCD四九号

池田浩士「死刑の昭和史〇〇―インパクション六〇号、六一号、六二号、六三号、六四号、六五号、

六六号、六七号、六八号、六九号、七〇号、七一号

伊佐千尋「ドキュメント島田事件 赤堀政夫 死刑判決の悪夢」潮三五七―三六〇号

伊藤正孝「棄教者は殺せ」朝日ジャーナル三月一日号

伊藤正孝「たどたどしい手紙」朝日ジャーナル十一月一七号

岩井宜子「Ernest van den Haag, The Ultimate Punishment: A Defense; Jack Greenberg, Against the

American System of Capital Punishment（紹介）」アメリカ法一九八八年二号

岩田政義「昭和の事件帳① 帝銀事件（1）（2）」月刊警察七卷五号、六号

岩田政義「昭和の事件帳③ 小平事件（1）（2）」月刊警察七卷一〇号、一一号

上野達彦「ソビエト刑法改正と死刑論①②」三重大学法経論集六卷二号、七卷一号

植村隆「釈放された徐敏植」朝日ジャーナル五月一九日号

遠藤誠「人権と犯罪の狭間で闘う」アセント六月号

遠藤誠「インタビュ（1）（2）」ザ・ゲイ七月号、八月号

遠藤誠「帝銀事件の死後再審請求」新雑誌X八月号

大塚喜一「島田事件 赤堀さん来る」自由と正義四〇巻一一号

大塚喜一「死刑囚 小原の短歌」自由と正義四一巻七号

大林茂喜「実録・大正の刑事」⑩ ポリグラフの元祖 元主計中佐の部下殺し(1)(2)(3)「月刊警察七

巻二号、三号、四号

岡田和郎「死刑廃止の選択議定書 国連総会に送付される」死刑停止会議ニュースレター四号

川上三知男「死刑判決における量刑基準検討へのご協力を」こだち二六号

菊田幸一「死刑と恩赦」判例時報一二九三号

菊田幸一「残虐刑の禁止と日本国憲法」JCCD四七号

菊田幸一「菊池さよ子さん(救援連絡センター)に聞く」JCCD四八号

菊田幸一「中国の肅清と日本の死刑」JCCD四九号

菊田幸一「死刑と世論に関する序説」JCCD五〇号

菊田幸一「アメリカにおける死刑に関する司法判断と日本国憲法——いわゆる『残酷な刑罰』を中心とし

て」法律論叢六一巻四・五号

菊田幸一「死刑廃止条約の早期批准を」自由と正義四一巻四号

北村泰三「死刑問題に関する国際文書」熊本法学六一号

小机章司「死刑確定者の処遇 雑則(その一)——刑事施設法案入門(第七回)」刑政一〇〇巻三号

小林孝輔「殘虐刑の禁止と死刑制度」(昭和二三・三・一二最大判)(判例解説)『判例教室 憲法(新版)』所収

版)』所収

康宗憲「黒田清」(在日韓国人学生 死刑宣告から釈放までの一四年間を語る)『週刊現代六月三日号』

佐藤友之「日本のティエスマン 孫斗八」潮九月号

佐木隆三「極刑選択の苦悩」小説現代二七卷二号

清水隆雄「死刑適用年齢下限問題」ジュリスト九三八号

相馬大「石子詰め」町人四五号

高見澤潤子「罪の増し加わったところに(石井藤吉)」『真実の愛を求めて』(教文館)

高杉晋吾「第五の冤罪 袴田事件①②③」週刊朝日七月一四日、二二日、二八日号

高橋庸尚「死刑廃止と終身刑制度導入——徹底的な議論を望む」週刊法律新聞九三七号

高橋貞彦「殺人を犯した少年への死刑判決は憲法違反か否かをめぐり連邦最高裁で賛否両論」少年補導三

四卷七号

但木敬一「死刑に至る量刑の事情(1)(2)」研修四九八号、四九九号

辻本義男「ハワード連盟の死刑復活反対キャンペーン」JCCD四七号

辻本義男「アメリカにおける人種差別と死刑」中央学院大学法学論叢二卷一号

辻本義男「国家が殺すとき」法学セミナー三四卷九号

辻本義男「国際社会と死刑問題」死刑停止会議ニュースレター三号（一九八九年）

辻本義男「世界的視点からみた死刑問題」JCCD五〇号（一九八九年）

辻本義男「Thinking about death penalty in Japan」現代の諸問題とその分析Ⅱ（中央学院大学総合科学

研究所・研究年報二号）

辻本義男「寺中誠」ソ連における死刑論議」犯罪学研究誌一一号

寺中誠「ソ連の死刑（アムネスティ・インターナショナル報告）」JCCD五一号

都高教・死刑に反対する会「死刑廃止を考える資料一号」

筑紫哲也「セントラルパークでおきたレイプ事件」朝日ジャーナル五月二六日

中川剛「悪魔の学説」受験新報三九卷八号

服部朗「少年の死刑事件と殺人の『共謀』の成否——名古屋地裁平成元年六月二八日判決をめぐって」法

律時報六一卷一三号

趙甲洺（朴秉植訳）「死刑執行の実際と『無実だ』という遺言①②③④⑤⑥⑦」JCCD四八号、四九号、

五〇号（一九八九年）、五一号、五二号、五三号、五四号（一九九〇年）

早川武夫「凶悪少年犯罪と死刑」法学セミナー四一六号

広河隆一「帝銀事件 影の真相」Days Japan八月号

広畑史郎「平均的アメリカ人とアメリカの犯罪事情（4）」警察公論四四卷七号

藤田浩 [McCluskey v. Kemp, U.S., 107 S. Ct. 1736 (1987)] ——人種差別と死刑判決の合憲性 白人警察官

殺害の罪で死刑宣告を受けた黒人被告人は、人種的考慮が死刑宣告に入り込む危険性を示唆する統計的研究に依拠して、当該事件の死刑宣告の違憲性を主張できない」アメリカ法一九八八年二号

別役実 II 朝倉喬司「犯罪季語 八九夏」朝日ジャーナル七月二十八日号

村上尚文「法律家の倫理と被害者の感情——死刑と無期刑」罪と罰二六卷四号

吉田秀雄「著者の死刑宣告でEC大使召還へ」朝日ジャーナル三月三日号

山中温泉事件研究会「死刑判決の誤りをただした最高裁判決 山中温泉事件の検討」法学セミナー三四卷

九号

和島岩吉「母への思慕」潮三五七号

「不倫 その決定的瞬間」週刊女性五月三〇日号

一九九〇年

加賀乙彦『ある死刑囚との対話』（弘文堂）

前坂俊之『日本死刑白書（増補新版）』（三一書房）

竹沢哲夫『裁判が誤ったとき——請求者からみた再審』（イクオリティ）

中島忠弘『俺は死刑囚だ 獄中手記 モンテンルパ最重要犯日本人死刑囚』（ビッグマン）

沼尻芳孝『法と刑事裁判』（酒井書店）

三原憲三『死刑廃止の研究』（成文堂）

佐藤誠『天の梯子（遺愛集） 獄中第一〇歌集』

朝日テレビ『朝まで生テレビ 激論 少年凶悪犯罪』（全国朝日放送）

後藤晶次郎『真実は神様にしかわからない、か』（毎日新聞社）

死刑問題を考える弁護士会『死刑廃止条約の批准を求めて 資料集（1）』

下川耿史『死体の文化史』（青弓社）

謝秀麗『花嫁を焼かないで』（明石書店）

足立東『情況証拠 「波崎事件」無罪の証明』（朝日新聞社）

デイヴィド・スタウト（堀内静子訳）『カロライナの殺人者』（早川書房）

鎌田慧『死刑台からの生還』（岩波書店）

菊田幸一『死刑制度を考える』（岩波書店）

永山則夫『永山則夫の獄中読書記 死刑確定前後』（朝日新聞社）

日方ヒロ子『もう一つの選択 殺したくない、殺されたくない』（死刑廃止運動全国ネットワーク）

日本臨床心理学会編『裁判と心理学——能力差別への加担』（現代書館）

日本死刑囚会議・麦の会編著『死刑囚からあなたへ②』（インパクト出版会）

死刑執行停止連絡会議『死刑に関する国会議員アンケート集計報告』（死刑執行停止連絡会議）

クラレンス・ノリス・シビル・D・ワシントン（伊佐千尋・伊佐敦訳）『最後の被告人スコッツボロ事件』

（文藝春秋）

S・ビルクナー（佐藤正樹訳）『ある子殺しの女の記録』（人文書院）

ロジャー・フッド（辻本義男訳）『世界の死刑——国連犯罪防止・犯罪統制委員会報告書』（成文堂）

法学セミナー増刊『死刑の現在』（日本評論社）

青山光二『永山則夫をめぐる空騒ぎ顛末記』新潮45九卷六号

青山光二・川村湊『日本文芸家協会とは何か——永山則夫入会問題 二つの立場』文学界四四卷一〇号

秋好英明『雑感と控訴審五年の報告として』『死刑囚からあなたへ②』

秋山芳光『想う海』『死刑囚からあなたへ②』

渥美東洋『わが国の死刑制度を考える』法律のひろば四三卷八号

阿部浩己『解説・死刑廃止条約』『死刑の現在』

天野恵一『天皇恩赦』について『死刑囚からあなたへ②』

荒井彰『被害者への謝罪と死刑廃止』『死刑の現在』

荒井政男『一九九一年目の冤罪死刑囚から』『死刑囚からあなたへ②』

荒井悠樹『アムネスティ決定が語るもの』朝日ジャーナル 一月九日号

荒木虎美「私の獄死の責任は国にある」『死刑囚からあなたへ②』

アムネステイ・インターナショナル日本支部編・寺中誠「揺れる死刑制度」『死刑の現在』

アムネステイ・インターナショナル（辻本衣佐訳）「中国——死刑論争」JCCD五三三

アムネステイ・インターナショナル日本支部「弱まった『死刑』犯罪抑止の意識」、「『死刑廃止』アン

ケート結果」アムネステイ・インターナショナル ニュースレター一〇月号

井口茂「死刑」同『続法律用語あれこれ』（法学書院）

飯田博久「殺人・残虐・克服」『死刑囚からあなたへ②』

石田富蔵「再審に向けて奮闘します」『死刑囚からあなたへ②』

市田良彦「優生思想と死刑制度」『死刑囚からあなたへ②』

伊藤ルイ「Tシャツ訴訟意気軒昂」『死刑囚からあなたへ②』

猪熊武夫「なぜ事件を起こしてしまったのか」『死刑囚からあなたへ②』

石堂淑郎「私の死刑物語り」週刊朝日一一月二日号

板津秀雄「死刑執行、その瞬間」『私は見た 決定的体験』（文芸春秋社）

井上大「黒人差別から死刑制度存廃を問う——人種差別と死刑」『死刑の現在』

飯室勝彦「悩まなくなった裁判官」『死刑の現在』

岩井信「なぜ死刑廃止なのか 死刑廃止選択議定書の批准を」ヒューマンライツ二三号

岩田政義「昭和の事件帳④ 八宝亭事件（１）」月刊警察八卷一号

植松正「死刑廃止論の感傷を嫌う」法律のひろば四三卷八号

宇治川（田村）正「泣かないように悲しまないように」『死刑囚からあなたへ②』

宇野沢信三「再び死刑の是非について」噂の真相一〇月号

植村真樹子・中山千夏・広瀬直子・丸山友岐子・守田桂子（座談会）「死刑廃止条約の採択をめぐって——

おくられているマスコミの人権意識」女の会ニュース九〇春季号

上坂昇「強化される死刑制度——知恵遅れや未成年にも適用」世界週報二月二七日号

江口良子「寺沢暢紘「赤堀政夫さんに近況を聞く」『死刑囚からあなたへ②』

遠藤誠「永山則夫君の裁判」月刊タイムス四月号

遠藤誠「死刑はなぜ廃止なのか」死刑停止会議ニュースレター五号

遠藤誠「永山事件と仏教」仏教タイムス四月二五日号

大石国勝「一番はらがたつこと」『死刑囚からあなたへ②』

太田昌国「百里の彼方の死刑制度」『死刑囚からあなたへ②』

大塚公子「犯罪の被害者遺族——イエーガーさんの講演を聞いて……」女の会ニュース九〇春季号

大塚公子「死刑囚教誨師の嘆き」『死刑の現在』

大林茂喜「実録・大正の刑事⑫ 八宝亭事件（１）（２）（３）」月刊警察八卷一号、二号、四号

小田晋二 佐瀬稔 「女子高生コンクリート詰殺人事件 あなたの息子も野獣になる」 週刊文春八月九日号

小野坂弘 「死刑がある社会と死刑がない社会」『死刑の現在』

加藤浩一 「永山判決契機に死刑廃止の運動を」朝日ジャーナル五月一八日号

加藤松次 「最近における死刑判決言渡し事案の実情」法律のひろば四三巻八号

加賀乙彦 「暗く憂鬱なる出来事」創二〇巻五号

覚正豊和 「死刑廃止にむけての市民的および政治的権利関する国際規約についての第二選択議定書」千葉

敬愛短期大学紀要一九九〇年一月

覚正豊和 「国連死刑廃止条約の成立」JCCD五二号

覚正豊和 「死刑廃止をめざす国連の議定書——明らかにになった国際社会の潮流」月刊社会党一月号

菊田幸一 「風速 日本ではなぜ死刑が廃止されないのか」JCCD五四号

菊田幸一 「アメリカの処刑状況とニューヨークの現状」JCCD五四号

菊田幸一 「死刑廃止への国際動向」法律論叢六二巻三号

菊田幸一 「永山判決に見る日本の三審制度の虚構」死刑停止会議ニュースレター六号

菊田幸一 「死刑廃止条約の早期批准を」死刑問題を考える弁護士の会『死刑廃止条約の批准を求めて 資

料集(1)』

菊田幸一 「死刑廃止議定書の締結」JCCD五二号

菊田幸一「永山事件と司法判断」JCCD五三三号

菊田幸一「死刑制度に関する意識階層の意見」JCCD五三三号

菊田幸一「死刑停止会議への展望」死刑停止会議ニュースレター八号

菊田幸一「国会議員は死刑についてどう考えているのか」『死刑の現在』

菊池さよ子「秘密主義を貫く法務省の『死刑論』『死刑の現在』

菊池さよ子「最近の最高裁判決などの動向」死刑停止会議ニュースレター六号

菊池さよ子「死刑廃止の転換点にあたって」『死刑囚からあなたへ②』

金川一「また出会う日まで」『死刑囚からあなたへ②』

北村俊介「天の邪鬼の告白」『死刑囚からあなたへ②』

北村泰三「国際人権法判例研究(2)」——ヨーロッパ人権裁判所ゾーリング事件判決」熊本法学六四号

北村泰三「国際人権法における死刑問題——死刑廃止条約の起草を視点として」熊本大学法学部創立二〇

周年記念『法学と政治学の諸相』

木村修治「ほんとうの自分を生きたい」『死刑囚からあなたへ②』

吉川経夫「死刑雑感」犯罪と非行八四号

桐山襲「永山則夫への届かない手紙」創二〇巻八号

桑野藤一郎「もう心から笑うこともないでしょう」『死刑囚からあなたへ②』

吳智英「死刑を廃止し仇討ち復活」週刊文春五月一七日号

小林武「死刑確定者の信書発信の自由 東京地裁判決平成元・五・三一」法学セミナー一月号

斎藤静敬「人間社会と死刑」中原精一編『現代法の創造的展開』

斎藤充功「戦後第一号 死刑囚・獄中四二年からの生還」宝石二月号

斎藤充功「戦後第一号 死刑囚・獄中四二年からの生還」現代二四卷三号

斎藤充功「戦後第一号 死刑囚・史上最長獄中四二年からの生還」宝石一八卷三号

佐川和男「なぜ二人目の犠牲者を出したのか」『死刑囚からあなたへ②』

佐藤誠「佐藤誠氏、最後の手紙」『死刑囚からあなたへ②』

佐藤友之「死刑確定囚の外部交通権——獄中訴訟——在獄者の叫びを聴け」創二〇卷一二号

佐藤友之「山中湖畔殺人事件と死刑制度①②③④⑤」救援二五六号、二五七号、二五八号、二五九号、二

六〇号

佐木隆三「死刑に処す」週刊テームス五月三〇日号

佐木隆三「司法決着の意味」朝日ジャーナル五月一八日号

佐木隆三「法廷は金で動いた」週刊ポスト八月三日号

佐木隆三「ババ抜き」朝日ジャーナル年九月七日号

酒井安行「文獻ガイド・死刑を考えるために」『死刑の現在』

佐々木光明「死刑を考えるための常識——死刑廃止論、死刑存置論」「死刑の現在」

志賀節「第二一八回国会衆議院決算委員会一九九〇年六月二二日」第一一八回国会衆議院——決算委員会

会議録第七号

志賀節「死刑廃止のために国会議員は何をなすべきか」「死刑の現在」

結秀実・川口時男「文芸家たちのスラップスティック——永山則夫をめぐる」早稲田文学一七二号

清水反三「死刑執行を強制される刑務官」「死刑の現在」

新庄一郎「永山事件差戻し上告審判決の経緯と概要」法律のひろば四三巻八号

諏訪勝「死刑廃止への転機、元最高裁判事の告白」朝日ジャーナル二月二一日号

鈴木奈々子「私の死刑廃止論」死刑廃止の会二月月号

高野孟「報道されなかった国連の採択」週刊プレイボーイ五月二〇日号

高野孟・岩井信・安田好弘・福田雅章（座談会）「死刑は、なぜなくならないのか」「死刑の現在」

滝鼻卓雄「世論調査に見る国民の死刑制度感」法律のひろば四三巻八号

たけもとのおひろ「地球が決めた死刑廃止——もうひとつの国連決議をなぜ日本は素通りするのか」宝石

一一月号

大道寺将司「『確定囚』の壁を超えて」「死刑囚からあなたへ②」

高安イツ子「私達に何ができるのか」「死刑囚からあなたへ②」

武田和夫「被害者の問題」『死刑囚からあなたへ②』

田本竜也「死刑廃止を想う」『死刑囚からあなたへ②』

玉光順正「宗教家として死刑を考える」『死刑囚からあなたへ②』

田中伸尚『「大逆罪」の存続を切望した吉田茂——天皇 制と死刑』『死刑の現在』

団藤重光「なぜ死刑廃止への決意を強くしたのか」『死刑の現在』

辻本衣佐「死刑を考えるための常識——女性と死刑、中国の死刑執行猶予制度」『死刑の現在』

辻本義男『「国連・死刑廃止条約」の採択とわが国における問題点』法の支配八二号

辻本義男『死刑廃止にむけての市民のおよび政治的権利に関する国際規約第二選択議定書』に関する報告

書（仮訳）「中央学院大学法学論叢四卷一号

辻本義男「死刑を考えるための常識——死刑制度のはじまり（日本）、死刑にあたる罪、薬物と死刑、執行方法、執行手続き、死刑囚の処遇、無期と死刑、精神障害者と死刑、少年と死刑、老人と死刑、死刑と再審、死刑と恩赦、死刑の犯罪抑止力、刑法改正と死刑」『死刑の現在』

辻本義男『死刑存廃論議と世論』中央学院大学法学論叢三卷二号

辻本義男「死刑廃止条約の成立の経緯」死刑問題を考える弁護士会の会編『死刑廃止条約の批准を求めて

資料集（1）』

辻本義男「死刑制度に関する意識階層の意見」JCCCD五三号

辻本義男「死刑廃止のむけての市民的および政治的権利に関する国際規約の第二選択議定書の成立とその

意義」中央学院大学総合科学研究所紀要七巻二号

辻本義男「死刑再審」法学セミナー三五巻七号

辻本義男「死刑執行数」法学セミナー三五巻七号

辻本義男「死刑廃止条約全文と賛否国リスト」女の会ニュース九〇春季号

辻本義男「国連、死刑廃止条約を採択」月刊状況と主体二月号

辻本義男「死刑制度に関する意識調査」現代の諸問題とその分析Ⅲ（中央学院大学総合科学研究所研究年

報三号）

筒井康隆・柄谷行人・中上健次「文芸家協会退会の弁」すばる一二巻七号

ドロシア・ムアフィールド「人間を卑しめてはならない」ヒューマンライツ二二号

中山千夏「意識の壁」『死刑囚からあなたへ②』

長谷川健三郎「死刑も記者クラブも廃止しよう——人権に敵対する日本のマスコミ」女の会ニュース九〇

春季号

長谷川健三郎「死刑廃止報道をきらうマスコミ貴族」噂の真相四月号

浜田武重「上告棄却・怒りでいっぱいです」『死刑囚からあなたへ②』

平田直人「日々の呻吟」『死刑囚からあなたへ②』

平沢武彦「死刑囚の死後再審請求」『死刑囚からあなたへ②』

福島瑞穂「少年法改悪と未成年死刑囚」『死刑囚からあなたへ②』

福田雅章「死刑を廃止できない日本社会の論理」法学セミナー三五卷八号

福岡清「死刑確定者の処遇について」矯正職務研究一五号

藤永幸治「再審無罪事件の検討(5)」捜査研究三九卷一、二、三、四号

藤波芳夫「キリストと共に生きる姿勢」『死刑囚からあなたへ②』

藤岡一郎「日本行刑史の中の死刑廃止の思想と戦い」『死刑の現在』

藤吉和史・松井千秋・港和夫「世論調査における死刑」『死刑の現在』

文藝春秋現地取材班「チャウシェスク軍事法廷全記録」文藝春秋三月号

住谷春也・直野 敦「チャウシェスク軍事法廷全記録」文芸春秋四月号

益永利明「過去を償い、未来に責任をもとう」『死刑囚からあなたへ②』

丸山幹春「外国における死刑制度の概況」法律のひろば四三卷八号

丸山友岐子「人類は、死刑を捨てることで合意——自由と人権はわたしたちの手づくりで」女の会ニュー

ス九〇春季号

マイク・ロイコ「非難されない死刑制度」世界週報一月九・一六日号

マイク・ロイコ「死刑復活礼讃」世界週報八月七日号

マリエッタ・イエーガー「復讐から何も生まれない」『死刑の現在』

真神博「少年はなぜ『死刑』になったか」現代一〇月号

三浦道明・井上日宏（対談）「いま真剣に生きるために死を見つめる」宝石八月号

宮澤浩一「死刑制度を考える」法律のひろば四三巻八号

宮澤浩一「死刑の大量生産にいたる道——ナチスと死刑『死刑の現在』

宮脇喬「何のために控訴したのか——事件一年半で一、二審死刑判決」『死刑囚からあなたへ②』

向井武子「死刑囚と自己表現」『死刑囚からあなたへ②』

村野薫『日本の死刑』（柘植書房）

免田栄「元死刑囚の私」『死刑囚からあなたへ②』

森田成夫『銃殺』（講談社）

安田好弘「死刑停止条約の批准を求めるフォーラム90の開催を呼びかける」死刑停止会議ニュースレタ

一六号

安田好弘「弁護士として死刑を考える」『死刑囚からあなたへ②』

山岡靖典「名張ぶどう酒再審請求事件あれこれ（1）（2）」研修五〇一号、五〇二号

山口正紀「死刑を支える犯罪報道」『死刑囚からあなたへ②』

山口正紀「報道されなかった大ニュース 国連総会で死刑廃止条約採択」法学セミナー四二五号

山口正紀「犯罪報道と死刑キャンペーン」女の会ニュース九〇春季号

山口正紀「死刑制度維持に加担するマス・メディア」『死刑の現在』

山下克知「米国最高裁判所判決 Thompson v. Oklahoma, 56 LW 4892 (1988)」関西外国語大学研究論集五

〇号

山岸祐一「死刑囚の事故防止策」矯正職務研究一五号

山本幸司「血讐と処刑」本一五卷一〇号

横溝秀樹「重要判例ガイド・死刑」『死刑の現在』

横川和夫「保坂渉『かげろうの家』(共同通信社)」

吉田啄子「塀の外から塀の中のあなたへ」死刑廃止の会一二月号

渡辺恵一「小島吉晴」平成元年度総理府世論調査について——死刑制度及び尊属殺加重処刑」判例タイム

ズ七二三号

総理府広報室「犯罪と処罰」月刊世論調査二二卷一号

日本死刑囚会議・麦の会「全死刑囚アンケート」『死刑囚からあなたへ②』

日本死刑囚会議・麦の会「人間をどれだけたいせつにしているのか——死刑判決とマスメディア」法学セ

ミナー増刊・総合特集シリーズ四五『犯罪報道の現在』

「戦後第一号死刑囚四二年目の娑婆」週刊ポスト一月一九日号

「読者魂」週刊プレイボーイ二月六日号

「永山則夫、文芸家協会会員に？」週刊朝日二月一六一号

「永山則夫被告に入会を拒んだ文芸家協会の見識」週刊読売三月二五日号

「恥知らずな永山氏」週刊文春三月二九日号

「イラク、英紙記者を処刑」ニューズウィーク三月二九日号

「カルフォルニアで二三年ぶり ガス室待つ少年殺しのハリス ニューヨークなど米国主要州で死刑復活
か」AERA三月二〇日号

「サッチャー首相を困惑させる『イラク処刑』英紙記者の前歴」週刊ポスト四月六日号

「死刑から無期そして死刑」FOCUS四月二七日号

「未公開 永山則夫の獄中ノート」週刊朝日五月四・一日号

「筒井、中上氏ら文芸家協会に離縁状」朝日ジャーナル五月二五日号

「シヨック 北京天安門事件犯人 処刑」フライデー六月一五日号

「博物館の電気椅子 アメリカ」刑政一〇一卷六号

「死刑と一七年の落差」週刊文春八月二日号

「山中事件無罪判決を手放しで狂喜できない理由」週刊新潮八月九日号

「山中事件無罪でどうなる共犯A」FOCUS八月一〇日号

「韓国の死刑廃止運動との連帯を」死刑廃止の会一二月号

「文芸家協会『永山問題』をどう考える アンケート」すばる一二卷一一号

一九九一年

アムネスティ・インターナショナル（辻本義男・寺中誠訳）『日本の死刑廃止と被拘禁者の人権保障――

日本政府に対する勧告』（日本評論社）

佐藤友之『死刑と無期の間』（三一書房）

ジャン・トゥーラ（戸口民也訳）『死刑を問う』（三一書房）

古川泰龍『叫びたし寒満月の割れるほど』（法蔵館）

前坂俊之・橋本勝『死刑』（現代書館）

佐久間哲夫『恐るべき証人――東大法医学教室の事件簿』（悠飛社）

村松誠一郎『タイムリミット魔の時間帯 その一 一九八〇年の暗黒裁判』

尾佐竹猛著・三谷太一郎校注『大津事件――ロシア皇太子大津遭難』（岩波書店）

イアン・グレイ&モイラ・スタンレー（菊田浩一監訳）『死刑 アメリカの現実』（恒友出版）

団藤重光『死刑廃止論』（有斐閣）

テリー・ゲイニー著（小林宏明訳）『エリックが消えた』（徳間書店）

リトル・モア編集部『狭山事件——石川一雄・獄中二七年』（リトル・モア）

赤岩順二『死刑廃止選択議定書』の意義」部落開放研究七七号

阿部浩己「死刑廃止への挑戦——死刑廃止条約の成立経緯とその概要」自由と正義四二卷一〇号

荒木清寛「愛知における死刑問題への取り組みについて」自由と正義四二卷一〇号

アムネスティ・インターナショナル日本支部編「中東とアムネスティ（特集）」アムネスティ・ニュース

レター二一五号

生田勝義「死刑」刑法雑誌三一卷三号

遠藤誠「死刑制度を考える」大法輪五八卷七号

大野正男「最近の刑事裁判の動向と刑事弁護の衰退について」日弁連研修叢書『現代法律実務の諸問題

〔平成二年版〕〔下〕』

小野悦男「雪冤をはたして」インパクション七〇号

加川帯刀「アメリカの死刑制度における課題——ポーウエル論文を基に」千葉大学教養部研究報告九〇一

A 二二

菊田幸一「死刑確定者の処遇」JCCD五五号

菊田幸一「死刑廃止フォーラム90に参加して」JCCD五五号

菊田幸一「韓国の死刑と廃止運動の現状」自由と正義四二卷二号

菊田幸一「台湾における死刑の状況」死刑停止会議ニュースレター九号

菊田幸一「風速 湾眼戦争と死刑」JCCD五六号

菊田幸一「死刑公開の是非」JCCD五七号

菊地さよ子「新たな局面を迎えた死刑廃止運動」法学セミナー三月号

斉藤敏「いわゆる死刑廃止条約と我が国の立場」自由と正義四二卷一〇号

佐藤道夫「死刑廃止に感傷は許されない」週刊朝日一二月二七日号

周振想（鈴木敬夫訳）「中国の死刑制度と労働改造——中国における刑罰の種類に関する諸問題（1986,

Beijing）北海学園大学・法学研究二六卷三号

JCCD編集部「アメリカにおける死刑反対者の意見——A Punishment In Search Of A Crime, by Ian

Gray and Moira Stanley」JCCD五七号

塩見孝也「一事件から死刑制度を考える」インパクション六九号

清水真「Ford v. Wainwright, 477 U.S. 399 (1986)——アメリカ刑事法の調査研究（三九）」中央大学比

較法学雑誌二二卷四号

清水真「Sumner, ET AL. v. Shuman, 483U. S. 66 (1987)——アメリカ刑事法の調査研究（四六）」比較法

雑誌二四卷二号

末道秀樹「犯行当時一六歳未満の者に死刑を科すことは合衆国憲法第八修正および第一四修正に違反する

と判示された事例 (Thompson v. Oklahoma 56 U.S.L.W. 4892 (June 29 1988)) アメリカ刑事法の調査研究四三」中央大学比較法雑誌二三巻四号

杉田時男「死刑！存置か？廃止か？——死刑存置論および廃止論の動向」自由と正義四二巻一〇号

竹内正「死刑廃止についての一考察」松山大学論集二巻五号

竹澤哲夫「絶望感生む刑事裁判と刑事弁護」日弁連研修叢書『現代法律実務の諸問題（平成二年版）

〔下〕』

高橋徹「①死刑確定者の拘置の性質及び拘禁の目的 ②死刑確定者の外部交通の制限基準 ③日弁連人権

擁護委員会等に宛てた信書の発信不許可処分の適法性（平成元・五・三一東京地判）」〔平成元年度主

要民事判例解説〕判例タイムズ臨時増刊七三五号

団藤重光「死刑廃止論」法学教室一二七号

辻本義男「薬物犯罪と死刑」中央学院大学法学論叢四巻二号

辻本義男「中華民国と中華人民共和国における死刑」中央学院大学比較文化研究所紀要五号

「〈図書紹介〉三原憲三著『死刑廃止の研究』JCCD五七号」

陳広君 (Chen Guangjun) (鈴木敬夫訳)「我が国の死緩制度について」(1986, Beijing)——中国の死刑制

度と労働改造(2) 北海学園大学法学研究二七巻一号

寺中誠「政治情勢と死刑——八〇年代のソ連での動きを中心として」自由と正義四二巻一〇号

エリック・プロコシュ（辻本義男訳）「政府が後援する殺人——今日の世界における違法な処刑とたたかう

戦術」JCCD五七号

安田好弘・菊田幸一・辻本義男「死刑事件担当弁護士聞く」JCCD五六号

筒井康隆「永山則夫」月刊プレイボーイ一月号

中村智志「死刑廃止 元刑務官があえて証言『塀の中も非文明国』」朝日ジャーナル三月二二日号

林克明「死刑廃止条約」はなぜ批准されないか」週刊プレイボーイ四月二日号

林瑞枝「死刑のかなたへ 法の礎として人権を考える（13）」時の法令一四〇一号

原田保「被害状況調書」に基づく死刑判決の合憲性——Booth v. Maryland, 482 U.S. 496 (1987)（紹

介）「愛知学院大学法学三三卷四号

三原憲三「世界の死刑」朝日法学論集四号

三原憲三「現代における死刑存廃論の課題と展望（1）」朝日法学論集五号

宮澤浩一「死刑（その一）——刑事政策講座第二三講」警察学研究四四卷三号

森下忠「イスラム法における死刑」判例時報一三六六号

矢邊均「アメリカのhabeas corpus——州の死刑囚に対する連邦habeas corpus——救済の適用とその障

害」専修法研論集六号

和田光弘「死刑廃止のために誰が何をすべきか」自由と正義四二卷一〇号

渡邊眞次「再審で無罪となった元死刑囚に対するテレビ放言事件」自由と正義四二卷一〇号

渡部保夫「最高裁にもの申す『その死刑、待った』」月刊ASAHI二二号

渡部保夫「イギリスの死刑誤判事件をめぐる——法廷に現れた証拠がすべてでない」日弁連研修叢書

『現代法律実務の諸問題（平成二年版）（下）』

第二東京弁護士会刑法改正対策特別委員会死刑問題研究小委員会「死刑判決の量刑基準の考察」自由と正

義四二卷一〇号

「特集 死刑を考える」自由と正義四二卷一〇号

「女死刑囚 小林カウの色と欲」週刊文春一月三・一〇日号

「死刑廃止を訴える女性検事」週刊文春一月三・一〇日号

「対犯罪法案 下院通過」刑政一〇一巻一二号

「死刑がTVで公開される？」ニューズウィーク日本語版四月一八日号

「殺人鬼・戦慄の手記」週刊宝石五月二日号

「ただいま死刑囚の人。誰がいつどこで執行されたかは絶対秘密」ダカーポ二三六号

「元死刑執行人に聞く『死刑の現場』——板津秀雄さんインタビュー」ダカーポ二三六号

一九九二年

池田浩士『死刑の「昭和」史』（インパクト出版会）

伊藤公雄・木下誠『こうすればできる死刑廃止 フランスの教訓』（インパクト出版会）

大塚公子『あの死刑囚の最後の瞬間』（ライプ出版）

福田定良『ひとりよがりの哲学——犯罪者意識の考察』（西田書店）

三原憲三『死刑存廃論の系譜』（成文堂）

村野薫『面白読本 死刑って何だ』（柘植書房）

杉原美津子『炎のなかの絆』（文藝春秋）

F・イルジーグラー／A・ラゾッタ（藤代幸一訳）『中世のアウトサイダーたち』（白水社）

加賀乙彦『死の淵の愛と光』（弘文堂）

木村修治さん救援会議編『証言 今ではじめてほんとうの自分を生きる』（木村修治さん救援会）

佐藤友之『死刑囚の一日』（現代書館）

団藤重光『死刑廃止論（改定版）』（有斐閣）

灰谷健次郎『死刑制度を必要としない社会と自分へ——灰谷健次郎講演会』（死刑廃止国際条約の批准を求

めるフォーラム90）

免田栄『私の体験にもとづく冤罪論・死刑廃止論』（イノセント舎）

播磨信義著『仁保事件救援運動史——命と人権はいかにして守られたか』（日本評論社）

吉田和正著『死刑を志願した男』(三一書房)

坂口弘『しるし 晩夏号』(坂口菊枝さんを支える会)

大島英三郎編『訣別の章——大久保清さん獄中手記』(黒色通信社)

『死刑制度と私たち』真宗ブックレット3 (真宗大谷派宗務所出版部)

左藤恵『死刑廃止について』『死刑制度と私たち』(真宗大谷派宗務所出版部)

竹内淳一『死刑』に問われる暮らし『死刑制度と私たち』(真宗大谷派宗務所出版部)

竹中智秀『真宗門徒にとつての罪と罰』『死刑制度と私たち』(真宗大谷派宗務所出版部)

玉光順正『死刑制度と私たち』『死刑制度と私たち』(真宗大谷派宗務所出版部)

藤井善隆『死刑囚教誨寸言』『死刑制度と私たち』(真宗大谷派宗務所出版部)

ふじえちづこ『死刑廃止運動の片隅で想う』『死刑制度と』(真宗大谷派宗務所出版部)

戸次公正『仏教者と死刑制度』『死刑制度と私たち』(真宗大谷派宗務所出版部)

中山千夏・玉光順正『インタビュ——たまたま運のいい人がたまたま 運の悪かった人にいばれることは

何もない』『死刑制度と私たち』(真宗大谷派宗務所出版部)

安田好弘・日方ヒロコ・尾畑文正・玉光順正・井川ひとみ『座談会死刑制度を問う』『死刑制度と私たち』

(真宗大谷派宗務所出版部)

高橋檀編『しるし 初冬号』(坂口菊枝さんを支える会)

『虎ノ門事件裁判記録』（黒色戦線社）

『百座の視座』（蒼の会）

ジェフリー・アーチャー「イギリスから日本に糺す——わたしが日本に死刑廃止を促す根拠」VIEWS

二巻九号

阿部圭太「死刑廃止フォーラム バダントールを迎えて開催」インパクション七四号

アムネスティ・インターナショナル日本支部「ギロチンを葬った男がやってきた——ゆれうごく死刑制

度」法学セミナー四四九号

「激増する中国の死刑宣告・執行——ゆれうごく死刑制度」法学セミナー四五〇号

阿部浩己「死刑廃止条約 国際人権条約の旅⑧」法学セミナー三七卷一一号

石橋恕篤「三原憲三著『死刑廃止の研究』について（紹介）」富士大学紀要二四卷二号

上野達彦「ソ連における犯罪現況と死刑論（1）（2）」法経論集一二七号、一二八号

江田五月「団藤重光著『死刑廃止論』（私の書齋）」書齋の窓四一二号

遠藤誠「動き出した帝銀事件」新雑誌21 五月号

遠藤誠「書評 池田浩士著・死刑の昭和史」北海道新聞四月一二日

大島令子「死刑制度を問う」月刊社会党四三八号

覚正豊和「死刑確定者の人権——外部交通権に関する一考察」『刑事法学の現代的 展望下巻 八木國之先

生古稀祝賀論文』（法学書院）

菊地裕「執筆三十年」詩と散文五〇号

菊田幸一「死刑制度に関する弁護士意識」JCCD六〇号

菊田幸一「団藤重光著『死刑廃止論』」JCCD六〇号

菊田幸一「なぜ死刑は廃止すべきか」時事教養六七二号

菊田幸一「被害者に対する宥恕が量刑に及ぼす範囲について——アメリカの判例を参照して」法律論叢六

四卷五・六号

菊田幸一「国際人權規約と日本の立場」死刑停止会議一一号

菊田幸一「死刑条項へのカウンター・レポート——人權規約（B規約）への報告に対して」ジュリスト一

〇〇七号

菊田幸一「書評 池田浩士著『死刑の昭和史』」JCCD六二号

倉田哲治「死刑を考えて」人權新聞二七九号

N・K「国際社会の常識を受け入れないアメリカ——少年犯罪者に対する死刑」法学セミナー八月号

吳智英「連合赤軍の同世代人」ぶつくれつと九八号

小寺初世子「国際的死刑廃止時代の到来」鹿児島大学法学論集二七卷二号

小暮得雄「団藤重光著『死刑廃止論』」ジュリスト九九八号

佐藤友之『死刑は廃止できる』バダンテール氏来日「朝日ジャーナル」三月二〇日号

佐木隆三『男の責任』が責め立てた北野被告の「二年」週刊朝日四月一二日号

佐々木満「おもしろ刑罰史(1)」刑政一〇三卷一号

佐々木幸綱「坂口弘の短歌」文藝春秋七〇卷三号

坂口弘・高橋檀「歌が詠めるまで」『しるし 晩夏号』(坂口菊枝さんを支える会)

志賀節・菊田幸一・辻本衣佐「死刑について——志賀節先生に聞く」JCCD六三号

清水真「Franklin v. Lynaugh, 164 U.S. 164 (1988)」比較法雑誌二五卷四号

高橋貞彦「アメリカ少年非行問題散見(一四二)」少年補導三七卷二号

田丸美寿々「無実の言葉を残して電気椅子に座った男」ダ・カーポ二五六号

団藤重光「死刑制度について——団藤重光先生に聞く」JCCD六二号

団藤重光「死刑は犯罪を抑止するか」文藝春秋編『日本の論点』

對馬直紀「死刑と無期懲役刑を分かつ情状について」JCCD六二号

辻本義男「アメリカ合衆国の死刑状況(その一)——一九八七年」中央学院大学法学論叢五卷二号

辻本衣佐「アメリカの少年死刑囚」犯罪と非行九一号

辻本義男「死刑存廃論の諸相——正義は生命より重いか」石本三郎先生古稀記念論文集『愛と信頼』編集

委員会編『愛と信頼』(丸善ブラネット)

辻本義男「死刑」阿部・川端編『基本問題セミナー 刑法1 総論』（一粒社）

辻本義男「死刑裁判と陪審」『刑事法学の現代的展望 下巻 八木國之先生古稀祝賀論文』（法学書院）

辻本義男「アメリカ合衆国の死刑状況（その二）——一九八八年・一九八九年」中央学院大学法学論叢六

卷一号

中川剛「ヒューマニズムと死刑」書齋の窓四一八号

中山千夏「正義があっても殺さない」ブックレット一〇〇号

野中敏彦「死刑囚と信仰の自由（昭和三三・八・二〇大阪地判）」『宗教判例百選（第二版）別冊ジュリス

ト一〇九号』

ロベール・バダンテール（辻本義男訳）「死刑の廃止に向けて」JCCCD六〇号

ロベール・バダンテール「死刑存続の理由はどこにあるのだろうか——体験的死刑廃止論」法学セミナー

四五三三号

波多野二三彦「団藤重光著『死刑廃止論』を読んで」自由と正義四三卷二号

浜田博徳「死刑を考える」法蔵魂二〇〇号

樋口範雄「先例拘束と憲法判例」法学セミナー四四五号

松本一郎「永山事件以後における死刑判決の動向」『刑事法学の現代的展望 下巻 八木國之先生古稀祝賀

論文』（法学書院）

水谷則男「名張毒ぶどう酒事件について」三重法経八八号

三原憲三「死刑廃止論の趨勢」『刑事法学の現代的展望 下巻 八木國之先生古稀祝賀論文』（法学書院）

宮澤浩一「団藤重光著 死刑廃止論」法学教室一三九号

森下忠「死刑についての最近の議論（裁判トピックス）」法律のひろば四五卷三号

森下忠「死刑廃止に向けて 海外刑法法日より（九三）」判例時報一四一七号

ロシア・モアフィールド「復讐では悲しみはいやせない」創二三卷一号

山野静二郎（絵・猪熊武夫）「死刑囚となった父親から息子への手紙 子を想う 靴の泥」マフィン五卷七

号 おかあさん塾92夏（一九九二年）

山崎和明「資料 死刑に関する邦文文献表」四国学院大学論集七八号

山崎和明「戦争放棄と死刑廃止」四国学院社会科学年誌二号

吉田敏雄「死刑廃止論」法学教室一三七号

ホセ・ヨンパルト「日本の死刑囚には人権はみとめられているのか」ピセンテ・M・ボネット他『現代社

会と人権——女性・障害・死刑……』（草風館）

「ゆれ動く死刑制度——生と死の間をゆれうごいた米の死刑執行」法学セミナー七月号

「死刑についていたナンダ」ドンドン七月号

「暁の死刑執行——R・ハリス、最後の一二時間」刑政一〇三卷七号

「死刑囚からの恋文」女性セブン一月二・九日合併特大号

「死刑囚の家族として 向井武子さんのお話」FORUM七号

「死と生——死刑囚との出会いを通じて 森田宗一さんのお話」FORUM七号

「これが死刑執行だ! (1) アメリカ」刑政一〇三卷一号、二号

「幸徳秋水事件判決書」法の支配二号

「死刑」がなくなる」週刊読売四月五日号

「処刑の日は五月二〇日」ニューズウィーク日本版四月三〇日・五月七日号

「刑務官が明かした死刑囚『最後の瞬間』」週刊宝石六月四日号

「死刑囚 ああ 最後の瞬間」週刊女性六月二三日号

「死刑執行ゼロ——〇〇〇日目記録」法学セミナー四五三号

「埼玉・母子放火殺人 死刑判決に異議あり」週刊朝日九月一八日号

「死刑無執行一千日超え決裁を洩る法務大臣の『心境』」FLASH八月二五日・九月一日号

「『死刑廃止の流れ——加害者被害者の壁を超えて』(名古屋御坊真宗大谷派名古屋別院)

「刑務所が観光名所に」ニューズウィーク九月二四日

「四千年の歴史を叩き売る中国」週刊朝日一〇月二日

「法の名のもとに行われる公然殺人・死刑」ワトソン四号

「死刑が完全に消える日——ヨーロッパの死刑廃止の流れ」法学セミナー三七卷一〇号

「制限される死刑確定者への面会」法学セミナー三七卷一一号

「死刑の執行について」法律のひろば四五卷九号

「アフガニスタン『公開処刑』の現場」FOCUS—一月二〇日号

「元刑務官が見た絞首台の死刑囚たち」週刊朝日—二月四日号

「ゆれうごく死刑制度——変化がみられない裁判所」法学セミナー—二月号

「ゆれうごく死刑制度——死刑活用の変遷も」法学セミナー—二月号

「絶望と希望が交錯する日々 日本の死刑確定囚五六人の獄中生活実態」週刊現代—二月二六日

一九九三年

小田中聡樹『冤罪はこうして作られた』（講談社）

菊田幸一編著『死刑と世論』（成文堂）

佐木隆三『殺人百科四』（徳間文庫）

瀬戸内寂聴・永田洋子著『瀬戸内寂聴・永田洋子往復書簡 愛と命の淵に』（福武文庫）

高橋檀編『しるし 早春号（五号）』（坂口菊枝さんを支える会）

高橋檀編『しるし 麦秋号（六号）』（坂口菊枝さんを支える会）

武安将光『幸徳秋水等の大逆事件』(勁草書房)

団藤重光『死刑廃止論(第三版)』(有斐閣)

沼尻芳孝『刑事裁判綺談』(判例タイムズ社)

山本徹美『袴田事件』(悠思社)

上野達彦『ペレストロイカと死刑論争』(三一書房)

後義輝『死刑論の研究』(三一書房)

大塚一男『冤罪に抗して』(日本評論社)

大塚公子『死刑執行人の苦悩』(角川文庫)

かたつむりの会編『殺すことと殺されること』(インパクト出版会)

坂口弘『あさま山荘一九七二(上)(下)』(彩流社)

蜂巣敦『ドキュメント・連続少女殺人——孤高の鬼・吹上佐太郎』(パロル社)

朝日新聞死刑制度取材班『死刑執行』(朝日新聞社)

飯室勝彦『裁判を見る目』(現代書館)

菊田幸一編著『死刑廃止 日本の証言』(三一書房)

坂口弘『坂口弘 歌稿』(朝日新聞社)

佐藤友之『死刑囚の妻』(現代書館)

松下竜一『狼煙を見よ——東アジア反日武装戦線「狼」部隊』(社会思想社)

村野薫『戦後死刑囚列伝 二三人の事件と死刑囚』(宝島社)

坂口弘『しるし 増刊号(控訴審供述調書改訂版)』(坂口菊枝さんを支える会)

佐野洋『「小の虫」の怒り』(新日本出版社)

ブライアン・マリナー(平石律子・岩本正憲訳)『毒殺百科』(青弓社)

森下忠『犯罪人引渡法の理論』(成文堂)

日本基督教団・伝道委員会・社会委員会・教誨事業協力会『三者協議会報告書 獄にいる人を訪ねた

ことがありますか』(日本基督教団)

『日本の論点94』(文芸春秋社)

池田浩士『仇討ちと死刑』かたつむりの会編『殺すこと殺されること』(インパクト出版会)

伊藤博義『冤罪事件は何故起こる——死刑台からの生還』「法学を学ぶことの意味」『若者たちと法を学ぶ』

(有斐閣)

浅野健一『国際的批判で死刑執行を躊躇——犯罪者謀殺のインドネシア』インパクション八〇号

浅野泰蔵『慈悲の検証・死刑』大法輪六〇巻五号

芦部信喜『合衆国最高裁のゆくえ』法学教室一四九号

天笠啓裕『中国・台湾で死刑囚から臓器が摘出された』インパクション八〇号

アムネスティ・インターナショナル「死刑について考える」アムネスティ・ニュースレター二三八号
アムネスティ・インターナショナル(辻本衣佐訳)「中国 抑圧の連続——死刑と反犯罪キャンペーン」JC
CD六六号

アムネスティ・インターナショナル(辻本衣佐訳)「中国の死刑——一九九〇年」JC CD六七号

アルトゥール・カウフマン(上田健二訳)「死刑をめぐる」(アルトゥール・カウフマン「上田健二
訳」『転換期の刑法哲学』(成文堂)

飯田浩史「驕るな、死刑廃止論」諸君二五巻二号

飯室勝彦「続く『死刑執行ゼロ』なぜ」月刊官界八巻一〇号

池田清彦「死刑反対論者は権力の操り人形である」宝島30一巻一号

猪原薫「特集——私の読んだ死刑『刑事裁判の光と陰』死刑廃止ニュース・スペシャル六号

入江幸男「特集——私の読んだ死刑 死刑廃止論の古典 ベッカリア著『犯罪と刑罰』死刑廃止ニュー

ス・スペシャル六号

岩井信「死刑廃止フォーラム90の新たな展開に向け——アジア死刑廃止フォーラムの開催」インパクシヨ

ン八〇号

植松正「どんな凶悪な犯人の生命をも保障するのは法の理念に反する」文芸春秋編『日本の論点 9

4』

植松正「死刑存廃論争の思い出」土地家屋調査士六月号

浦野保知「特集——私の読んだ死刑『日本死刑史』死刑廃止ニュース・スペシャル六号

上田美穂「賛成・反対のミソ埋まらぬまま慶事を前に死刑執行」CREA六月号

江國滋「改宗前夜——『死刑廃止論・改訂版』図書五二八号

枝川公一「死刑——ゲイリー・ギルモアの銃殺『現代アメリカ犯罪全書』（光文社）

尾崎一馬「後藤田法相と死刑再開」マスコミ市民二九五号

大林茂喜「生命への執念か 死刑囚の脱獄（1）（2）」月刊警察一一卷一〇号、一一号

小田晋「世紀末に跋扈し始めたグッドフイーリングの人たち」DECIDE五月号

加賀乙彦・JCCD編集部「死刑について——加賀乙彦先生に聞く」JCCD六五号

覚正豊和「図書紹介 板津秀雄著『死刑囚のうた』」JCCD六四号

覚正豊和「死刑確定者の外部五月三一日判決に関する一考察」千葉敬愛短期大学紀要一五号

加藤久雄「ボーダーレス時代における死刑存廃論——死刑に代わる無期自由刑とは」法学教室一五四号

川崎政司「法令キーワード⑮ 死刑」法令解説資料総覧一三九号

川村 康「宋代死刑奏裁考」東洋文化研究所紀要一二二冊

菊田幸一「台湾における死刑状況」JCCD六四号

菊田幸一「後藤田法相に望む」JCCD六四号

菊田幸一「国際人權（自由權）規約の政府報告書の検討とくに生命に対する權利（第六條）について」

法律時報六四卷一一号

菊田幸一「死刑執行せず！ 一二三一日の重み」潮四一一号

菊田幸一「破られた死刑執行ゼロの記録」法学セミナー六月号

菊田幸一「死刑廃止を急ごう」女の会ニュース六月号

菊田幸一「死刑問題を問う——三年四か月ぶりの執行をめぐって」JCCD六五号

菊田幸一「死刑に代わる刑罰」JCCD六六号

菊田幸一「死刑廃止アジア・フォーラムから」JCCD六六号

菊田幸一「後藤田法相の死刑執行は何の合理的根拠もない蛮行である」文芸春秋編『日本の論点94』

菊田幸一「細川内閣、死刑執行の問題点」JCCD六七号

菊池さよ子「とぎれた執行ゼロ・三年四カ月の意味を問う」インパクション八〇号

北井大輔「香港の死刑廃止——中国との関係のなかで」インパクション八〇号

共同通信社会部「執行再開——死刑の周辺」

九州大学刑事訴訟法ゼミナール「二〇年目の免田事件——刑事手続きについての市民意識調査」法学セミナ

——八月号

久保田穰「播磨信義著『仁保事件救援運動史』（書評）」法学セミナー一月号

小森龍邦「死刑制度に反対する」部落解放三六〇号

倉田哲治「三年ぶりの死刑執行」話の特集三三一号

国分葉子・近藤亜里「死刑を語る」死刑廃止ニュース・スペシャル六号

吳智英「坂口弘歌稿」週刊朝日一二月二四日号

齊藤静敬「日本における死刑の現状——Present State of Capital Punishment in Japan」千葉大学法

学論集七卷一号

佐木隆三「死刑執行にハンをあえてハンを押した後藤田法相の真の狙い」サンデー毎日四月一七日号

佐藤道夫「法談余談——『残虐』な犯罪はこの世に存在する」週刊朝日四月九日号

佐藤友之「いま、アジアから死刑廃止を——アジア死刑廃止東京宣言」法学セミナー四六五号

佐藤万作子「死刑廃止を訴える被害者遺族の複雑」婦人公論三月号

澤地和夫「後藤田法務大臣よ、あなたは間違っている——死刑囚澤地和夫が衝撃の手記」週刊アサヒ芸能四

月一五日号

澤地和夫「わが遺言（１）（２）（３）（４）」週刊アサヒ芸能六月一〇日号、六月一七日号、六月二四日号、

七月一日号

酒井安行「辻本義男・辻本衣佐編著『アジアの死刑』」JCCD六六号

レネ・サルミエント「死刑廃止で国際的なキャンペーンを」法学セミナー一〇月号

JCCD編集部「アジアの死刑」JCCD六四号

島桂次「死刑廃止論に早急な結論を」週刊朝日四月二三日号

島田莊司『死刑』という残酷の是非」フライデー三月二六日号

島田莊司「三年四カ月ぶり執行された『死刑』に異議あり」フライデー四月一六日号

志村恵「死刑を読む」『十戒（現代倫理入門）』死刑廃止ニュース・スペシャル六号

杉村昌昭「知的野蛮としての死刑——犯罪・国家・大衆心理」インパクション八〇号

鈴木泉「名張毒ぶどう酒事件——無実の死刑囚・奥西勝氏に再審開始・無罪判決を」名古屋法曹フォーラム

一一一

鈴木敬夫「紹介・中国の死刑制度と労働改造」成良文『死緩犯に対する減刑と仮釈放の問題』趙長

青『死緩犯の『改造を拒み情状が悪質』についての分析』北海学園大学法学研究二八巻一号

鈴木敬夫「中国における刑事司法と人権」札幌学院法学九号

鈴木敬夫「日本死刑廃除論——談談団藤重光博士の死刑廃除論」札幌学院法学九巻二号

瀬戸内寂聴「考えてみよう死刑廃止」『寂庵こよみ』（中公文庫）

大道寺ちはる「くやしさをバネに」話の特集三三一号

多田元・新倉修「大高緑地アベック殺害事件——少年事件研究会レポート」法律時報六五巻二号

田邊信好「生命法学雑感」窓四三三号

武田和夫「死刑廃止アジアフォーラムの発足」インパクション八二号

団藤重光「アジアにおける死刑廃止の実現を目指して」法学セミナー一〇月号

對馬直紀「統計資料から見た死刑の運用状況」JCCD六四号

辻本義男「アメリカ合衆国の死刑状況——一九九〇年、一九九一年」中央学院大学法学論叢六卷二号

辻本義男「欧州議会の死刑に関する決議」中央学院大学総合論叢復刊一号

辻本義男「正義は生命より重いか」月刊状況と主体二〇九号

辻本義男「台湾における死刑制度」インパクション八〇号

辻本義男「正義は天上の星の輝きか」女の会ニュース六月号

辻本義男「アメリカインディアンと死刑——国際先住民年によせて」中央学院大学法学論叢七卷一号

鶴見俊輔「殺人を避ける方法」かたつむりの会編『殺すこと殺されること』（インパクト出版会）

ヤン・デンマン「『死刑』騒ぎ」週刊新潮二二月九日号

寺中誠「政治的文脈のなかの死刑」インパクション八〇号

藤堂憶斗「『死刑廃止条約』と人権B規約」宮崎繁樹他著『現代日本の人権状況』（大村書店）

永島靖久「刑事法体系再編と死刑」インパクション八〇号

中根憲一「アメリカの死刑91」調査と情報二二二号

中山研一「死刑制度——死刑執行再開の中で」法学教室一五四号

中山千夏「死刑制度に正義はない」部落解放三二四号

西原春夫「直言 死刑廃止論に思う」世界週報二月二日号

西村春夫「図書紹介——菊田幸一編著『死刑と世論』」JCCD六五号

野坂昭如「死刑がある以上、死刑囚は、殺されるべきである」週刊文春四月八日号

野村秋介「十六の墓標」は誰がために」宝石二二卷四号

野本三吉「子殺し、親殺し、仲間殺し」かたつむりの会編『殺すこと殺されること』（インパクト出版

会）

早川武夫「アメリカの死刑論このごろ」「凶悪少年犯罪と死刑」「続 アメリカ法の最前線」（日本評論社）

朴秉植「韓国の死刑制度と日本」インパクトシン八〇号

原田昭「特集——私の読んだ死刑『死刑廃止を考える』」死刑廃止ニュース・スペシャル六号

日方ヒロコ「この恥を世界にさらして再出発」女の会ニュース六月号

日高義博「死刑存廃論について」警察公論四八巻八号

土方鉄「獄中からの短歌」部落解放三四四号

福田雅章「日本権力構造の腐敗と死刑執行の再開」法と民主主義二七七号

福田雅章・黒岩哲彦「女子高校生監禁死亡事件——少年事件研究会レポート」法律時報六五巻一号

福田雅章・内海愛子「日本はなぜ死刑を手ばなせないのか——戦争裁判と戦後社会文化構造を考える」イン

パクション八〇号

ふじたちずこ「死刑囚と向かいあいながら」インパクション八〇号

フジワラ・ケンタ「三年四ヶ月ぶりの死刑執行から二ヶ月、死刑廃止に関する『ミニ・メディア』制

作スタッフに訊く」マガ・ペディア五月号

船山泰範「少年犯罪『報道』の視座——少年法五一条を手がかりに」政経研究二九卷二号

古畑恒雄「ある革命戦士との出会い」捜査研究四二卷三号

E・プロコシュ（辻本義男訳）「死刑廃止のために」JCCD六四号

戸次公正「そろそろ日本に引導を渡すとき」かたつむりの会編『殺すこと殺されること』（インパクト

出版会）

堀内修「王妃の罪」本一八卷五号

前野育三「死刑囚の処遇——法と政治四四卷二号

増本弘文「二人殺害三人重傷の事案につき一審で死刑二審で無期懲役が言い渡された事例（判例研究）」甲

南法学三四卷一号

松尾哲成「合法的な殺人——仏教者は「死刑」をどう考えるのか」りゅうごく四九号

丸山尚「死刑制度は文明国に似合わない」月刊マスコミ市民二九七号

丸岡修「死刑制度の存廃を考える」話の特集三三一号

丸山友岐子「死刑廃止わたしの三十年」話の特集三三一号

丸山友岐子「わき上がった殺すな、の叫び・・・一日も早く死刑廃止を」女の会ニュース六月号

丸山友岐子「死刑執行停止法案の実現を・・・」女の会ニュース六月号

水田ふう「かたつむりの会連続講座を実施して」インパクション八〇号

村井敏邦・大出良知「それなりの証明で死刑——名張事件再審請求異議審決定批判」法学セミナー七月号

村椿るつ「存続か廃止か——死刑制度を問い直す」MEANING一〇月号

森下忠「ハンガリーの刑法事情」判例時報一四四八号

森田泰元「被害者の遺族にも言わせてほしい」諸君二五卷六号

吉田昌史「死刑存廃論に関する若干の考察」駒沢大学大学院公法学研究一七一一八号

安田好弘「なぜいま死刑執行なのか——三人処刑に抗議する」インパクション八〇号

山口正紀「大スクープか、情報操作か 読売『死刑執行』報道への疑問符」法学セミナー六月号

ヤン・デンマン「コンフィデンシャル東京情報——二十年裁判の無駄」週刊新潮三月四日号

李相赫「韓国の死刑制度および死刑廃止運動」JCCD六四号

「死刑制度」『御意見番——ジャンル別「評論家」案内』（自由国民社）

「死刑廃止を求める刑事法研究者意見集」法学セミナー一〇月号

「死刑廃止を求める刑事法研究者のアピール」法学セミナー一〇月号

「対決 死刑、復讐、国家 加賀乙彦の野坂昭如」諸君二五卷六号

「死刑廃止か存続か」AERA三月二日号

「ゆれうごく死刑制度——残る抑止力の神話」法学セミナー三月号

「連合赤軍死刑囚坂口弘の拘留所生活」週刊文春三月四日号

「絶叫歌人 福島泰樹が読む連合赤軍坂口弘被告の短歌」週刊朝日三月五日号

「死刑囚・坂口弘『獄中短歌』女性セブン三月一八日号

「特集 私が読んだ死刑」死刑廃止ニュース・スペシャル六号

「歴代法相敬遠の死刑命令書にサインする後藤田硬骨漢」週刊読売四月一日号

「『死刑』三人のやったこと『人間』じゃない」週刊新潮四月八日号

「後藤田法相が判を押した死刑囚の罪状」フォーカス四月九日号

「『死刑囚のプライバシー』で情報管理」AERA四月二三日号

「死刑制度の是非を堂々と論じよう」週刊プレイボーイ四月二〇日号

「戦慄——死刑執行を見つづけた元看守が語る『その瞬間』フラッシュ四月二〇日号

「女子中学生連続殺人犯はなぜ上告」週刊アサヒ芸能六月一七日号

「特集 なぜいま執行なのか」「特集 アジアから死刑廃止を」インパクション八〇号

「死刑執行抗議号」女の会ニュース六月号

「死刑執行再開・死刑廃止運動によせて」裁判と科学八号

「死刑囚・永田洋子」女性セブナー〇月二二日号

「勝田清孝被告『それでも死刑だけは』の論拠」サンデー毎日一一月二八日号

「死刑執行の『踏み絵』踏んだ細川政権」アエラ一二月一三日号

「特集 死刑」週刊読売一二月一九日号

一九九四年

江川紹子『六人目の犠牲者』（文芸春秋）

かたつむりの会編『死刑の文化を問いなおす——死刑制度と日本社会Ⅱ』（インパクト出版会）

佐木隆三『死刑囚 永山則夫』（講談社）

佐藤友之『死刑の日本史』（三一書房）

死刑廃止キリスト者連絡会編『死刑廃止とキリスト教』（新教出版社）

島田莊司『世紀末日本紀行』（講談社）

フランク・ジョーンズ（立石光子訳）『女性殺人者たち』（青弓社）

鈴木敬夫編訳『中国の死刑制度と労働改造』（成文堂）

鈴木義男編『アメリカ刑事判例研究 第四卷』（成文堂）

辻本義男『死刑論』（丸善プラネット）

野崎六助『李珍宇ノオト』（三一書房）

宮野彬『揺れる絞首刑台』（近代文明社）

免田栄『死刑囚の手記』（イースト・プレス）

吉田和正『誘う女 ドキュメント日本闇殺人事件』（三一書房）

T・J・リーチ（岩本正恵訳）『絞首刑執行人の日記』（青弓社）

ロバート・K・レスラー、トム・シャットマン（相原真理子訳）『FBI心理分析官』（早川書房）

『しるし 春霞号』（坂口菊枝さんを支える会）

アムネスティ・インターナショナル・辻本衣佐訳『中国の死刑——一九九一年 薬物と死刑』JCCD六八号

アムネスティ・インターナショナル・辻本義男訳『死刑存廃国リスト（一九九三年一二月現在）』JCCD六八号

アムネスティ・インターナショナル・辻本衣佐訳『中国の死刑——一九九二年 数多くの犠牲者』JCCD六九号

浅野泰蔵『死刑・仏弟子の殺人』大法輪六一巻二号

青木人志『執行』が破られたあと（ワンテーマガイド）」法学セミナー六月号

石塚伸「Todesstrafe und Lebenslange Freiheitsstrafe in Japan: Zur utilitaristischen Basis ihrer Abschaffung,」北九州大学法政論集二二巻一号

上野芳久「人種差別の影響を示唆する実証的研究を根拠とした死刑違憲論の当否——McLeskey v. Kemp, 481 U.S. 279 (1987)」鈴木義男編『アメリカ刑事判例研究 第四巻』（成文堂）

上野芳久「未決勾留中の良好な態度と死刑軽減事由——Skipper v. South Carolina, 476 U.S. 1 (1986)」鈴木義男編『アメリカ刑事判例研究 第四巻』（成文堂）

上野芳久「死刑量刑段階で陪審員に単なる同情で判断しないよう説示することの合憲性——California v. Brown, 476 U.S. 538 (1987)」鈴木義男編『アメリカ刑事判例研究 第四巻』（成文堂）

上野芳久「少年に対する死刑」澤登俊雄編『世界諸国の少年法制』

上野芳久「死刑判決の瑕疵と上訴裁判所におけるその治療に関するアメリカ連邦最高裁の判例」国学

院大学法政論叢二二号

内海愛子「死刑台から見た二つの国」かたつむりの会編『死刑の文化を問いなおす——死刑制度と日本社

会II』

大林茂喜「生命への執念か——死刑囚の脱獄①⑧」（岩田 政義昭和の事件帳）月刊警察二二巻一一号、一

二号、一二巻一号、三号、四号、五号、六号、七号

大久保泰甫「ボアソナード」罪と罰三一巻二号

大森勝久「北海道庁爆破・死刑確定を糾弾する」インパクション八八号

小野修三「小河滋次郎の行刑思想——刑法改正案をめぐる」法学研究六七巻一二号

海江田万里「罪を憎んで人を憎まず」創二四巻二号

寛正豊和「死刑問題の最近の系譜」千葉敬愛短期大学紀要一六号

鎌田慧「理想、理念を持ち続けたい」創二四巻二号

金子修「死刑囚取り合い事件」海外司法ジャーナル一号

笠原秀「中国死刑囚の臓器摘出の事実はあるか」アジア記者クラブ通信二七号

河上和雄「少年に対する死刑判決」月刊警察一二巻一〇号

川崎英明「刑事再審の現状と総合評価」法学雑誌四〇巻三号

関西大学大学院外国刑事判例研究会「ローデリッヒ・マルティス『死刑の機能——現代における死刑の実

体についての批判的分析』(1) Roderich Martis, Die Funktionen der Todesstrafe, eine

Kritische Analyse zur Realität der Todesstrafe in der Gegenwart, Bonn 1991〈資料〉」関西大学

大学院法学ジャーナル六一号

関西大学大学院外国刑事判例研究会「ローデリッヒ・マルティス『死刑の機能——現代における死刑の実

体についての批判的分析』(2) Roderich Martis, Die Funktionen der Todesstrafe, eine

大学院法学ジャーナル六二号

菊田幸一「死刑廃止への潮流」公明四月号

菊田幸一「アメリカにおける確定死刑囚の扱い——ニュー・ジャージー州立刑務所の例にみる」JCCD六

八号

菊田幸一「今こそ、死刑廃止議員連盟の結成を」JCCD六八号

菊田幸一「いまなぜ世論調査か——死刑は世論に追従するものではない」JCCD六九号

菊田幸一・辻本義男「対談 死刑廃止への展望」JCCD六九号

葛野尋之「国際的人権保障の発展と死刑廃止の課題」INTERJURIST八九

倉田卓次「死刑廃止の条件」法令ニュース二九卷七号

小林久三「死刑に代わる制度を」創二四卷二号

サオリスト「敗戦直後の死刑存廃論議——一九四八年死刑合憲判決をめぐる」アムネスティ・ニュースレ

ター二五六号

佐木隆三「『従容たる死』の虚しさ」創二四卷二号

佐木隆三「調べて書くこと——『死刑囚 永山則夫』のモチーフ」本一九卷八号

佐高信「佐高信の人生の詩（二〇）——坂口弘」墨一九卷一号

佐藤道夫「地に足のついた死刑存廃論議を」週刊朝日一月二八日号

佐藤道夫「立派に死んだ死刑囚の最後」週刊朝日四月八日号

佐藤恵「死刑廃止をめぐる」大法輪六一巻一〇号

島田莊司「日本人よ①④」月刊オーパス六月号～九月号

志賀正昭「私のなかの死刑と人権」ACADEMIA四号

島田莊司「日本人よ⑤⑥」オーパス一〇月号、十一月号

鈴木清「刑事指導官覚え書 帝銀事件①②③」月刊警察一二巻八号、九号、一〇号

須田わぐり「死刑と人権を考える」ACADEMIA四号

関口千恵「二見伸明氏に聞く——死刑廃止を推進する議員連盟の設立／国会で本格的に取り組みたい（イン

タビュー・ロー・ジャーナル）」法学セミナー六月号

立松和平「怨みをすててこそ息む」創二四巻二号

田中輝和「死刑者供養会」ジュリスト一〇五五号

団藤重光「刑法理論と死刑廃止論」法学教室一六七号

辻本義男「死刑の執行を報道する権利」中央学院大学総合論叢二号

辻本義男「アメリカ合衆国の死刑状況（4）」中央学院大学法学論叢七巻二号

土本武司「実証的死刑論」研修五五二号

富岡幸一郎「佐木隆三『死刑囚 永山則夫』」現代二八卷一〇号

ヤン・デンマン「生かすか殺すか」週刊新潮一月六二号

ヤン・デンマン「この日本人、中国なら死刑」週刊新潮二月三日号

中空壽雅「心神喪失者に対する死刑の執行と修正八条——Ford v. Wainwright, 477 U.S. 399 (1986)」鈴

木義男編『アメリカ刑事判例研究 第四卷』（成文堂）

中山千夏「死刑と皇后」創二四卷二号

中山光勝「明治初年の自裁規則——明治法制史料断片（1）」棲神六六号

中尾幸司「一家四人惨殺事件 死刑判決文が明かした十九歳少年の暴虐と凌辱」MARCO九月号

中道武美「七〇歳死刑囚最後の手紙」法学セミナー三九卷二号

なだいなだ「安心の危険より『不安の安全』」かたつむりの会編『死刑の文化を問いなおす——死刑制

度と日本社会Ⅱ』（一九九四年）

新倉修「殺人の実行行為に關与しない共犯者に対する死刑判決と残虐な刑罰の禁止——Tison v. Arizona,

481 U.S. 137 (1987)」鈴木義男編『アメリカ刑事判例研究 第四卷』（成文堂）

新島淳良「中国の死刑」かたつむりの会編『死刑の文化を問いなおす——死刑制度と日本社会Ⅱ』

新村繁文「死刑執行命令は法相の義務か」地域社会研究五号

浜谷英博「憲法第三六条『残虐な刑罰』と死刑」比較憲法学研究五号

原田保「被害状況調書に基づく死刑判決の合憲性——Booth v. Maryland, 428 U.S. 496 (1987)」鈴木義男

編『アメリカ刑事判例研究 第四卷』（成文堂）

平川宗信「大野補足意見と死刑廃止論」法学教室一六〇号

藤本哲也「ポルトガル共和国における死刑」白門四五卷四号

藤本哲也「死刑存廃論の争点」白門四五卷八号

堀内修「処刑の決断」本一九卷二号

丸山友岐子「恥しらずな大量処刑」話の特集三三八号

ジェームス・三木「私なりの覚悟」創二四卷二号

宮野彬「法学部生は死刑の問題をどう考えたか（上）（下）」——講義と研究の共同シリーズ① 学生との対話

死刑の問題」明治学院論争法学研究五二号、五三号

宮野彬「法学部生は死刑の問題をどう考えたか（上）（下）」紀要五二〇法学研究五二、紀要五二六法学研

究五三

宮原哲朗「名張毒ぶどう酒事件」法と民主主義二九二号

宮本弘典「無実と死刑の間——死刑と誤判に関する一考察」日本の科学者二八卷一〇号

村井敏邦「法律学は何をなすべきか」法と民主主義二九二号

免田栄「死の淵からの叫び」法と民主主義二九二号

免田栄「死刑制度を廃止しよう（インタビュー）」部落解放三六九号

免田栄・丸山友岐子（対談）「死刑制度について考える 未だに私は死刑囚なんです」話の特集三四〇号

森毅「ぼくは正義がキライだ」かたつむりの会編『死刑の文化を問いなおす——死刑制度と日本社会Ⅱ』

森下忠「死刑と犯罪人引渡」法令ニュース二七卷二号

森下忠「犯罪人引渡しと死刑」判例時報一四七五号

森下忠「死刑犯罪の逃亡犯罪人」法令ニュース二九卷七号

安田好弘「法務省の四人同時処刑という蛮行を死刑廃止へのステップへ」インパクション八四号

安田好弘「死刑廃止運動が目指すもの」現代と展望三四号

矢野祐子「ボアソナードの死刑廃止論に関する一考察」慶応義塾大学法学政治学論究一七号

山之内幸夫「死刑囚の知られざる独房生活」アエラ一月二四日号

山田有宏「死刑制度の存廃について」敦賀論叢九号

吉田智弥「死刑がなくなればこの世は闇だ」かたつむりの会編『死刑の文化を問いなおす——死刑制

度と日本社会Ⅱ』

ホセ・ヨンプルト「死刑への私の提案」同朋七月号

日弁連人権擁護委員会・死刑問題調査研究委員会「死刑問題に関する調査研究中間報告書」自由と正

義四五卷五号

東京弁護士会人權容疑委員会・刑法「改正」問題対策特別委員会「死刑存廃問題に関する東京弁護士会会員アンケート」東弁新聞二三〇号

北九州大学法学部石塚ゼミ「第六回 石塚ゼミ論文集」

「獄中で公務員年金を受給する『元警官』死刑囚」週刊文春一月六日号

「死刑はやメヨ」女の会ニュース一月号

「世界の流れに逆行する死刑執行、年に七人という衝撃」ダカーポ二九三号

「犯人は東京都の衛生局で働いていた」サンデー毎日二月六日号

「法曹界新事情 『国際国家日本』に残る死刑制度 死刑問題のゆくえ」法学セミナー七月号

「特集 死刑囚は訴える（獄中編集版）」インパクション四一号

「特集 死刑と無罪 政治的冤罪の現状」インパクション二四号

「特集 法律家として市民として死刑問題をどう考え、いかにむきあうか」法と民主主義二九二号

「裁判と争点 北海道庁爆破事件が六月に結審——最高裁で三度目の検証作業」法学セミナー八月号

「殺人——ドキュメント アメリカ」ニューズウィーク九月七日号

一九九五年

アムネスティ・インターナショナル編（辻本義男・辻本衣佐訳）『日本の死刑——残虐、非人道的かつ恣意的な刑罰』（成文堂）

岩田礼著『煉獄 女たちの虎の門事件』（三一書房）

植松正『刑法の話題』（信山社）

大塚公子著『五七人の死刑囚』（角川書店）

関東弁護士連合会『死刑を考える 平成七年度関東連シンプोजウム報告書——本編・資料編』（関東弁護士

連合会）

坂口弘著『続 あさま山荘1972』（彩流社）

重松一義著『死刑制度必要論——その哲学的・理論的・現実的論拠』（信山社）

純多摩良樹歌集『死に至る罪』（短歌新聞社）

富谷至著『古代中国の刑罰』（中央公論社）

三原憲三著『死刑存廃論の系譜 第二版』（成文堂）

村野薫著『ドキュメント 死刑執行（新版）』（洋泉社）

名古屋弁護士会『ゆれる死刑制度——死刑の執行停止を考えよう（シンプोजウム報告書）』（名古屋弁護士会）

CIDOプロ編『猟奇殺人のカタログ50』（ジャパン・ミックス）

ジル・ペロー（白取祐司訳）『赤いセーターは知っていた』（上・下）（日本評論社）

『しるし 清秋号（九号）』（坂口菊枝さんを支える会）

渥美東洋「日本の現行の死刑制度は廃止されるべきか」刑法雑誌三五卷一号

新井勉『「大津事件」研究動向覚書（二）——山中敬一著『論考大津事件』の書評を兼ねて』日本法学六一

卷二号

今井恭平「無実の死刑囚の解放を 死刑囚監房のアフロ・ジャーナリスト ムミア・アブ・ジャマル」イ

ンパクション九四号

アムネスティ・インターナショナル（辻本義男訳）「アメリカ合衆国大統領への死刑に関する公開書簡」中

央学院大学総合論叢三号

アムネスティ・インターナショナル（辻本衣佐訳）「中国の死刑——一九九三年九月以降の死刑判決および

処刑の前例のない増加」JCCD七二号

石堂功卓「死刑制度の再検討」中京法学二九卷二・三・四号

岩井信「死刑は国家が殺人者と同じ論理に立つことだ」SAPIO十一月八日号

岩井信「いまこそ、死刑廃止の声を」アムネスティ・ニュースレター二六九号

岩井宜子「死刑の適用基準」刑法雑誌三五卷一号

岩井宜子「菊田幸一著 いま、なぜ死刑廃止かへ丸善ライブラリー」学鑑九二卷四号

宇佐和通「全米死刑囚これが最後の食事だ」GON一卷二号

大隅義和「憲法規範の緊張関係——『個人の尊厳』と死刑制度」法政研究六一卷三・四合併号

大塚公子「死刑制度と教誨師」大法輪六二卷六号

岡崎敬「死刑事件被告人の控訴取下を無効とした最高裁決定」季刊刑事弁護四号

尾崎良康「死刑の時効についての再論——今回の刑法改正に寄せて」愛知教育大学社会科学論集三四号

尾崎良康「団藤重光先生の『死刑廃止論（第四版）』に寄せて」愛知教育大学社会科学論集三四号

小田晋「死刑廃止論の心理的検証」森下忠先生古稀祝賀『変動期の刑事政策』所収（成文堂）

小野坂弘「死刑制度と憲法秩序」刑法雑誌三五卷一号

覚正豊和「本当の自分を生きたい出版妨害訴訟とは」JCCD七三号

景山弘・河野正英「死刑制度における問題点と今後の展望」岡山理科大学紀要（人文・社会科学三〇号）

霞信彦「通貨偽造は『梟』（その一）」書斎の窓四四九号

霞信彦「法務省図書館所蔵史料にみる『夜嵐お絹』のことども」刑政一〇六卷四号

加藤久雄「刑事政策の二極化傾向について——ポードレス時代における刑事政策の課題について」森下忠

先生古稀祝賀『変動期の刑事政策』（成文堂）

加藤久雄「死刑存廃論」『ポードレス時代の刑事政策』所収（有斐閣）

菊田幸一「出版妨害訴訟の原告となって」通信 本当の自分を生きたい出版妨害訴訟 1

菊田幸一「死刑執行に対する権力側の論理」JCCD七二号

菊田幸一「地下鉄サリン事件と死刑」JCCD七三号

菊田幸一「判例に見る死刑囚の外部交通権①——平峰判決をめぐって」通信 本当の自分を生きたい出版

妨害訴訟2

菊田幸一「それでも麻原を死刑にしていけない」RONZA一卷九号

菊田幸一「風速」ニューヨーク州の死刑復活」NCCD JAPAN二号

北野芳生「死刑廃止について」月刊警察一三卷五号

吉川智「一九八七年、香港返還に伴う法的諸問題」政教研紀要一九号

木村修治「確定死刑囚の人権を争う」通信 本当の自分を生きたい出版妨害訴訟1

木村修治「確定死刑囚である原告としての立場から」通信 本当の自分を生きたい出版妨害訴訟2

デービッド・キャプラン「現在の死刑制度は有名無実」ニューズウィーク（日本版）八月九日号

倉田卓次「死刑廃止の条件」同『続々裁判官の書斎』所収（勁草書房）

倉田靖司「イギリスにおける死刑廃止」研修五六五号

呉智英「近代法の『死刑』が封じ込めた『復讐権』こそ基本的人権だ」SAPIO一一月八日号

サオリスト「戦後日本の死刑廃止運動史⑤」アムネスティ・ニュースレター二六五号

サオリスト「戦後日本の死刑廃止運動史⑥」アムネスティ・ニュースレター二六六号

サオリスト「戦後日本の死刑廃止運動史⑦」アムネスティ・ニュースレター二六七号

サオリスト「戦後日本の死刑廃止運動史⑧」アムネスティ・ニュースレター二六八号

佐木隆三「被告人と弁護人」図書五五三号

佐木隆三「精神鑑定と死刑の歪んだ関係」SAPIO一月二二日号

佐々木光明「少年の死刑と子どもの権利条約——市川事件は何を提起したのか」青年法律家二八九号

サム・シーバート「そして彼女は死刑を免れた」ニューズウィーク（日本版）八月九日号

佐藤道夫「遺族の復讐を避ける裁判こそ人類の知恵だ」SAPIO一月八日号

真田芳憲「イスラーム法と信教——改宗の自由」比較法雑誌二九卷一号

重松一義「死刑制度永久必要論——その哲学的・理論的・現実的論拠」中央学院大学法学論叢八卷二号

杉浦明平「サリン事件と帝銀事件」部落解放三八七号

関哲夫「死刑存廃論および学生の考え」國學院大學紀要三三三号

瀬戸内寂聴「死刑囚と萌さんの絵」『人が好き 私の履歴書』（講談社）

竹内正子「帝銀事件の悪夢」『「文藝春秋」にみる昭和史（2）』（文藝春秋一九八八年、一九九五年）

竹澤哲夫「死刑再審と個別恩赦」日本弁護士連合会編『日弁連・弁護士会人権救済申立事例集——人権侵

害の根絶をめざして』（明石書店）

竹下景子「死刑」アエラ五五号

田中久智・里見理都香・田中希世子『国際会議。チエーザレ・ベッカリニアと現代刑事政策』——特にチエーザレ・ベッカリニアのオーストリア、アメリカ合衆国、中国に及ぼした影響について」国士館法学二七号

田丸美寿々「取材を通して死刑制度の矛盾が見えた」季刊刑事弁護四号

田村勇「斬首論」歴史民俗学一号

塚越正光「名張事件——名張事件第五次再審請求異議書 名古屋高裁平五・三・三一決定」季刊刑事弁護三三号

辻本義男「フィリピン一九八七年憲法の改正——死刑の復活」『現代の諸問題とその分析 IV』（中央学院大学総合科学研究所研究年報四号）

辻本義男「中華民国（台湾）における死刑存廃に関する世論調査」中央学院大学法学論叢八卷二号

辻本義男「フィリピン共和国にみる死刑の復活」西原春夫・渥美東洋編『刑事法学の新動向 下巻——下

村康正先生古稀祝賀』（成文堂）

辻本義男「死刑 問題に関する文献の若干（補遺三九）」JCCD七二号

辻本義男「アメリカの女性犯罪者と死刑」NCCD JAPAN二二号

辻本義男「アメリカ合衆国の死刑状況（その六）——一九九四年」中央学院大学法学論叢九卷一号

辻本義男・辻本衣佐編「死刑問題に関する文献（二）」NCCD JAPAN二二号

土本武司「実証的死刑論」西原春夫・渥美東洋編『刑事法学の新動向 上巻——下村康正先生古稀祝賀』

(成文堂)

鶴見俊輔「〈私の書評〉団藤重光著『死刑廃止論』(第四版)」書齋の窓四四四号

徳川信治「自由人權規約六条と死刑問題(1)」立命館法学二二九号

徳川信治「自由権規約六条と死刑問題(2・完)」立命館法学二四〇号

徳宿恭男「わが国の死刑制度とその運用」レファレンス五三九号

東京弁護士会人權擁護委員会死刑部会・刑法「改正」対策特別委員会「死刑の存廃論議を再び」東弁新聞

二四四号

中谷雄二郎「死刑判決の言渡しを受けた被告人の控訴取下げが無効とされた事例〔時の判例〕」ジュリスト

一〇七五号

長岡龍一「死刑の展望」東北学院大学論集(法律学)四七号

日本弁護士連合会死刑制度問題対策連絡協議会「死刑制度問題に関する討議資料」自由と正義四六巻一一

号

庭山英雄「袴田事件再審請求棄却決定〈判例研究〉」専修法学論集六三三号

服部朗・辻本衣佐「死刑」西原春夫・新倉修・山口厚・井田良・松宮孝明編『刑法マテリアルズ』(柏書

房)

日高義博「下級審判例における死刑判決事例3例」判例評論四三六号

平川宗信「特集 死刑制度の検討 はじめに」刑法雑誌三五卷一号

深田卓「『本当の自分を生きたい——死刑囚・木村修治の手記』出版妨害訴訟とは」「死刑囚に出版の自由を」通信 本当の自分を生きたい出版妨害訴訟1

深田卓「意見陳述」本当の自分を生きたい出版妨害訴訟2

福田雅章「法務大臣に死刑執行の義務はあるか——死刑執行の停止に関する予備調査を踏まえて」刑法雑誌三五卷一号

本江威熹「死刑の刑事政策的意義について」刑法雑誌三五卷一号

ヒューゴ・アダム・ベドールマイケル・L・ラドウレット（池田秀彦訳）「アメリカにおける死刑事件の誤

判（3）」創価法学二四卷一号

ヒューゴ・アダム・ベドールマイケル・L・ラドウレット（池田秀彦訳）「アメリカにおける死刑事件の誤

判（4）」創価法学二四卷一号

増本弘文「死刑判決の具体的量刑基準の検討——永山第一次最高裁判決以後の判決を素材にして」奈良大

学紀要二三号

水谷規男「ルペチエ——フランス革命初期における啓蒙刑法思想」東京刑事法研究会編『啓蒙思想と刑事

法』（勁草書房）

三成美保「子殺しの女の罪と罰——男らしい法・女らしい法（4）」書齋の窓四四六号

三原憲三「市民感覚のなかでの死刑論議の必要」NCCD JAPAN 創刊号

宮野彬「死刑に代わる終身刑は残虐な刑罰か」明治学院大学法律科学研究所年報一一号

宮本弘典「ユーセフ・フォン・ソネンフェルス——不屈の実利的拷問廃止論者」東京刑事法研究会編『啓蒙思想と刑事法』（勁草書房）

蒙思想と刑事法』（勁草書房）

免田栄「死刑制度の存廃（講演）」龍谷二八卷二号

森下忠「フィリピンの犯罪情勢 海外刑法だより（123）」判例時報一五二九号

八木國之「新聞論壇の死刑論批判——土本・西原両教授を中心に」JCCD七一号

安島敏市「息子は残虐に処刑された」インパクション九〇号

安島幸雄「自己中心の心を克服したい」インパクション九〇号

安田好弘「社会党政権、二度目の死刑執行」インパクション九二号

山川隆久「関東弁護士連合会定期大会報告——平成七年九月二九日 於・浜松市」自由と正義四六卷一一号

号

山口直也「少年に対する死刑——アメリカにおける最近の動向（2）」一橋研究一九卷二号

山口正紀「世論調査という名の世論操作」法学セミナー四八四号

山口正紀「死刑の日常化を問う報道こそ」法学セミナー四八八号

山本雄二「誰がインテリを信じたか——『大久保清・八女性連続殺人事件』が孕む問い」月刊少年育成四

○巻八号

渡邊眞次「再審で無罪となった元死刑囚に対するテレビ放言事件」日本弁護士連合会編『日弁連・弁護士
会人権救済申立事例集——人権侵害の根絶をめざして』（明石書店）

総理府広報室「基本的法制度」月刊世論調査二七卷一号

「四カ月前に死刑執行された生々しい遺体の衝撃度、死刑制度は抑止力といいつつ処刑実態は非公開」噂
の真相五月号

「あさま山荘事件・死刑囚の病状」週刊文春 八月三十一日号

「死刑廃止論者と麻原彰晃——オウム裁判」サンデー毎日一〇月八日号

「『少年法』でこの残虐性犯罪者を救うべきか」SAPIO一九九五年一二月六日号

「【新刊紹介】大塚公子『五七人の死刑囚』NCCD JAPAN二号

「特集 死刑制度の検討」刑法雑誌三五卷一号

一九九六年

伊佐千尋・渡部保夫『日本の刑事裁判 冤罪・死刑・陪審』（中公文庫）

石井藤吉『石井藤吉さんげ録 天国への死刑囚』（真菜書房）

石塚伸一『刑事政策のパラダイム転換』

伊藤信吉『監獄裏の詩人たち』（新潮社）

猪瀬直樹『瀕死のジャーナリズム』（文芸春秋）

遠藤誠・佐藤友之『オウム事件と日本の宗教』（三一新書）

大塚公子『死刑囚最後の瞬間』（角川文庫）

ガース柳下『世界殺人鬼百選』（ぶんか社）

影山任佐『殺人学ハンドブック』（ソフィア）

北村泰三著『国際人権と刑事拘禁』（日本評論社）

倉田哲治『倉田辯護士事件簿』（コスモヒルズ）

来栖宥子『一一三号事件 勝田清孝の真実』（恒友出版）

佐々淳行『連合赤軍『あさま山荘』事件』（文芸春秋）

佐伯省『疑惑——帝銀事件 最高機密の化学兵器』（講談社出版サービスセンター）

佐藤友之『死刑囚のうた』（現代書館）

佐藤友之『さあ、死刑について話し合おう』（メディア・ルネッサンス）

島田莊司『死刑囚・秋好英明との書簡集』（南雲堂）

高橋檀編『しるし 春寒号（一〇号）』（坂口菊枝さんを支える会）

高橋壇編『しるし 極月号(一一号)』(坂口菊枝さんを支える会)

中山千夏『ヒットラーでも死刑にしないの?』(築地書館)

宗岡嗣郎『法と実存——〈反死刑〉の論理』(成文堂)

前坂俊之・監修『殺人法廷ケースブック(4)』(皓星社)

免田栄著『死刑囚の告白』(イースト・プレス)

森武夫『かれらはなぜ犯罪を犯したか』(専修大学出版局)

吉永春子『謎の毒薬——推究帝銀事件』(講談社)

年報・死刑廃止編集委員会『年報・死刑廃止九六 「オウムに死刑を」にどう応えるか』(インパクト出

版会)

東アジア反日武装戦線への死刑・重刑攻撃とたたかう支援連絡会議編『あの狼煙はいま』(インパクト出版)

アーネスト・J・ゲインズ著(中野康司訳)『ジェファーンソンの死』(集英社)

トーマス・E・カディスII ジェームス・O・ロング著(奥平謙二訳)『第一級殺人』(扶桑社)

R・バダンテール(藤田真利子訳)『死刑執行』(新潮社)

マーシャ・ブロンソン著(依田和子訳)『世界を救う国際4 アムネスティ』(偕成社)

ポール・モーンズ著(中村三千恵訳)『遺伝子捜査』(二見書房)

ヘレン・ブレジャン著（中神由紀子訳）『デッドマン・ウォーキング』（徳間書房）

マルタン・モネステイエ著（吉田春美・大塚宏子訳）『図説死刑全書』（原書房）

アムネスティ・インターナショナル著（アムネスティ・インターナショナル日本支部訳）『アムネスティ・レポート 中国の人権』（明石書店）

デーン・アーチャー&ローズマリー・ガードナー（影山任佐訳）『暴力と殺人の国際比較』（日本評論社）

マイク・ジェイムズ編（金子浩訳）『愛欲と殺人——世界の愛憎猟奇殺人50』（扶桑社ノンフィクション）

ステイヴン・ネイフェ／グレゴリー・ホワイト・スミス（北代晋一訳）『家族のなかの殺人者』（同朋舎出版）

ジェームズ・アラン・フォックス&ジャック・レヴィン（吉田利子訳）『殺しすぎた人々——性的サディズムからカルトまで』（草思社）

ステイヴ・マルティニ（菊谷匡祐訳）『依頼なき弁護（上）（下）』（集英社文庫）

ジョン・T・レスクワ（猪俣美江子訳）『十三人目の審判（上）（下）』（早川書房）

ケン・サロウウィワ（福島富士男訳）『ナイジェリアの獄中から——処刑されたオゴニ人作家、最後の手記』（スリーエーネットワーク）

マイケル・ギルモア（村上春樹訳）『心臓を貫かれて』（文芸春秋）

ジェフリー・グッド／スーザン・ゴーレック（小菅正夫訳）『FBI行動科学班 毒物知能犯の心理分析』

（徳間書店）

ロバート・D・ケッペル／ウイリアム・J・バーンズ（戸根由紀恵訳）『死体を愛した男』（翔泳社）
ルドルフ・シュトレビンガー（守屋純訳）『赤軍大粛清』（学習研究社）

パトリシア・スタインホフ／伊東良徳『連合赤軍とオウム真理教』（彩流社）

ハリー・ウー／ジョージ・ベクシー（山田耕介訳）『労改』（TBSブリタニカ）

アンソニー・ブルーノ（紅葉誠一訳）『氷の処刑人』（翔泳社）

ロバート・K・レスラー／トム・シャットマン（田中一江訳）『FBI心理分析官2』（早川書房）

オリヴァー・サイリヤックス（柳下毅一郎訳）『世界犯罪百科全書』（原書房）

青木人志『死刑存廃論議への比較法的接近』一橋論叢一一五巻四号

足立昌勝『死刑廃止にむけて』『刑法学批判序説』（白順社）

アムネスティ・インターナショナル（辻本衣佐訳）『中国の死刑——一九九四年、一九九五年の現況』中

央学院大学総合科学研究所紀要一二巻一号

安部哲夫『ラートブルフの行刑論——人間主義を原点として』刑政一〇七巻八号

新井勉『『大津事件』研究動向覚書（二・完）——『穂積歌子日記』・『ニコライ二世の日記』日本法学六一

巻四号

新井勉「大津事件における天皇の裁判干渉——疑問・批判への酬答」日本法学六二卷二号

有田VS野崎研二「麻原に翻弄される国選弁護団はクビだ」週刊朝日十一月二二日号

有谷三樹彦「大津事件にみる対露意識と司法権の独立」久留米大学法学二七号

栗屋剛「中国における死刑囚からの臓器移植」法律時報六八卷九号

石塚伸一「刑事確定訴訟記録の閲覧と学問の自由」北九州大学法政論集二四卷一号

今井恭平「死刑廃止運動とムミア支援活動を中心にして」インパクション九八号

今井雄一朗「廃すべき刑罰——死刑制度」石塚ゼミ論文集第八回

石川仲伊「宗教教誨の一端について」矯正の窓六号

イーデス・ハンソン「オウム裁判 私もサリン犯は憎い。でも死刑は乱暴」週刊朝日一月一九日号

稲田二郎「死刑問題を考える 控訴取り下げ問題について」マスコミ市民三三七号

岩井信「死の序列化に抗して——死刑廃止運動の今後に向けて」インパクション一〇〇号

上野達彦「現代ロシア社会における犯罪・非行（一八）殺人と死刑」法律のひろば四九卷五号

上野芳久「死刑量刑段階における無期刑の仮釈放についての説示に関するアメリカ連邦最高裁の判例」国

学院法理論叢二三号

上野芳久「アメリカ連邦最高裁の死刑判決にみる陪審制の一問題点」鈴木義男先生古稀祝賀『アメリカ刑

事法の諸相』（成文堂）

後義輝「個人の尊厳は絶対不可侵である」NCCD JAPAN六号

内山安夫「名張毒ぶどう酒事件——犯罪の証明と無罪推定の原則」法学セミナー五〇二号

宇藤崇「死刑判決の言い渡しを受けた被告人の控訴取り下げが精神障害を理由に無効とされた事例」法学

教室一八四号

江頭純二「やりきれない・・・また死刑の執行が」インパクション九八号

江川紹子「オウム裁判傍聴記(56) 麻原『死刑場に連れていけ』週刊文春二月二日号

遠藤比呂通「刑事裁判と適正手続——死刑について考える」ジュリスト一〇八九号

大泉康雄「あさま山荘一九七二を読んで」高橋檀編『しるし 春寒号(一〇号)』

岡上雅美「死刑事件における軽減的量刑事情の考慮——アメリカ合衆国連邦最高裁判所判例をもとにし

て」早稲田法学七一巻二号

岡本恭子「武士と切腹」駒沢大学北海道教養部研究紀要三一号

小川翔子「黒崎そごう前強盗殺人事件の裁判を傍聴して」石塚ゼミ論文集第八回

大河内秀明「犯罪被害者の救済」NCCD JAPAN三号

大河内秀明「実証的死刑廃止論(1)——東京高裁係属中の鶴見事件の分析を通して」NCCD JAPAN

N五号

大河内秀明「実証的死刑廃止論(2)——東京高裁係属中の鶴見事件の分析を通して」NCCD JAPAN

六号

大山武「死刑・無期刑の現状——有期刑への一元化の可能性」CPR Newsletter 一一号

小岸昭「ゴアで処刑された最初のユダヤ人」月刊百科四〇八号

加賀乙彦「文学的死刑廃止論」波三一三三号

霞信彦「矯正図書館の史料から（第一回）」刑政一〇七卷九号

加藤久雄「死刑代替論について」法学研究六九卷二号

金原恭子 [Gregg v. Georgia 死刑の合憲性] 別冊ジュリスト一三九号（英米判例百選第三版）

川人博「『死刑大国』への道を歩む日本——オウム事件公判開始さる」同『いま、人権を読む』（リブリオ出版）

川崎一夫「死刑と無期刑の選択基準」創価法学二五卷一・二合併号

川崎英明「再審で問われるもの」法学セミナー四月号

川崎英明「名張毒ぶどう酒事件——事件の概要と論点」、「名張毒ぶどう酒事件——適正手続き・その課題」法学セミナー一〇月号

関西大学大学院外国刑事判例研究会「ローデリッヒ・マルティス『死刑の機能——現代における死刑の実体についての批判的分析』（c）Roderich Martis, Die Funktionen der Todesstrafe, eine

Kritische Analyse zur Realität der Todesstrafe in der Gegenwart, Bonn 1991〈資料〉」関西大学

大学院法学ジャーナル六五号

神田宏「少年と死刑」関西非行問題研究一五号

菊田幸一「ニューヨーク州の死刑復活」書齋の窓四五一号

菊田幸一「共同原告の木村修治を処刑されて」本当の自分を生きたい 出版妨害訴訟5

菊田幸一「判例にみる死刑囚の外部交通件④ 比較衡量論の基準」本当の自分を生きたい 出版妨害訴訟

5

菊田幸一「死刑執行とマスコミ報道 風速(その二)」NCCD JAPAN三号

菊田幸一「死刑制度の問題状況——アメリカの現状から」NCCD JAPAN五号

菊田幸一「風速 死刑を主題とした三つの映画」NCCD JAPAN五号

木村修治「なぜ取材目的の面会を拒むのか——遺稿・アクセス権訴訟上告理由書」インパクトシオン九五号

木村修治「ありがとうございます。お元気で。」本当の自分を生きたい 出版妨害訴訟5

木下誠「ブックレビュー 死刑のあるところで弁護士は何の役に立つのか——『死刑執行』ロベール・バ

ダンテール著「インパクトシオン九六

葛野尋之「人間の尊厳と死刑制度」NCCD JAPAN四号

葛野尋之「名張毒ぶどう酒事件——死刑廃止・共に生きる社会のために」法学セミナー五〇二号

桑山亜也「イベント報告 『デッドマンウォーキング』シネマ&トーク」アムネスティ・ニュースレター

二七七号

クリステイ・ナ・ブゴヴスカ・ゴルゴニ（若曾根健治・訳）「革袋詰め of 刑——真実と伝説」熊本法学
八七号

熊丸景子「死刑廃止活動にはためらいもあつたけど……被害者の声反映させる死刑廃止論を」アムネス
ティ・ニュースレター二七一号

サオリスト「こんな時だからこそ、死刑廃止の大きな声を——第四回死刑廃止フォーラム、開催される」
アムネスティ・ニュースレター二七一号

サオリスト「増え続ける死刑廃止国」FORUM 90 三五号

サオリスト「死刑と再審 死刑囚、免田栄の闘い（上）」アムネスティ・ニュースレター二七四号

サオリスト「死刑と再審 死刑囚、免田栄の闘い（下）」アムネスティ・ニュースレター二七五号

サオリスト「死刑と再審 死刑囚、免田栄の闘い（上）」アムネスティ・ニュースレター二七四号

サオリスト「死刑と再審 死刑囚、免田栄の闘い（下）」アムネスティ・ニュースレター二七五号

酒井安行「アメリカにおける児童の権利条約をめぐる議論」鈴木義男先生古稀祝賀『アメリカ刑事法の諸

相』（成文堂）

坂口弘「レントゲン写真」高橋檀編『しるし 春寒号（二〇号）』（坂口菊枝さんを支える会）

坂口弘『五七人の死刑囚』についての所感」高橋檀編『しるし 春寒号（二〇号）』（坂口菊枝さんを支え

る会)

佐木隆三「緊急分析 宮崎勤被告は本当に多重人格か」週刊朝日八月二日号

笹森学「晴山死刑再審事件 けいじはくそもならない はんに早くさがせや」季刊刑事弁護七号

笹原桂輔「ボタンテールと弁護魂」時の法令一五二二号

佐藤雅美「死刑の要諦」大阪経済法科大学法学研究所紀要二三号

佐々淳行「ジョン・ブルの」武士の情「スタンレー刑務所」刑政一〇七巻七号

佐々木光明「刑事裁判と再審——誰のための再審か」法学セミナー四月号

新谷桂「ロベール・ボタンテール（藤田真利子訳）『死刑執行』（評）FORUM 90 三五号

鈴木敬夫「人道に対する犯罪——戦前五〇年・日本植民地統治法小考」札幌学院法学一二巻二二号

大道寺将司「死刑廃止運動と併走するメディア」インパクション一〇〇号

団藤重光「今こそ死刑廃止を——人道的刑事政策の要望」法学教室一八六号

対馬滋「新刑事政策論議に至る経過」FORUM 90 三五号

対馬滋「いまこそ死刑廃止の声を！——二・二死刑廃止フォーラム開催さる」インパクション九五号

辻本衣佐「中国の死刑」アムネスティ・ニュースレター二七二号

辻本義男（訳）「ニュージャーシー州立刑務所被収容者必携にみる死刑囚の処遇」『現代の諸問題とその分

析V』（中央学院大学総合科学研究所 研究年報五号）

辻本義男「欧州審議会における死刑全面廃止条約の要請——フランク報告書を中心に」中央学院大学総合科学研究所紀要一一巻一号

辻本義男「アメリカ合衆国における死刑囚の精神医学的特性」中央学院大学法学論叢九卷二号

辻本義男「南アフリカ——死刑廃止への道」『国際化時代の法と経済・社会——中央学院大学創立三〇周年記念論集』（成文堂）

辻本義男・辻本衣佐「死刑問題に関する文献（2）」NCCD JAPAN三号

辻本義男・辻本衣佐「死刑問題に関する文献（3）」NCCD JAPAN四号

辻本義男・辻本衣佐「死刑問題に関する文献（4）」NCCD JAPAN五号

辻本義男・辻本衣佐「死刑問題に関する文献（5）」NCCD JAPAN六号

土本武司「実証的死刑論」法学セミナー四九四号

角田京子「死刑判決における量刑の基準——量刑因子の数量化による分析」石塚ゼミ論文集第八回

坪内祐三「『現代の女学生』と『死刑宣告の刹那』（探訪記者松崎天民（2））」ちくま三〇二号

鄭澤善「中国の死刑執行猶予制度について」中京大学大学院生法学研究論集一六号

手島史夫「橋本内閣、三人の死刑を執行」アムネスティ・ニュースレター二七七号

寺中誠「ナイジェリア ケン・サロウイワら九人処刑」アムネスティ・ニュースレター二七〇号

徳宿恭男「世界の死刑の現状と動向」レファレンス五五〇号

長井圓「死刑存廢論の到達点——死刑の正当根拠について」神奈川法学三一巻一号

長尾敏成「リーガルマインド養成セミナー（2）」月刊警察ヴァリアン一五八号

中島博行「死刑廃止論者はオウム事件にも口を閉ざすな」週刊現代一月一・六日号

中根洋一「死刑執行」Execution」自由と正義四七巻四号

成富安信「死刑を考えるシンポジウムと弁護士偏在対策」自由と正義四七巻六号

名和鐵郎「サリン事件と死刑論」法学セミナー四九四号

増田豊「死刑のパラドックス——積極的一般予防論とデイスクルス倫理のパスpekテイヴ」ホセ・ヨン

バルト、三島淑臣編集『法の理論二五』（成文堂）

久岡康成「ロベール・バタンテール著／藤田真利子訳『死刑執行』」ジュリスト一〇九七号

平川宗信「死刑制度と憲法理念（上）——憲法的死刑論の構想」ジュリスト一〇〇〇号

平川宗信「死刑制度と憲法理念（下）——憲法的死刑論の構想」ジュリスト一〇〇一号

平澤修「死刑囚と事後救済手続における官選弁護士依頼権」鈴木義男先生古稀祝賀『アメリカ刑事法の諸

相』（成文堂）

平山健太郎『血の代価』……フィリピン人メイドの受難」白鷗法学五号

深田卓「木村修治さん処刑、裁判妨害を糾弾する」本当の自分を生きたい 出版妨害訴訟5

福永英男「江戸の刑罰ウラ・オモテ④ 不義・密通・心中」警察公論五一巻一〇号

藤田昇三「死刑判決の言渡しを受けた被告人の控訴取下げが無効とされた事例——最高裁平成七年六月二

八日第二小法廷決定（判例時報一五三四号）」（判例研究）研修五七二号

藤田真利子『死刑執行』と、日本の死刑廃止運動「アムネスティ・ニュースレター」二七二号

古谷修一「犯人引渡と請求国の人権保障状況に対する評価（一）」香川法学一五巻四号

本田稔「最近の死刑事件と死刑存置論・廃止論の動向」大阪経済法科大学・法学研究所紀要二二号

前田朗「三五年目を迎えた死刑再審請求事件——名張毒ぶどう酒事件」マスコミ市民三二八号

増田豊「刑法ゼミナール（伊藤康隆・大山暢夫・小沢紘人・梶原美和・久保乃恵美・佐藤成之・佐藤晋・

薩美大輔・杉崎肇・鈴木光一・関昭仁・関根いづみ・高垣雅人・竹下貢・中野恵美子・渡邊大輔）」

「現代日本の死刑制度が抱える問題点——その生命倫理的考察」明治大学法学会誌四六号

松澤信彦「モンテンルパ・前田親分会見記」文藝春秋七四巻六号

松下竜一「汝を子に迎えん」文藝三五巻四号

松村明「イスラームにおける信仰の自由と背教者処罰の是非をめぐって——S・A・ラフマーンの所説を中

心に」法学新報一〇二巻一一・一二号

松本一郎「死刑判決に対する上訴取下げの効力（平成七年六月二八日最高裁第二小法廷決定）」ジュリスト

臨増一〇九一号

松本祥志『『構造調整計画』とナイジェリアの国際人権——ババンギダ政権による人権侵害の原因と国際

法「札幌学院法学」三卷一号

三宅孝之「イギリスにおける近代刑罰法制の確立——刑事施設の規律と懲罰」島大法学三九卷四号
村松良「関弁連定期大会・シンポジウムの開催——静岡弁護士会」自由と正義四七卷六号

柳本正春「刑罰執行の閉鎖性と透明性——民主主義社会における行政の有り方」亜細亜法学三一巻一号
吉田正志「仙台藩の所晒ならびに所仕置について」法学（東北大学）六〇巻二号

やす「死刑廃止への具体的議論を」FORUM 90 三五号

和田光弘「おーい 死刑廃止論やーい」アムネスティ・ニュースレター二七〇号

米国刑事法研究会（小木曾綾）「アメリカ刑事法の調査研究（69）——Sochor v. Florida, 504 U.S.

527 (1992)」比較法雑誌二九卷四号

エリック・プロコシュ（辻本義男訳）「世界における死刑の廃止」中央学院大学総合科学研究所紀要一二巻
一号

ホセ・ヨンバルト『『早く死刑にせよ！』という声が聞こえる・・・』アムネスティ・ニュースレター二
七一号

ヤン・デンマン「東京情報 『宮崎のやったこと』精神鑑定必要か」週刊新潮八月一日号
ヤン・デンマン「東京情報 宮崎の精神鑑定」週刊新潮一〇月二四日号

「ロベール・バタンテール著『死刑執行』（新刊紹介）」NCCD JAPAN三号

「一九九六年第一回シンポジウム 死刑と無期の境界線」FORUM 90 三五号

「執行日常化に批判姿勢後退 『死刑報道』九〇～九五年度検証」人権と報道連絡会ニュース一〇三号

「白鳥・財田川決定の二〇年——再審の扉は開かれたのか」法学セミナー四月号

「麻原が死刑にならない!?」女性自身六月四日号

「VIEW 〇〇 島田莊司」季刊刑事弁護八号

「死刑事件記録閲覧を認める最高裁決定」季刊刑事弁護八号

「幼女連続殺人『宮崎勤』多重人格で法廷攻防無期か死刑か」フォーカス七月一〇日号

「『多重人格』宮崎勤が拘置所で描いた『奇怪なイラスト』」七月三一日号

「宮崎勤被告は本当に多重人格か」週刊朝日八月二日号

「現代の病理『多重人格』を読む 宮崎勤『鑑定書』全文(1)～(5)」サンデー毎日八月一日号、八

月一八・二五日号、九月一日号、九月八日号、九月一五日号

「遺族が最期を見届ける米国の『死刑執行』」週刊新潮九月五日号

「『超原理主義者』が首都制圧 アフガン内戦でナジブラ元大統領」処刑写真 〇月一八日

号

「麻原獄中錯乱で百年裁判を目論む弁護団の精神鑑定」週刊新潮十一月七日号

「麻原公判／死刑に怯える無様な一部始終」週刊女性十一月二六日号

「妻子三人殺し不倫医者に無期判決で問われる『死刑』」フォーカス二月二二日号 (1997 年)

「海外情報 女性に死刑にならない」時の法令一五二二号

「死刑囚の臓器提供」時の法令一五二七号

一九九七年

秋山裕美『図説 拷問全書』(原書房)

五十嵐二葉『テキスト 国際刑事人権法各論(上)』(信山社)

石井敏夫『平沢貞道と一店主の半生』(柘植書房新社)

稲沢潤子『北の碑』(新日本出版社)

小笠原和彦『宮崎勤事件 夢の中 彼はどこへいくのか』(現代人文社)

河野すみゑ『ああ、平沢貞道——冤罪はもうこりこり』(日本図書刊行会)

川端博監修『拷問の歴史 ヨーロッパ中世犯罪博物館』(河出書房新社)

菊田幸一『検証・プリズナーの世界』(明石書店)

北博和『軍事法廷』(朝日選書)

楠精一郎『児島惟謙(こじまこれかた)』(中公新書)

坂本敏夫『元刑務官が語る刑務所』(二二書房)

佐木隆三『法廷のなかの人生』（岩波新書）

佐木隆三『死刑囚 永山則夫』（講談社文庫）

笹間良彦『図説・日本拷問刑罰史』（柏書房）

大道寺将司『死刑確定中』（太田出版）

高橋檀編『しるし 晩春号（一二号）』（坂口菊枝さんを支える会）

高橋檀編『しるし 晩秋号（二三号）』（坂口菊枝さんを支える会）

瀧野隆浩『宮崎勤精神鑑定書——多重人格説を検証する』（講談社）

団藤重光『死刑廃止論 第五版』（有斐閣）

中谷陽二『精神鑑定の事件史』（中公新書）

永山則夫『華 I～IV』（河出書房新社）

原裕司『殺されるために生きるということ』（現代人文社）

福島章『彼女は、なぜ人を殺したのか 精神鑑定医の証言』（講談社）

福島章『殺人者のカルテ』（清流出版）

船戸与一『国家と犯罪』（小学館）

稲坂硬一『戦後ハイジャック全史』（グリーンアロー出版社）

真木貞夫『快樂殺人者の異常心理』ワニ文庫（KKベストセラーズ）

松下竜一『汝を子に迎えん——人を殺めし汝なれど』（河出書房新社）

三田村鳶魚・朝倉治彦『江戸の白浪』（中公文庫）

村上春樹『アンダーグラウンド』（講談社）

村野薫『処刑・拷問具大全』（同文書院）

森田石蔵『旧東京拘置所刑場の移り変わり』刑罰史研究六号

柳内伸作『西洋拷問・処刑残酷史』（にちぶん文庫）

山本祐司『最高裁判所物語 上・下』（講談社＋α文庫）

年報・死刑廃止編集委員会編『死刑——存置と廃止の出会い 年報・死刑廃止97』（インパクト出版会）

何頻・王兆軍（中川友訳）『黒社会中国を揺るがす組織犯罪』（草思社）

王永寛（尾鷲卓彦訳）『酷刑』（徳間書店）

厳相益（金重明訳）『被告人閣下 全斗煥・盧泰愚裁判傍聴記』（文芸春秋）

安明哲（池田菊敏訳）『図説 北朝鮮強制収容所』（双葉社）

アン・モア／デビット・ジェセル（藤井留美訳）『犯罪に向かう脳』（原書房）

ジャン・アンベール（吉原達也・波多野敏訳）『死刑制度の歴史』（文庫クセジュ、白水社）

ジョン・グリシャム（白石朗訳）『処刑室』（上）（下）（新潮文庫）

ステイブン・キング（白石朗訳）『グリーン・マイル1』（新潮文庫）

ステイブン・キング (白石朗訳) 『グリーン・マイル2』 (新潮文庫)

ステイブン・キング (白石朗訳) 『グリーン・マイル3』 (新潮文庫)

ステイブン・キング (白石朗訳) 『グリーン・マイル4』 (新潮文庫)

ステイブン・キング (白石朗訳) 『グリーン・マイル5』 (新潮文庫)

ステイブン・キング (白石朗訳) 『グリーン・マイル6』 (新潮文庫)

ステイブン・ジョーンズ (友成純一訳) 『罪と監獄のロンドン』 (筑摩書房)

ステイブン・トロンプレイ (藤田真利子訳) 『死刑産業 アメリカ死刑執行マニュアル』 (作品社)

ダニエル・ジェラルド (金澤智訳) 『ギロチン——死と革命のフオークロア』 (青弓社)

デイヴィッド・スタウト (堀内静子訳) 『カラライナの殺人者』 (早川文庫)

ドナルド・ギヤスキンス&ウィルトン・アール (滝井田周人訳) 『死刑囚ピーウィーの告白——猟奇殺人犯

が語る究極の真実』 (扶桑社文庫)

ピート・アーリー (田中昌太郎訳) 『おまえが殺ったと誰もが言う (上)(下)』 (ハヤカワ・ノンフィク

ション文庫)

ベヴァリー・ロウリー (岩井司訳) 『死を待つ女 死刑囚カーラ』 (原書房)

『隣りの殺人者たち』 別冊宝島三三三 (宝島社)

秋山駿・井口時男 「人を殺す手の中を流れる形にならない言葉」 文芸・冬三六巻四号

渥美東洋「死刑事件への被疑者弁護の早期実現の手がかり」季刊刑事弁護一〇号

渥美東洋・菊田幸一・橋本裕蔵「対談・死刑問題を考える」NCCD JAPAN九号

渥美東洋・菊田幸一・橋本裕蔵「対談・死刑問題を考える」NCCD JAPAN一〇号

阿部晴政「自分を天才と思っていた永山」論座一二月号

池田浩士「『死刑』からすべてが始まる」文芸・冬三六卷四号

石川忠司「『無知』と『涙』」文芸・冬三六卷四号

石塚伸一「刑事確定訴訟記録法と知る権利(2)——刑事確定訴訟記録法と憲法の交錯」龍谷法学二九卷四

号

井戸秋子「身元引受人としての苦しみをふるかえって」文芸・冬三六卷四号

稲田伸夫「国選弁護人の選任が刑訴規則二九条二項に違反するとして、死刑判決が破棄された事例(平成

九・九・二九名古屋高判)」研修五九四号

今井恭平「死刑存置と廃止 どこで出会うのか?」アムネスティ・ニュースレター三・四月号

岩井信「死刑・存置と廃止の出会い——フォーラム90シンポジウム」季刊刑事弁護一〇号

鵜飼哲「ホロコースト」文芸・冬三六卷四号

江頭純二「東京拘置所で、一挙に三名死刑執行」インパクション一〇一号

遠藤誠「永山則夫氏らの刑の執行に、改めて死刑廃止を訴える」週刊金曜日八月八日号

遠藤誠「永山則夫さんのこと」フォーラム90 九月五日号

遠藤誠「法律と仏教④」仏教タイムス一〇月一六日号

遠藤誠「永山則夫少年、殺さる」ザ・ゲイ一二月号

遠藤誠「永山君は一つの奇跡だった」文芸・冬三六卷四号

遠藤誠「最後の弁護人の一年の感慨」論座一二月号

遠藤誠「死刑囚・永山則夫が遺したもの」創二七卷一〇号

大河内秀明「実証的死刑廃止論(3)」——東京高裁係属中の鶴見事件の分析を通して」NCCD JAPAN

八号

大河内秀明「実証的死刑廃止論(4)」——東京高裁係属中の鶴見事件の分析を通して」NCCD JAPAN

九号

大河内秀明「実証的死刑廃止論(5)」——東京高裁係属中の鶴見事件の分析を通して」NCCD JAPAN

一〇号

大塚英志『「宮崎勤」は誰にもわからない』諸君六月号

大塚英志・香山リカ「宮崎勤被告の死刑判決が欠落させたもの」創六月号

尾崎一馬「死刑囚三人の背景・時代に翻弄された夫婦——日高安政・日高信子死刑囚」週刊金曜日一八五号

尾崎一馬「八月一日、四人死刑執行の衝撃」創二七卷一〇号

加賀乙彦「暗く憂鬱な出来事——文芸家協会入会拒否騒動の顛末」創二七卷一〇号
勝田卓也「アメリカ合衆国における刑事陪審の人種構成について——人種差別的な無条件忌避権行使の問題を中心」早稲田法学会誌四七卷

金沢文雄「刑罰目的の多元的・発展的考察」『中山研一先生古稀祝賀論文集第四卷 刑法の諸相』
鎌田雄吾「幸徳秋水等の大逆事件について」刑罰史研究五号

神山啓史「十分に証拠を検討していない最高裁棄却決定——名張ぶどう酒事件第五次再審請求」季刊刑事弁護一〇号

河合清「雪道の死刑囚」刑罰史研究五号

河上和雄「国選弁護人の辞任申出と迅速な審理」月刊警察ヴァリアント一六四号

川崎英明「名張事件・最高裁棄却決定を問う」法学セミナー五一〇号

川端博「人間はどこまで残酷になれるか——ヨーロッパ拷問史」新潮45九月号

川村康「宋代主刑考」法と政治四八卷一号

川村湊「網走の海」文芸・冬三六卷四号

覚正豊和「被害者の死が加害者の死で償えるか」NCCD JAPAN七号

菊田幸一「風速 宮崎勤の死刑判決と終身刑」NCCD JAPAN八号

菊田幸一「すべての人を不幸にする死刑——『死刑産業』ステイヴン・トロンブレイ著（藤田真利子

訳)「インパクション」一〇二号

菊田幸一「被害者支援と死刑廃止」週刊金曜日一八五号

菊田幸一「神戸連続児童殺傷事件と永山の処刑」NCCD JAPAN一〇号

北野芳生「永山則夫の死刑に思う」月刊警察ヴァリアント一五卷一〇号

木下毅「ヘイビース・コーパス——死刑判決に対する「無罪」の主張——Schlap v. Delo, 115 S. Ct. 851

(1995)「ジュリスト」一〇四号

木下信男『犯罪証明』は裁判官の自由な判断に委ねる——冤罪の根源・自由心証主義——明治大学教養論集二

九七号

金尚均「死刑」法学セミナー五一号

桑山亜也「日本の死刑一九九六→一九九七 対話で可能性を開いていきたい」アムネスティ・ニュースレ

ター三・四月号

桑山亜也「シンポジウム 死刑廃止フォーラム90『死刑 存置と廃止の出会い』報告——二者択一では

語れない『死刑』マスコミ市民三四二号

桑山亜也「ジャーニーオブホープ——上映会&製作者秘話を聞く会から」アムネスティ・ニュースレター七

月号

桑山亜也「死刑廃止へ向かう世界の潮流」週刊金曜日一八五号

小泉義之「殺すことはない　ロゴスの帰趨にかかわらず」文芸・冬三六卷四号

小林和之「生命に対するリスクと刑罰システム——死刑の損益分岐点」阪大法學四六卷六号

小林博「強盗殺人のヤマを呑んだ男　二度にわたる逃走劇の裏には……余罪追及は不可能だったのか？」捜

査研究五五〇号

佐伯千仞「死刑制度の行方」NCCD JAPAN九号

サオリスト「戦後日本の死刑廃止運動　死刑の量刑基準を決めた永山最高裁判決」アムネステイ・ニュー

スレター三・四月号

坂上香「絶望と希望の狭間で」三省堂ぶつくれつと一二二

阪上秀治「米国オレゴン州の行刑事情」犯罪と非行一二二号

坂田仁「社会死」JCCD七九号

佐木隆三『オウム法廷』連続傍聴記・第八一回——『宮崎勤・死刑判決』の影響』週刊ポスト五月二日号

佐木隆三『木橋』と出会ったとき』文芸・冬三六卷四号

佐木隆三「永山則夫のオホーック——それは優しい海だったのか」創二七卷一〇号

佐々木光明「死刑、考えるための素材を！」法学セミナー五一〇号

崎山政毅・田崎英明・細見和之「誰しも永山則夫であり得たことと永山則夫でしかなかったこと」文芸・

冬三六卷四号

桂秀実「井戸さんのこと」文芸・冬三六卷四号

篠田博之「本誌編集部宛に届いた宮崎勤被告からの手紙」創六月号

白木勇「死刑の選択がやむを得ないと認められる場合にあたるとはいいい難いとして原判決及び第一審判決が破棄され無期懲役が言い渡された事例（平成八・九・二〇最高裁二小判）」ジュリスト一一〇六号

白取祐司「名張事件——一審無罪・二審死刑の不条理」法学セミナー五一〇号

鈴木英司「独占手記 フィリピン『冤罪死刑囚』獄中からの叫び」現代二月号

鈴木創士「死のみ考えた者がいた」文芸・冬三六卷四号

武田和夫「死刑に固執する日本」マスコミ市民三四六号

田中敦子「全世界の死刑制度廃止に向けて」マスコミ市民三四三三号

田中輝和「冤罪の防止・救済と確定力論」法律時報六九卷九号

辻本衣佐「死刑問題に関する文献（6）」NCCD JAPAN七号

辻本衣佐「死刑問題に関する文献（7）」NCCD JAPAN八号

辻本衣佐「死刑問題に関する文献（8）」NCCD JAPAN九号

辻本衣佐「死刑問題に関する文献（9）」NCCD JAPAN一〇号

辻本義男（辻本衣佐）「アメリカ合衆国の死刑状況（その七）」——一九九七年」中央学院大学総合科学研究所

手島史夫「シスター・プレジヤン来日顛末記」マスコミ市民三四八号

土井政和「人間関係と死刑制度——『デッドマン・ウォーキング』」法学教室二〇三号

中森明夫「宮崎勤被告の死刑判決と『Mの世代』の宿命」創六月号

中山研一「安楽死に関する文献紹介（6）」ミラー、ブロディ『職業的誠実性と医師の援助による死』北陸

法学五卷二号

中山千夏「法律を持っているのは自分たちだという発想が必要なんです」季刊刑事弁護一〇号

中山千夏「私が死刑に反対するこれだけの理由」週刊金曜日一八五号

永沢護『『死刑制度』試論』NCCD JAPAN一〇号

永山則夫「華（抄）」文芸・冬三六卷四号

永山則夫「大学理学ノート（抜粹）」文芸・冬三六卷四号

永山則夫「最後の二四冊のノートから」論座一二月号

西谷修「（生）はどこにあるのか」文芸・冬三六卷四号

庭山英雄「再審請求審理と証拠予断禁止原則——袴田事件を媒介として」法律時報六九卷九号

野口拓郎「北朝鮮の公開処刑」アエラ四八号

野村二郎「日本の司法 裁判の半世紀⑩」月刊アーティクル二三四号

原裕司『『半年』と、複数同時処刑』を強行する日本政府の意図」週刊金曜日一八五号

原口伸夫「死刑の量刑基準」JCCD七九号

馬橋隆紀「死刑囚三人の背景・死を覚悟して罪を犯して——神田英樹死刑囚」週刊金曜日一八五号

林道義「父性を生かす人づくり 死刑制度を守れ」武道一二月号

平良木登規男「連続幼女殺し事件について」警察公論五二巻八号

ビートたけし・越川道夫「永山則夫は一人で叛乱をおこした」文芸・冬三六巻四号

福井厚「誤判と死刑——事実認定の構造を踏まえて」『中山研一先生古稀祝賀論文集第五巻 刑法の展開』

福井厚「死刑と誤判」NCCD JAPAN八号

福島至「刑事確定訴訟記録法と知る権利（１）——刑事確定訴訟記録法の再検討」龍谷法学二九巻四号

福島至「死刑確定事件記録の閲覧」ジュリスト一一一三三三号（平成八年度重要判例解説）

福田ますみ「弟を殺した男を助けて下さい」現代六月号

福田ますみ「死刑論議より犯罪被害者救済が先だ」論座一二月号

藤森研「永山はあの時代を映す鏡だった」論座一二月号

古谷修一「犯罪人引渡と請求国の人権保障状況に対する評価（２）」香川法学一六巻三・四号

本間次彦「救済と悪、または殺人」本二二巻二号

前田朗「自由人権委員会への第四回報告②」マスコミ市民三四七号

前野育三「辻本義男氏の死刑研究を回想しながら」NCCD JAPAN七号

宮崎勤「ぼくが法廷で描いた絵——幼児殺害事件被告としてのいま……」創二七卷九号

宮崎勤「ぼくと家族の関係について——幼児殺害事件被告インタビュー」創二七卷一〇号

宮崎勤「死んだと思われたおじいさんが独居房に現われる——幼児殺害事件被告インタビュー」創二七卷一

一号

宮崎勤「怖い外界を離れてひとりぼっちで暮らしたい——幼児殺害事件被告インタビュー」創二七卷一二号

宮崎勤「衝撃インタビュー『死刑判決？ 私には関心がない』」創七月号

村井敏邦「段階的死刑廃止論の一例——サミュエル・ロミリーの死刑廃止論」『中山研一先生古稀祝賀論文集

第四卷 刑法の諸相』

八木國之「神戸中三少年の連続殺人と少年法問題及び死刑問題」JCCD七八号

安岡昭男「大津事件に関する梅謙次郎意見書」法学志林九四卷三号

安田好弘「死刑の『ガイドライン』」週刊金曜日一八五号

安田好弘「うち続く大量死刑執行一二月執行阻止を！」インパクション一〇四号

山内昌之「差異と差別」本二二卷六号

山内昌之「『加担』ではなく『尊敬』を」一冊の本二卷六号

吉岡忍「葬られた鑑定——宮崎勤『多重人格』裁判を検証する」現代六月号

ホセ・ヨンパルト「死刑廃止論の場合も『過ぎたるは及ばざるがごとし』——辻本義男先生の御逝去を悼んで

考えたこと」NCCD JAPAN七号

ホセ・ヨンパルト「死刑制度の七不思議」ソフィア四六巻三号

ヨアンナ・ヤイテ「シオンに会って」アムネスティ・ニュースレター二八一号

ドイツ作家同盟ザールラント州支部（志村恵訳）「ザールラント作家同盟会員処刑される」文芸・冬三六

巻四号

「中国麻薬犯、戦慄の死刑現場を直撃！」バート一月二七号

「脱獄失敗 金ノコの入手先」アエラ一月二七号

「カネがあれば（拘置所）から出られる」脱走未遂死刑囚が出した手紙」週刊文春三月二〇日号

「麻原」二〇年裁判で問われる司法の『欠陥』週刊新潮三月二〇日号

「元刑務官坂本さんとハンソンさん対談」アムネスティ・ニュースレター三・四月号

「死刑執行八一人『東京拘置所』大改築」フォーカス四月二三日号

「判決引き延ばしに使われた宮崎勤の精神鑑定」週刊新潮四月二四日号

「麻原」死刑判決直前の狂気大演出」週刊新潮五月一・八日号

「死刑判決」でも癒えない被害者家族の心の傷」女性セブン五月一日号

「宮崎勤被告との七年間を佐木隆三が書き下ろす 多重人格論が否定された理由」週刊朝日五月二日号

「宮崎勤被告に死刑判決」の決め手になった最大の根拠」週刊現代五月三日号

「犯罪増加に業を煮やしベトナムが厳罰主義復活」月刊ベルダ六月号

「国連人権委員会が死刑廃止を決議」アムネスティ・ニュースレター六月号

「死刑雑考」捜査研究五四八号

「新生コンゴ旧政府軍兵士の処刑」フォーカス六月四日号

「連邦ビル爆破事件 史上最悪のテロをどう裁くべきか」背景 死刑制度の本音と建前」ニューズウィー

ク日本版六月一八日号

「連邦ビル爆破事件 かくて死刑判決は下った」ニューズウィーク日本版六月二五日号

「『死刑も』（州法）少年Aは『英米ならこう罰せられる』」週刊ポスト七月一八日号

「緊急特集 永山則夫」文芸・冬三六巻四号（河出書房新社）

「司法記者の眼 永山則夫死刑囚の刑執行に思う」ジュリスト一一八号

「危ぶまれる法と正義の行方」ニューズウィーク日本版一〇月一日号

「殺すこと 殺されること いま『死刑』をみつめる」週刊金曜日一八五号

「特集・永山則夫と死刑問題」創二七巻一〇号

「未公開資料でつづる永山則夫四八年の軌跡」創二七巻一〇号

「イランの処刑」捜査研究五五三三号

「死刑は犯罪の解決法ではあり得ない」アムネスティ・インターナショナル日本支部『アムネスティ人権

報告⑥ 良心囚人——自由の灯』

「旬のひと 遠藤誠」週刊宝石一〇月二三日号

一九九八年

宇野津光緒『二三の事件と被告たち』（恒友出版）

大河内秀明『無実でも死刑、真犯人はどこに——鶴見事件の真相』（現代企画室）

大塚公子『S人の死刑囚』（角川文庫）

大塚公子『死刑』（角川書店）

河上和雄『「犯罪捜査と裁判」基礎知識』（講談社文庫）

菊池克美『日本古代刑罰事典』（新人物往来社）

小嵐九八郎『真幸くあらば』（講談社）

近藤昭二『誰も知らない「死刑」の裏側』（二見W A i W A i文庫）

菊地久代『今だからこそ死刑廃止を』（日本図書刊行会）

坂本敏夫『死刑執行人の記録』（光人社）

島田莊司・錦織淳『死刑の遺伝子』（南雲堂）

高橋壇編『しるし 如月号（一四号）』（坂口菊枝さんを支える会）

田中良彦『名張毒ブドウ酒殺人事件 曙光』（鳥影社）

田中雪枝『死刑囚のうた』（新風舎）

立松和平『光の雨』（新潮社）

永山則夫『人民をわすれたカナリアたち 続・無知の涙』（河出文庫）

夏堀正元『虚構の死刑台 小説・幸徳秋水』

夏目文雄『アフリカ諸国建国期の刑事政策』（新評論）

原裕司『極刑を恐れし汝の名は』（洋泉社）

蜂巣敦『日本の殺人者』（青林工藝舎）

礪川全次『大津事件と明治天皇——封印された十七日間』（批評社）

福田ますみ『されど我、処刑を望まず——死刑廃止を訴える被害者の兄』（現代書館）

宮崎勤『夢のなか——連続幼女殺害事件被告の告白』（創出版）

宮武外骨『刑罰・賭博奇談』（河出文庫）

宮本倫好『死刑の大国アメリカ』（亜紀書房）

柳内伸作『中国拷問・処刑残酷史』（にちぶん文庫）

M||C・マンデス||フランス（垂水洋子訳）『サラを救え！ レイプ被害者に不当な死刑判決』（凱風社）

リサ・ベス・ピュリッツァー（加藤洋子訳）『締切り間際の殺人事件簿』（原書房）

ロバート・K・レスラー／アン・W・バージェス／ジョン・E・ダグラス（狩野秀之訳）『快樂殺人の心
理』（講談社＋α文庫）

ノーマン・メイラー（岡枝慎二訳）『死刑執行人の歌』上・下（同文書院）

『年報・死刑廃止』 犯罪被害者と死刑制度』（インパクト出版会）

『特集アスペクト三八 実録戦後殺人事件帳』（アスペクト）

『囚人狂物語』別冊宝島三六一（宝島社）

『殺人百貨店 日本人はどういう理由で人を殺すのか？』別冊宝島四一〇

『完全特集 永山則夫』文藝別冊一九九八年三月号（河出書房新社）

朝倉京一「魔女刑法史要」刑罰史研究一一号

浅野泰巖「慈悲の検証・死刑」NCCD JAPAN二二号

栗屋剛「中国死刑囚移植についてのアメリカ連邦議会証言」徳山大学論叢五〇号

池田晶子・陸田真志「往復書簡『罪と罰』・死刑囚との対話」新潮45七月号

池田晶子・陸田真志「往復書簡『罪と罰』・死刑囚との対話II」新潮45八月号

池田晶子・陸田真志「往復書簡『罪と罰』・死刑囚との対話III」新潮45九月号

池田晶子・陸田真志「往復書簡『罪と罰』・死刑囚との対話IV」新潮45一〇月号

池田晶子・陸田真志「往復書簡『罪と罰』・死刑囚との対話V」新潮45一一月号

池田晶子・陸田真志「往復書簡『罪と罰』・死刑囚との対話VI」新潮45 12月号

今井恭平「ビデオガイド 死刑の真実がここに——デッドマン・ウォーキング」季刊刑事弁護 一四号

上野達彦「現代ロシアにおける犯罪・非行30——死刑囚の特性」法律のひろば 五一巻 一一号

宇津貫拓「死刑を政治の争点に」マスコミ市民 三五五号

江川紹子「坂本弁護士事件 岡崎被告『死刑判決』を読む」週刊読売 11月8日号

遠藤誠「死刑制度は必要か」犯罪心理研究 二号

遠藤誠「甲山事件と永山則夫事件」ザ・ゲイ 六月号

遠藤誠「永山則夫君の散骨」ザ・ゲイ 11月号

遠藤誠「死刑執行後の永山事件」新日本文学 11月号

大河内秀明「実証的死刑廃止論(6)——東京高裁係属中の鶴見事件の分析を通して」NCCD JAPAN

一一号

小川原優之「死刑と無期懲役の境界」NCCD JAPAN 113号

小田晋「死刑廃止論の根拠と論点を検証する」犯罪心理研究 二号

菊田幸一「無期懲役・終身刑・死刑、そして」NCCD JAPAN 111号

菊田幸一・辻本衣佐「死刑廃止先進国における死刑代替制について(1)」NCCD JAPAN 111号

菊田幸一・辻本衣佐「死刑廃止先進国における死刑代替制について(2)」NCCD JAPAN 112号

菊田幸一・辻本衣佐「死刑廃止先進国における死刑代替制について(3)」NCCD JAPAN一三号

菊田幸一「国連人権委員会の死刑に関する審査——第四回規約人権委員会を傍聴して」NCCD JAPAN一三号

木村京子「報道と人権——『98九州放送映像発』の一步」マスコミ市民三六〇号

胡慶山「ヨーロッパ人権条約第二条の生命権について(1)——その制定の経緯および解釈・適用」北大

法学論集四九卷三号

サオリス「死刑執行停止連絡会議の結成」アムネスティ・ニュースレター三・四月号

サオリス「人権の国際的基準となった死刑廃止」アムネスティ・ニュースレター二九五号

サオリス「死刑廃止国際条約の批准を求めるフォーラムの誕生——「顕在化」した死刑廃止の声」アム

ネスティ・ニュースレター二九七号

佐木隆三「十九歳の凶行」犯罪心理研究創刊号

佐木隆三「オウム法廷連続傍聴記一三一回 死刑か無期か」週刊ポスト五月二九日号

佐木隆三「オウム法廷連続傍聴記一三九回 死刑求刑」週刊ポスト七月二四日号

佐木隆三「オウム法廷連続傍聴記一五二回 三大事件で残る一六人『死刑と無期』のボーダーライン」週

刊ポスト一一月一三日号

斉藤豊治「学術会議刑事法学研連の活動とシンポジウム『死刑制度のゆくえ』」刑法雑誌三七卷二号

島田莊司「島田莊司のLA日記 第四回 死刑について考えること」ダ・ヴィンチ一一月号

大道寺将司「確定死刑囚から母への手紙」創二八巻二二号

大道寺将司「炭坑の街に翻弄された夫婦が処刑されるまで——『極刑を恐れし汝の名は』（原裕司著）」

インパクション一一号

高瀬毅「現代の肖像 秋山賢三弁護士——裁かれるべきは死の裁き」アエラ一一巻一〇号

高塚哲彦「死刑執行再開をめぐる後藤田氏発言を問う」インパクション一〇号

高橋久雄「五〇年迎える三鷹事件」月刊警察ヴァリアント一八一号

高橋久雄「死刑判決の重み」月刊警察ヴァリアント一八三号

団藤重光「死刑廃止論の原点」犯罪心理研究二二号

張凌「中国刑事法における死刑の手続」早稲田法学会誌四八巻

辻本衣佐「中華人民共和国における刑事法の改正と死刑」法学研究論集八号

辻本衣佐「死刑の存廃論をめぐる」加藤久雄・瀬川晃編『現代青林講義 刑事政策』（青林書院）

辻本衣佐「死刑問題に関する文献（10）」NCCD JAPAN一一号

辻本衣佐「死刑問題に関する文献（11）」NCCD JAPAN一二号

辻本衣佐「死刑問題に関する文献（12）」NCCD JAPAN一三号

土本武司「死刑存置論と廃止論の接近」『松尾浩也先生古稀祝賀論文集 上巻』（有斐閣）

土本武司「死刑と無期の分水嶺——一、二審の死刑判決が破棄され無期懲役が言い渡された事例」ジュリスト一一三八号

土本武司「死刑と無期懲役の分水嶺——一、二審の死刑判決が破棄され無期懲役が言い渡された事例（平成八・九・二〇最高二小判）」判例時報一六二二一号

土本武司「死刑制度のゆくえ——存廃論の合意点を探る」犯罪心理研究二号

土本武司「死刑制度の方向性」月刊監査役四〇二号

永田洋子「ANIMA & ANIMUS 私の読書生活」週刊朝日九月一日号

深田卓「死刑廃止と処遇改善——出版妨害訴訟について」マスコミ市民三五二号

塙浩「フランス中世の刑罰制度」摂南法学二〇号

原口伸夫「死刑判決が破棄されて無期懲役が言い渡された事例——日建土木三億円保険金殺人事件」法学

新報一〇四卷六・七号

福島章「死刑囚の心理」犯罪心理研究二号

福島至「刑の執行手続の適正化——有罪確定後刑事弁護への試論」自由と正義四九卷七号

福島瑞穂「国連規約人権委員会を無視した死刑執行」インパクション一一号

藤井嘉雄「大坂町奉行所」刑罰史研究一〇号

前田忠弘「少年に対する死刑適用の是非」別冊ジュリスト少年法判例百選

宗像紀夫「死刑制度を檢察官の目から見る」犯罪心理研究二二号

宮崎勤「動物虐待と『ネズミ男』の存在——幼児殺害事件被告インタビュー」創二八卷一号

宮崎勤「逮捕後は毎日、取り調べが恐かった——幼児殺害事件被告インタビュー」創二八卷二号

宮崎勤「ボクがおじいさんの骨を食べたわけ——幼児殺害事件被告インタビュー」創二八卷三号

宮崎勤「ラジオの時間と『もうひとりの自分』——幼児殺害事件被告インタビュー」創二八卷五号

宮崎哲弥「異見あり——林被告への無期求刑は檢察の職權濫用だ！」週刊ポスト三月二十六日号

宮本弘典「死刑と民主主義」関東学院法学七卷三・四号

森山英一「明治二年吹上藩士切腹一件」刑罰史研究一一号

八木國之「死刑と無期刑の間」JCCD八〇号

柳重雄「死刑に直面する者の權利保障と死刑執行」自由と正義四九卷四号

山崎浩一「情報狂時代二六一——『モラル』はアメリカよりサルに学べ」週刊ポスト二月二七日号

吉野三枝子「死刑確定者の処遇——その知られざる実態」マスコミ市民三五三三号

ホセ・ヨンパルト「死刑制度の七不思議」JCCD八〇号

ホセ・ヨンパルト（高橋早代訳）「死刑囚からの手紙」『私の中の日本』（新潮社）

「特集 死刑」犯罪心理研究二二号

「中学生五人に息子を撲殺された母親の訴え『子どもに人を殺せば死刑と教えよ』」週刊新潮三月五日号

「死刑執行七四件——一九九七年・アメリカ」刑政一〇九卷三号

「死刑判決を招いた大阪愛犬家殺人犯の異常人格——『極刑』でもうすら笑い」フォーカス四月一日号

「発火装置炎上事件で改めて語れた永山則夫作品との符合」創二八卷二号

「死刑に直面する者に対する権利保障についての要望書」自由と正義四九卷八号

「中国人死刑囚の臓器が日本人に“ヤミ移植、されている”週刊ポスト九月二一日号

「永田洋子『声をあげる痛さ』と闘う死刑囚からの手紙」週刊現代九月二六日号

「死刑判決！ オウム岡崎被告が獄中告白」週刊宝石十一月一九日号

「『死刑でよかった』オウム岡崎一明被告『獄中からの手紙』」週刊現代十一月一四日号

「出所した愛犬家連続殺人『共犯者』戦慄の告白手記Ⅰ」週刊新潮十一月五日号

「出所した愛犬家連続殺人『共犯者』戦慄の告白手記Ⅱ」週刊新潮十一月二二日号

「出所した愛犬家連続殺人『共犯者』戦慄の告白手記Ⅲ」週刊新潮十一月一九日号

「出所した愛犬家連続殺人『共犯者』戦慄の告白手記Ⅳ」週刊新潮十一月一六日号

「出所した愛犬家連続殺人『共犯者』戦慄の告白手記Ⅴ」週刊新潮十二月三日号

「出所した愛犬家連続殺人『共犯者』戦慄の告白手記Ⅵ」週刊新潮十二月一〇日号

「ひとりごと——死刑」捜査研究五六四号

「安田弁護士逮捕事件の問題点」マスコミ市民三六〇号

「政治犯裁判の非公開証人尋問めぐり揺れる東京地裁」創一二月号

一九九九年

安土茂『憎しみは愛よりも深し』（河出文庫）

池田晶子・陸田真志『死と生きる——獄中哲学対話』（新潮社）

異空間の俳句たち編集委員会『異空間の俳句たち』（海曜社）

石井三記『一八世紀フランスの法と正義』（名古屋大学出版会）

板倉宏『「人権」を問う』（音羽出版）

井上薫『裁判資料 死刑の理由』（作品社）

今井敬彌『私の松川事件』（日本評論社）

遠藤誠『怪物弁護士・遠藤誠の事件簿』（社会批評社）

大谷恭子『死刑事事件弁護士——永山則夫と共に』（悠々社）

影山任佐『テキストブック殺人学』（日本評論社）

菊田幸一『新版 死刑——その虚構と不条理』（明石書店）

菊田幸一『受刑者の人権と法的地位』（日本評論社）

斎藤静敬『新版死刑再考論（第二版）』（成文堂）

佐木隆三『死刑執行』（小学館文庫）

佐木隆三『少年犯罪の風景——「親子の法廷」で考えたこと』（東京書籍）

作務和一『猟奇快楽殺人——あなたの隣に潜む殺人者の素顔』（ワニ文庫）

佐々淳行『連合赤軍「あさま山荘」事件』（文春文庫）

坂上香『癒しと和解への旅——犯罪被害者と死刑囚の家族たち』（岩波書店）

鈴木英司『檻の中の闇』（小学館）

田森洋樹「なぜ、死刑廃止を求めるのか」部落解放四六二号

常石敬一『毒——社会を騒がせた謎に迫る』（講談社）

ビルマ連邦連合政府編（田辺寿夫監修）『ビルマ国際議連・日本、菅原秀、箱田徹訳』『ビルマの人権』（明

石書店）

福田洋著・石川保昌編『現代殺人事件史』（河出書房新社）

三原憲三『死刑存廃論の系譜 第三版』（成文堂）

山崎永幸『共犯者』（新潮社）

安丸良夫『一揆・監獄・コスモロジー——周縁性の歴史学』（朝日新聞社）

山口正紀『ニュースの虚構メディアの真実——現場で考えた九〇〜九九報道検証』（現代人文社）

山口宏『司法腐敗』（PHP）

山野静二郎『死刑囚の祈り』（聖母文庫）

松山巖『世紀末の一年 一九〇〇年のジャパン』（朝日新聞社）

陸鏗（青木まさこ・趙宏偉訳）『中国妖怪記者の自伝』（筑摩書房）

D・P・マニックス（吉田誠一訳）『人間はどこまで残酷になれるか——拷問の世界史』（講談社＋α文庫）

庫）

マイケル・ギルモア（村上春樹訳）『心臓を貫かれて（上）（下）』

アムネスティ・インターナショナル日本支部編『アムネスティ人権報告⑧死刑廃止』（明石書店）

アムネスティ・インターナショナル日本支部編著『知っていますか？ 死刑と人権一問一答』（解放出版社）

毎日新聞社会部編『元信者への死刑判決』（現代書館）

日本弁護士連合会編『日本の人権二世紀への課題——ジュネーブ一九九八 国際人権（自由権）規約第

四回日本政府報告書審査の記録』（現代人文社）

国際人権NGOネットワーク編（岡本雅亨・上村英明・森原秀樹監修）『ウォッチ！規約人権委員会——

どこがずれてる？人権の国際基準と日本の現状』（日本評論社）

『年報・死刑廃止99 死刑と情報公開』インパクト出版会

『しるし 哀痛号』（坂口菊枝さんを支える会）

『閉ざされたいのちを前に』いのちの絵画展報告集（真宗大谷派宗務所）

浅利祐一「死刑の合憲性」『憲法の争点(第三版)』(ジュリスト増刊 法律学の争点シリーズ二)

足立昌勝「近代国家と死刑廃止のは非」関東学院法学八巻二号

足立昌勝『死刑廃止法』における遡及効の法的性格」庭山英雄先生古稀祝賀記念論文集『民衆司法と刑事

学』(現代人文社)

安形静男「幸徳秋水の死刑廃止論——日本の死刑廃止論者(1)」刑罰史研究一四号

東澤靖「自由圏規約第四回審査——多数の改善勧告と実務における意義」季刊刑事弁護一七号

池田晶子・陸田真志「往復書簡『罪と罰』・死刑囚との対話Ⅶ」新潮45一月号

池田晶子・陸田真志「往復書簡『罪と罰』・死刑囚との対話Ⅷ」新潮45二月号

池田晶子・陸田真志「往復書簡『罪と罰』・死刑囚との対話Ⅸ」新潮45四月号

池田晶子・陸田真志「往復書簡『罪と罰』・死刑囚との対話Ⅹ」新潮45五月号

池田晶子・陸田真志「往復書簡『罪と罰』・死刑囚との対話」最終回」新潮45六月号

五十嵐佳子「女性弁護士物語第八回 永山則夫君の弁護を通して死刑廃止論者に——大谷恭子さん」法学

セミナー四四巻一一号

岩井信「安田さんはなぜ、いま逮捕されたのか?——死刑廃止運動との関連で」インパクション一一二号

井上薫「死刑判決に学ぶ」捜査研究四八巻七号

祝康成「一家四人惨殺(十九歳)犯人の現在」新潮45六月号

岩田太「合衆国における重罰化傾向と死刑：陪審と裁判官の比較から」アメリカ法一九九八—二号

内田博文「団藤刑事法学と死刑廃止論について」庭山英雄先生古稀祝賀記念論文集『民衆司法と刑事学』

（現代人文社）

大河内礼三「死刑廃止を聖書で考える」『聖書におけるエコロジーと人権』（不二出版）

大林茂喜「一家四人強盗殺人事件——最後の斬死刑」月刊警察ヴァリアント一八六号

大林茂喜「稲妻強盗 坂本慶二郎の犯罪」月刊警察ヴァリアント一七卷一一号

尾崎一馬「安田好弘・オウム主任弁護士逮捕事件の波紋」創三月号

海度雄一・外山太士「国連人権（自由権）規約委員会最終見解の意義と今後の課題」自由と正義五〇卷二

号

海度雄一「人権活動家に対する迫害の現代的な形態としての安田好弘 弁護士不当逮捕」インパクション

一一二二号

金澤文雄「死刑廃止への提言」『刑法の基本概念的再検討』（岡山商科大学）

菊田幸一「日本の死刑状況と政府報告書審議——第四回規約人権委員会を傍聴して」法律時報七一卷二号

菊田幸一「安田弁護士逮捕は死刑廃止へ弾みをつけた」NCCD JAPAN一四号

菊田幸一「死刑廃止に動きだした宗教界」NCCD JAPAN一五号

菊田幸一「日本における死刑廃止への問題状況」アムネスティ・ニュースレター三二二号

菊田幸一「犯罪被害者の側から死刑を考える」部落解放四六二号

菊田幸一・辻本衣佐「死刑廃止先進国における死刑代替刑について(4)」NCCD JAPAN一六号
桑山亜也「国際人權基準と死刑制度」部落解放四六二号

斎藤静敬「世界における死刑の執行方法」千葉大学法学論集一三卷三三三

佐伯仁志「経済犯罪における重罰化の動向」アメリカ法一九九八—二二

坂上香「ブックレビュー」『もうひとつの、そして本当の永山則夫』インパクション一一五号

菅充行「カウンターレポートの作成と日弁連の活動」自由と正義五〇卷四号

高橋紳吾「マインドコントロール問題での証人体験より」犯罪心理研究八号

団藤重光「終身刑」アエラ七月一九日増大号

辻本衣佐「死刑問題に関する文献(13)」NCCD JAPAN一四号

辻本衣佐「死刑問題に関する文献(14)」NCCD JAPAN一五号

辻本衣佐「死刑問題に関する文献(15)」NCCD JAPAN一六号

土本武司「死刑と無期刑の分水嶺——地下鉄サリン事件横山判決に思う」捜査研究五七七号

手島史夫「国連自由権規約委員会の勧告と、日本の死刑制度」アムネスティ・ニュースレター三〇三三

童銅啓純「いのちの絵画展」部落解放四六二号

中村正人「『書評』宮部香織『法令死刑覆奏制度について』」金沢法学四二卷一号

藤田昇三「B規約人權委員会による対日審査について」刑政一一〇卷四号

シルビア・ブラウン・浜野「規約人權委員会による日本政府報告書審査の意義」自由と正義五〇卷四号

平川宗信「死刑廃止論」法学教室二二八号

細見和之「揺れ動く感情とともに続く『希望の旅』——『癒しと和解への旅 犯罪被害者と死刑囚の家族

たち』（坂上香著）「インパクション」一一三号

村井敏邦「死刑廃止の具体策について——死刑の代替刑論に対して」庭山英雄先生古稀祝賀記念論文集

『民衆司法と刑事学』（現代人文社）

三上孝孜「死刑を排斥し、無期懲役を言い渡した判決」季刊刑事弁護二〇号

宮部香織「律令死刑覆奏制度について」国学院法政論叢二〇号

森本和明「組織的な殺人における死刑の選択」研修六一六号

山崎博之「もうこれ以上殺されないために」インパクション一一六号

渡辺也寸志『『よど号』田中義三氏に帰国問題を直撃インタビュー』創二九卷一〇号

ジョセフ・L・ホフマン（井上正仁訳）「アメリカの死刑制度——法制上および研究上の最近の動向」刑

法雑誌三八卷二号

サラ・サン・ビール（山本志織訳）「アメリカ刑事法における重罰化傾向について」アメリカ法一九九八—

二号

ジョセフ・L・ホフマン（長澤道行訳）「宣告すれども執行されず：死刑制度をめぐるアメリカの法と政治」アメリカ法一九九八—二二号

「国連人権（自由権）規約委員会による『最終見解』——規約四〇条に基づき締約国によって提出された報告書の審査」自由と正義五〇巻二二号

「緊急特集・安田弁護士不当逮捕を考える」インパクション一一二二号

「海外トピックス 逃走」刑政一一〇巻四号

「続報・安田弁護士不当逮捕事件」インパクション一一三三三号

「『一九歳の死刑囚』が獄中で書いた衝撃の手紙」週刊現代五月二九日号

「アメリカ社会における重罰化の動向：経済犯罪と死刑の問題に焦点をあてて」シンポジウム「アメリカ法一九九八—二二号

「菊田教授 韓国で特別講演」NCCD JAPAN一五五号

「後藤田正晴元法相世論調査誤認死刑執行裁判」インパクション一一五五号

「滞日アジア人死刑囚への注目を」インパクション一一五五号

「USAキャンペーン 止まらない死へのベルトコンベア——人種差別主義的で不当な死刑制度」アムネステイ・ニュースレター三〇七号

「USAキャンペーン写真展 The Omega Suites——死刑囚、最後の部屋」アムネステイ・ニュースレター

三二〇号

- 「赤いフェアレディズ『宮崎知子』の犯罪 上」週刊新潮八月一二・一九日夏季特大号
「赤いフェアレディズ『宮崎知子』の犯罪 中」週刊新潮八月二六日号
「赤いフェアレディズ『宮崎知子』の犯罪 下」週刊新潮九月二日号
「死刑執行室（アメリカ合衆国）」季刊刑事弁護二〇号
「女死刑囚に求婚した元ネオナチ・ジャーナリスト『純愛』」週刊新潮一〇月二二日号
「地下鉄サリン事件で出た初の死刑判決」ジュリスト一一六六号
「死刑囚と中学生」刑政一一〇巻一一号
「フィリピンで投獄五年。日本人死刑囚の『復讐』」週刊ポスト一二月一七日号
「特集 死刑廃止を考える」部落解放四六二号

二〇〇〇年

- 井上安正『警察記者三三年——凶悪事件の裏事情』（徳間文庫）
祝康成『一九歳の結末——一家四人惨殺事件』（新潮社）
遠藤誠『帝銀事件の全貌と平沢貞道』（現代書館）
大野正男『弁護士から裁判官へ』（岩波書店）

大山友之『都子 聞こえますか——オウム坂本一家殺害事件・父親の手記』

岡田英男『処刑と拷問の世界史』(日本文庫)

小倉孝誠『近代フランスの事件簿 犯罪・文学・社会』(淡交社)

岡田英男『処刑と拷問の世界史』(日本文庫)

小倉孝誠『近代フランスの事件簿 犯罪・文学・社会』(淡交社)

鎌田浩『肥後藩の庶民事件簿』(熊日新書)

喜多明人・木原千春『人權の絵本④ わたしたちの人權宣言』(大月書店)

桐生操『眠れぬ夜の恐ろしい話——西洋残酷人物譚』(大和書房)

久能靖『浅間山荘事件の真実』(河出書房新社)

小浜逸郎『なぜ人を殺してはいけないのか——新しい倫理学のために』(新書y・洋泉社)

佐々木知子『日本の司法文化』(文春新書)

佐木隆三『宮崎勤裁判』中・下(朝日文庫)

佐藤道夫『検事調書の余白Ⅱ 法の涙』(朝日文庫)

志麻永幸『愛犬家連続殺人』(角川文庫)

瀧野隆浩『宮崎勤精神鑑定書——多重人格説の検証』(講談社+α文庫)

龍田恵子『日本のバラバラ殺人』(新潮OH!文庫)

団藤重光『死刑廃止論（第六版）』（有斐閣）

平沢武彦『平沢死刑囚の脳は語る——覆された帝銀事件の精神鑑定』（インパクト出版会）

降幡賢一『オウム法廷⑥——被告人を死刑に処する』（朝日文庫）

松下竜一『松下竜一——その仕事 汝を子に迎えん』（河出書房新社）

村野薫『事件のカンヅメ』（新潮OH！文庫）

牟田和男『魔女裁判——魔術と民衆のドイツ史』（吉川弘文館）

柳内伸作『残虐の民族史』（光文社）

山口椿『ヨーロッパ残酷物語』（幻冬舎アウトロー文庫）

山口椿『中国残酷物語』（幻冬舎）

渡辺修『刑事法入門』（新世社）

ドロシー・ルイス（中原裕子訳）『殺人少年——何が彼らを凶行に駆り立てたか』（徳間書店）

アンドリュース・クラヴァン（芹澤恵訳）『真夜中の死線』（創元推理文庫）

エリザベス・ロフタス／キャサリン・ケッチャム（巖島行雄訳）『目撃証言』（岩波書店）

ロバート・K・レスラー&トム・シャットマン（相原真理子訳）『FBI心理分析官』（ハヤカワ文庫）

『しるし 春想号』（坂口菊枝さんを支える会）

『しるし 紅葉号』（坂口菊枝さんを支える会）

別冊宝島編集部編『実録刑務所暮らし』宝島社文庫

浅宮拓「無期懲役の『罪と罰』」新潮45五月号

青沼陽一郎『オウム裁判』全ガイド」新潮45九月号

朝倉京一「魔女刑法史余論——人狼裁判、動物裁判等」刑罰史研究一八号

安形静男「日本の死刑廃止論者（2）——大内青巒の死刑廃止運動」刑罰史研究一八号

石川「死刑議論のタブーの厚い壁——ベネトン社の死刑囚広告について」アムネスティ・ニュースレター

三二六号

市原みちえ「ペルーの貧しい子供たちへ 永山則夫さんの印税一三〇〇万円贈呈」インパクション一七号

石毛平藏「ブラックティカル刑事手続法（捜査編）二二 死刑と無期懲役刑の選択」捜査研究四九巻八号

井田良「刑罰という名の殺人——デッドマン・ウォーキング」野田進・松井茂記編著『シネマで法学』

（有斐閣）

井上安正「特ダネのあとにきた『抗議書』——殺人死刑囚・元警視庁警部との往復書簡から」『検証！事件

報道』（宝島社新書）

岩井宜子「死刑か無期懲役か——五件の検察官上告（平成一一・一一・二九最高二小判，平成一一・一

二・一〇最高二小判，平成一一・一二・一六最高一小決，平成一一・一二・一六最高一小決，平成一

一・一二・二一 最高三小決」『平成一一年度重要判例解説（ジュリスト臨時増刊一一七九）』（有斐閣）

上野芳久「連邦控訴裁判所は死刑囚に人身保護救済を認めないとした命令を後に撤回できないとしたアメリカ連邦最高裁の判決——Calderon v. Thompson, 118 S.Ct.1489(1998)（判例研究）」比較法制研究 二二三号

江頭純二「六月九日、死刑執行回避」インパクション二二〇号

遠藤誠「コルベ神父と私」聖母の騎士五月号

大林茂喜「連続一家麁殺事件」月刊警察ヴァリアント一八卷六号

押久保倫夫「死刑と残虐な刑罰（昭和二三・三・一二最高大判）」『憲法判例百選（2）』（第4版）（別冊ジュリスト155）（有斐閣）

加藤俊治「死刑に関する総理府の世論調査について」判例タイムズ一〇二六号

加藤久雄「『死刑廃止論』の道徳的刑事政策論的再検討——代替刑による廃止か世論重視の存置か」『宮澤浩一先生古稀祝賀論文集 第二卷 刑法理論の現代的展開』（成文堂）

覺正豊和「死刑廃止と被害者感情」千葉大学法学論集一五卷一号

河上和雄「死刑以外の選択はない」月刊警察ヴァリアント一八卷二号

河上和雄「死刑と無期刑との間——仙台高裁平成一〇年三月一七日判決・本誌一六七〇号九三頁」判例時

酒井邦彦「検察官が死刑の適用を求めて上告した事件に関する一連の最高裁判所の決定について」警察学

論集五三卷三号

境分万純「C・ピーター・アーリンダー氏に聞く」法学セミナー四五卷二号

佐木隆三「いよいよ始まった『死刑求刑ラッシュ』と恩師、友人、そして母の肉声情状証言」週刊ポスト

一月一・七日号

佐木隆三「オウム裁判のゆくえ」本二五卷六号

佐々木史朗「死刑の量刑基準（平成一一・一二・一〇最高二小判）〈判例紹介〉」法の支配一一九号

佐野眞一「凄惨な少年犯罪の『根源』——祝康成『一九歳の結末 一家四人惨殺事件』波三四卷九号

塩谷由香利「札幌で七〇人が熱く」かだった——『平取事件をとおして考える死刑制度』報告」アムネ

ステイ・ニュースレター三一七号

島田茂「死刑確定者の信書發送不許可処分と裁量権逸脱の存否（平成一一・一二・二六最高二小判）〈判例紹

介〉」民商法雑誌一二二卷四・五号

清水真「最新重要判例評釈（三七）1 登校中の七歳の児童二名を自動車に乗車させて略取又は誘拐し、

児童らの頸部を締め付けて殺害した上、死体を山中に投げ捨てて遺棄したという事案について、直接
証拠はないものの情況証拠を総合して被告人を犯人であると認定し、死刑判決を言い渡した事例 2

DNA鑑定が行われた事例」現代刑事法二卷一一号

白井駿「古代インドの死刑観——マヌ法典を史料として」国学院法学三八卷一号

城下裕二「最近の判例における死刑と無期懲役の限界」ジュリスト一一七六号

鈴木英司「想像を絶する異国の監獄体験——『檻の中の闇』を語る」本の窓二三卷二号

田鎖麻衣子「再審請求中の死刑執行をめぐる弁護士と法務省刑事局とが会談」季刊刑事弁護二二二号

高塚哲彦「後藤田裁判、控訴審へ」インパクション一二二二号

田宮裕「犯罪と死刑」『刑事法の理論と現実』（岩波書店）

辻本衣佐「弁護士実務経験に基づく死刑廃止論」アメリカ法一九九九—二

辻本衣佐「死刑問題に関する文献（16）」NCCD JAPAN一七号

辻本衣佐「死刑問題に関する文献（17）」NCCD JAPAN一八号

辻本衣佐「死刑問題に関する文献（18）」NCCD JAPAN一九号

対馬滋「再審請求中・人身保護請求中の死刑執行」インパクション一一七号

對馬直紀「殺害された被害者の数が一名である身の代金目的拐取、殺人拐取者身の代金要求、監禁、強姦の事案につき、原判決が維持した第一審判決の死刑の科刑がやむをえないものとされた事例」現代刑事法二卷二号

内藤謙「死刑と犯罪抑止効果——その実証研究に学ぶ」現代刑事法二卷一二号

長井圓「地下鉄サリン殺人事件・無期懲役の量刑（平成一〇・五・二六東京地判）」『判例セレクト』99

『月刊法学教室二三四別冊付録』(有斐閣)

中嶋博行「死刑問題を考えるための必読書」波三四卷二号

中野進「国際法上の死刑(1)」富士大学紀要三三卷一号

長峯信彦「死刑確定者の信書の発出(平成一一・一二・二六最高二小判)」『判例セレクト99』[月刊法学教

室二三四別冊付録』(有斐閣)

新田智昭「死刑囚の新聞投稿不許可訴訟最高裁判決」法律のひろば五三卷五号

野村貴光「一九九六年反テロ及び効果的死刑法(Anti-Terrorism and Effective Death Penalty Act Of

1996)(アメリカ犯罪学の基礎研究68)比較法雑誌[三四卷三号

浜井浩一・吉田研一郎「無期刑を通して見たイギリス犯罪者処遇の動向」犯罪と非行一二四号

日垣隆「少年は『四人』殺してようやく死刑」文芸春秋七八卷八号

藤井嘉雄「火罪の執行に失敗しやり直した事例」刑罰史研究一七号

藤本哲也「二五年ぶりのアメリカ(犯罪学の散歩道97)」戸籍時報五一七号

松永寛明「公開刑廃止の社会的要因」犯罪者社会学研究二五号

松宮孝明「再審請求審における総合評価——マルヨ無縁強盗殺人放火事件再審特別抗告審決定について」

立命館法学二六八号

増田豊「刑法と法倫理——特に死刑の法倫理的な正統化の可否をめぐる」明治大学社会科学研究所紀要88

卷二号

増田豊「司法殺人としての死刑の正統化は法倫理的に可能か」NCCD JAPAN一八号
増満義孝「旧藩時代から明治初期の鹿児島県行刑の概要」刑罰史研究一九号

見沢知廉「獄中作家永山則夫処刑に激怒する!!」『日本を撃て』（メディアワークス）

村井敏邦「大逆事件（上）」法学セミナー四五卷三号

村井敏邦「大逆事件（中）」法学セミナー四五卷四号

村井敏邦「大逆事件（下）」法学セミナー四五卷五号

村井敏邦「冤罪の歴史——古代編」法学セミナー四五卷六号

村井敏邦「戦後の冤罪事例（1）」法学セミナー四五卷九号

村井敏邦「戦後の冤罪事例（2）」——松川事件と裁判批判」法学セミナー四五卷一〇号

宮崎勤「二審開始！少女連続殺害事件被告の獄中からの手紙」創三〇卷一号

宮崎勤「二年半ぶりの法廷は映画館のようだった」創三〇卷二号

宮崎勤&編集部「宮崎勤被告が法廷で語ったSEX観」創三〇卷一〇号

宮崎勤&編集部「少女殺害事件・宮崎勤被告の仰天証言」創三〇卷一一号

本村洋「だから私は少年の死刑を求める」正論三三四号

本村洋「妻と娘を殺されて」論座六五号

山岸信雄・柳沼充彦「死刑存廃論の行方——刑は刑なきを期する」立法と調査二二〇号

吉岡一男「死刑確定者の信書発送に對する不許可処分の適法性（平成一一・一二・二六最高二小判）」『平成一一年度重要判例解説（ジュリスト臨時増刊一七九）』（有斐閣）

渡辺教子「ベネトンが死刑囚広告で訴えようとしたこと」創三〇巻四号

ホセ・ヨンパルト『人間の尊厳』『生命の尊重』と死刑制度『法の世界と人間』（成文堂）

Antonio Beristain S.J.「死刑に反対！——スペインからの刑法学・神学的な考察」『人間の尊厳と現代

法理論（ホセ・ヨンパルト教授古稀祝賀）』（成文堂）

エミール・ブリヴァチエフスキー（石塚伸一訳）『ポーランドにおける死刑廃止』龍谷法学三二巻四号

マイケル・イジコフ「死刑がゴアを追い詰める」ニューズウィーク日本版一五巻二六号

ノーマ・フィールド「死刑囚の『やさしく殺して』」ニューズウィーク日本版一五巻二六号

郭興之「中国の『死刑猶予』制度について」関東学園大学法学部中国法政研究会編『現代中国の法と社会』（松平記念経済文化研究所）

李麦・「中国における死刑猶予制度」関東学園大学法学部中国法政研究会編『現代中国の法と社会』（松

平記念経済文化研究所）

ヨアヒム・ヘルマン（加藤克佳訳）「日本における死刑についての考察——西原春夫教授に应えて」愛知

大学法学部法経論集一五四号

「司法記者の眼 最高裁が支持した『無期懲役』の選択」ジュリス一七〇号

「国立市主婦殺害事件最高裁判決——解消されない『死刑選択基準』のあいまいさ」法学セミナー四五卷二二号

「死刑囚がつくられる時」ニューズウィーク日本版一五卷八号

「GHQが封印した『帝銀事件の真実』」フライデー三月一〇日号

「基本的法制度」月刊世論調査三二卷四号

「無期懲役は本当に“軽い”のか？」週刊SPA四九卷二五号

「韓国で死刑廃止法案提出」NCCD JAPAN一八号

「死刑がゴアを追い詰める」ニューズウィーク日本版一五卷二六号

「死刑囚の『やさしく殺して』」ニューズウィーク日本版一五卷二六号

「死刑を延期したクリントンの思惑」ニューズウィーク日本版一五卷二八号

「貝原浩のベストセラー戯評 『平沢死刑囚の脳は語る』」出版ニュース一八八〇号

二〇〇一年

アムネスティ・インターナショナル日本『アムネスティ・レポート世界の人権 二〇〇一』（現代人文社）
遠藤誠『私は「悪者」に味方する』（筑摩書房）

大塚公子『「その日」はいつなのか——死刑囚長谷川敏彦の叫び』（角川文庫）

岡田英男『残酷すぎる世界の拷問・処刑史』（にちぶん文庫・日本文芸社）

小田中聰樹・佐野洋・竹澤哲夫・庭山英雄・山田善二郎（再審・えん罪事件全国連絡会）編『えん罪入

門』（日本評論社）

尾鷲卓彦『図説 中国酷刑史』（徳間書店）

坂本勉『死刑——報復と贖罪の論理』（ぶんりき文庫・彩図社）

佐藤万作子『虐待された子どもたちの逆襲』（明石書店）

重松一義『江戸の犯罪白書』（PHP文庫）

重松一義『図説 刑罰具の歴史——世界の刑具・拷問具・拘束具』（明石書店）

重松一義『図説 世界の監獄史』（柏書房）

竹末広美『日光の司法』（ずいそうしや新書）

立松和平『光の雨』（新潮文庫）

土本武司『正義への執念』（生活人新書・NHK出版）

蜂巣敦『怪狂譚』

原裕司『なぜ「死刑」は隠されるのか？』（宝島社新書）

一橋文哉『宮崎勤事件——塗り潰されたシナリオ』（新潮社）

福田洋『20世紀にっぽん殺人事典』（社会思想社）

三原憲三『死刑存廃論の系譜 第四版』（成文堂）

山口椿『中国拷問残酷物語』（にちぶん文庫）

森川哲郎（平沢武彦編）『日本残酷死刑史』（日文新書）

趙甲濟編（中根悠訳）『北朝鮮 地獄からのレポート』（河出書房新社）

王永寛（尾鷲卓彦訳）『酷刑——血と戦慄の中国刑罰史』（徳間文庫）

二〇世紀歴史探索隊編『二〇世紀の衝撃的事件 日本編』（ワニ文庫）

ジョン・ダクラス&マーク・オルシェイカー（福田泰子訳）『FBI心理分析官ファイル 幼児殺人の快

楽心理』（徳間書店）

ヒラリー・プール（梅田徹訳）『ハンドブック 世界の人権』（明石書店）

ムミア・アブリジャマール（今井恭平訳）『死の影の谷間から』（現代人文社）

『年報死刑廃止2000—2001 終身刑を考える』（インパクト出版会）

『友へ 大道寺将司句集』（ぱる出版）

アムネスティ・インターナショナル（辻本衣佐訳）「死刑に関する正確な情報2001年4月」NCCD

JAPAN二二号

青木正芳「一九八四年 死刑台からの生還（日民協創立四〇周年特集 四一の証言——Person of the

Year) 法と民主主義二六二号

秋山賢三・高橋繁行『冤罪』はなぜ起こる」柳原・松永・寺西 他『裁判官を信じるな!』(宝島社文庫)

足立昌勝「死刑は『残虐な刑罰』である」LIBRA一卷二号

安形静男「日本の死刑廃止論者(3) 資料・柏木義円の死刑廃止論」刑罰史研究二二号

安西弘太「それでも死刑にできない『小学生惨殺男』」新潮45七月号

石塚伸一「人権の国際化と死刑確定者の外部交通——いわゆる『Tシャツ訴訟』を素材に(平成九・三・

二三福岡地判, 平成一一・一二・一七福岡高判)」龍谷法学三四巻一号

石川顕「世界に突きつけた死刑廃止——日本の死刑制度廃止を訴える欧州の旅」インパクション一二六号

石川顕「賛否両論 終身刑導入をどう考えるか」アムネスティ・ニュースレター三二三号

石川正興「死刑の犯罪抑止効果」現代刑事法三巻五号

一ノ瀬正樹「死の所有(上)——『死刑』という不可能性からの倒錯」思想九二三

一ノ瀬正樹「死の所有(下)——『死刑』という不可能性からの倒錯」思想九二四

岩田太「合衆国における刑事陪審の現代的役割(1)——死刑陪審の量刑裁量をめぐって」法学協会雑誌

一一八巻七号

岩田太「合衆国における刑事陪審の現代的役割(2)——死刑陪審の量刑裁量をめぐって」法学協会雑誌

一一八卷一〇号

岩田太「Weeks v. Angelone, 528 U.S. 225, 120 S.Ct. 727(2000) ; Randass v. Angelone, 530 U.S. 156, 120 S.Ct. 2113(2000)——死刑量刑手続において、量刑決定者の陪審が、(1)法定加重事由を認定した場合でも依然として陪審が終身刑を科す裁量を持つのか、および、(2)終身刑の場合に仮釈放がありうるのか、について質問した場合に、公判裁判官が簡明な説明を与える義務を否定した事例(最近の判例)」アメリカ法二〇〇一——

後田竜衛「死刑の息子をもつ親たちへの懺悔圧力」アエラ七月二日号

大賀浩一「死刑再審事件(晴山事件——雪冤の闘いは第二ラウンドへ)」季刊刑事弁護二七号

大久保晴美「デッドマン・ウォーキング ノー・モア シスター・プレジヤンと被害者遺族との出会い」

アムネスティ・ニュースレター三二五号

大塚英志「宮崎勤被告は『体験』を語り得るのか」創三一巻七号

大林茂喜「破獄囚の一家五人殺傷事件」月刊警察ヴァリアント二〇巻一号

小田晋「人間行動論の見地からみた死刑廃止論の批判的検証」現代刑事法三巻五号

奥平康弘「ふたたび」充電〃中(法と人文科学(ザ・ヒューマニティーズ)21)「法学セミナー

六月号

奥平康弘「死刑におけるポピュリズム——マクヴェイ処刑にちなんで(法と人文科学(ザ・ヒューマニテ

一・一二・一〇最高(二小判)《判例研究》札幌学院法学一八卷一号

城下裕二「死刑制度——存廢論および適用基準を中心にして(特集 刑法を読む——刑法の基礎を読む)」

月刊法学教室六月号

鈴木智美「ヨーロッパが日本の死刑廃止を訴える」アムネスティ・ニュースレター三三〇号

大道寺将司「深い思索と持続する志——『死の影の谷間から』インパクション二二六号

田鎖麻衣子「欧州評議会が日本に対する死刑廃止決議を採択！」アムネスティ・ニュースレター三三〇号

田中輝和「死刑事件の再審無罪判決と国家賠償請求訴訟——松山事件(平成一二・三・一六仙台高判)『平

成一二年度重要判例解説(ジュリスト臨時増刊二〇二二)』(有斐閣)

団藤重光「メッセージ」NCCD JAPAN二二三号

辻本衣佐「死刑問題に関する文献(一九)」NCCD JAPAN二〇号

辻本衣佐「死刑問題に関する文献(二〇)」NCCD JAPAN二二号

辻本衣佐「死刑問題に関する文献(二一)」NCCD JAPAN二二号

辻本衣佐「死刑問題に関する文献(二二)」NCCD JAPAN二二三号

土本武司「インクのしずく32 無期刑」捜査研究六〇二号

對馬直紀「最高裁判所における最近の死刑判決の動向について」現代刑事法三卷五号

内藤謙「戦後日本における刑法判例の形成と展開」『田宮裕博士追悼論集(上)』(信山社)

中野進「国際法上の死刑（2）」富士大学紀要三三卷二号

中村治郎「死刑なきヨーロッパにおける最高刑」日弁連新聞三二七号

中村治郎「死刑廃止国調査報告——死刑廃止国への道のりと廃止後の最高刑の行方」季刊刑事弁護二五号（原聰「弁護活動のための『法と心理学』」⑦ 同調の心理学——帝銀事件の目撃者証言」季刊刑事弁護二七

号

日高義博「死刑の適用基準について」現代刑事法三卷五号

一橋文哉「死刑囚の臓器を日本人に売る『上海カンパニー』」新潮45二月号

一橋文哉「池田小殺傷犯と宮崎勤の共通する世界」波三五卷七号

平川宗信「死刑存廃論の法的理論枠組みについて——憲法的死刑論の展開」現代刑事法三卷五号

深田卓「死刑廃止へ向かう韓国 第二回アジアフォーラム開催へ」インパクション一二七号

深田卓「アジアから死刑廃止・生命尊重を——死刑廃止アジア・フォーラム・ソウル報告」インパクシ

ョン一二八号

福島瑞穂「死刑廃止迫られる日本——欧州評議会会議に出席して」週刊法律新聞一〇月五日号

藤田昌司「文学散歩⑫——死刑」新刊展望四五卷一二号

号

ホセ・ヨンパルト「死刑存廃論の論争点について——死刑廃止論と存置論の立場から」現代刑事法三卷五

ホセ・ヨンパルト「問題にされていない問題」現代刑事法三卷二二号

堀江英世『冬』——その二 NCCD JAPAN二一号

堀江英世『冬』——その二 NCCD JAPAN二二号

前田雅英「死刑と無期の限界(上)(下)」——5件の最高裁判例の意味(平成一一・一一・二九最高二小判,

平成一一・一二・一〇最高二小判, 平成一一・一二・一六最高一小決, 平成一一・一二・一六最高一

小決, 平成一一・一二・二二最高三小決)(判例評論)判例時報一七三七、一七四〇

山口和人「欧州連合基本権憲章」外国の立法二二一号

宮崎勤「死刑判決を聞きながら私は眠りに落ちた」創三一巻八号

森下忠「海外刑法便り(188)」米国における死刑の理論と実際(上)「判例時報一七三〇号

森下忠「海外刑法便り(189)」米国における死刑の理論と実際(下)「判例時報一七三三号

森田成満「中村茂夫『秋審余滴 高遠拓児 清代秋審制度と秋審條款——とくに乾隆・嘉慶年間を中心と

して』同『秋審勾決考——清代における死刑執行の手続』(書評)『法制史研究五〇号

免田栄・森野敏彦「裁く者と裁かれる者——元死刑囚免田栄との対話」日本裁判官ネットワーク『裁判官

だつてしゃべりたい!』(日本評論社)

柳重雄「動揺するアメリカの死刑制度——死刑執行停止への動き」法学セミナー四六巻二号

柳重雄「死刑の存在しないことが当たり前前の国々——死刑廃止国(イギリス, フランス, ドイツ)調査に

参加して」自由と正義五二巻四号

山本徹美「殺人鬼大久保清の自供調書」文芸春秋七九巻一号

山本和昭「国民と刑事司法」現代刑事法三巻八号

吉岡忍・養老孟司『宮崎勤』は再び現れる」本の話七巻三号

吉岡忍「二審判決が示した精神鑑定の位置づけ」創三二巻七号

陸田真志・池田晶子「なぜ人を殺すのは悪いのか？」池田晶子『二〇〇一年哲学の旅』（新潮社）

李相赫「基調演説」NCCD JAPAN二三号

キムスファン「祝辞」NCCD JAPAN二三号

鄭大哲「韓国の死刑廃止運動——昨日、今日そして明日」NCCD JAPAN二三号

エリザベス・ルーグレン「死刑制度の世界的な傾向および廃止運動の現況」NCCD JAPAN二三号

ホ・イルテ（宋台植訳）「死刑の代替刑罰としての絶対的終身刑の検討」NCCD JAPAN二〇号

張家宇「中国死刑緩期執行制度の研究序説（上）」早稲田大学大学院法研論集一〇〇号

「死刑執行を止めたFBIのボカ」ニューズウィーク日本版五月二三日号

「悪人をつくるメカニズム」ニューズウィーク日本版六月六日号

「米国社会を考える——死刑囚監房の黒人ジャーナリスト、ムミアをめぐる」アムネステイ・ニュース

レター三二七号

『連続リンチ殺人』で少年の死刑と無期をわけた『境目』週刊新潮七月二六日号

『死刑廃止運動と終身刑——武田和男氏（死刑廃止ネットワーク）に聞く 聞き手・菊田幸一』NCCD

JAPAN二一号

『パキスタン 増加する死刑囚』アジア記者クラブ通信一〇九号

『特集 宮崎勤裁判二審も死刑判決！』創三一巻七号

『獄中の宮崎勤被告から届いた手紙』創三一巻七号

『特集 第2回アジア死刑廃止フォーラム』NCCD JAPAN二三号

『死刑廃止に関する特別法案（韓国）』NCCD JAPAN二三号

『元名古屋拘置所の教誨師が語る死刑囚と死刑——京都・当番弁護士を支える市民の会』季刊刑事弁護二

七号

『特集 死刑制度の現状と展望』現代刑事法三巻五号

二〇〇二年

青沼陽一郎『池袋通り魔との往復書簡』（小学館文庫）

石川真介『死刑、廃止せず』（河出書房新社）

亀井静香『死刑廃止論』（花伝社）

久能靖『浅間山荘事件の真実』（河出文庫）

佐伯省『帝銀事件はこうして終わった——謀略・帝銀事件』（批評社）

佐木隆三『三つの墓標 小説・坂本弁護士一家殺害事件』（小学館）

佐藤友之『死刑と宗教』（現代書館）

高山一彦編訳『ジャンヌ・ダルク 処刑裁判』（白水社）

筑波昭『連続殺人鬼 大久保清の犯罪』（新潮OH！文庫）

永瀬隼介『デッドウォーター』（文芸春秋）

中野進『国際法上の死刑存置論（普及版）』（信山社）

一橋文哉『ドナービジネス』（新潮社）

福島章『彼女は、なぜ人を殺したか』（講談社＋α文庫）

福田洋著・石川保昌編『図説 現代殺人事件史（増補改訂版）』

福田雅章『日本の社会文化構造と人権』（明石書店）

藤井誠二『少年に奪われた人生——犯罪被害者遺族の闘い』（朝日新聞社）

降幡賢一『無差別テロの源流』（朝日文庫）

降幡賢一『オウム法廷⑩ 地下鉄サリンの「実行犯」たち』（朝日文庫）

前田朗『刑事人権論』（水曜社）

村野薫『増補・改訂版 戦後死刑囚列伝』（宝島社文庫）

村野薫『日本の大量殺人総覧』（ラッコブックス・新潮社）

山口意友『正義を疑え！』（ちくま新書）

ジョゼ・ジョヴァンニ（藤田和基訳）『父よ』（白亜書房）

マイケル・R・ペリー（青木悦子訳）『テッド・バンディの帰還』（創元推理文庫）

マイケル・S・リーフ／H・ミツチエル・コールドウェル／ベン・バイセル（藤沢邦子訳）『最終弁論——

歴史的裁判の勝訴を決めた説得術』（朝日新聞社）

ロベール・バタンテール（藤田真利子訳）『そして、死刑は廃止された』（作品社）

『新潮45』編集部『殺人者はそこに——逃げきれない狂気、非情の「三三事件」』（新潮文庫）

『新潮45』編集部編『殺つたのはおまえだ——修羅となりし者たち、宿命の九事件』（新潮文庫）

『年報・死刑廃止02 世界のなかの日本の死刑』（インパクト出版会）

『明治*大正*昭和*平成 事件・犯罪大事典』（東京法経学院出版）

秋山映美『終身刑も残虐な刑罰——それはもうひとつの『絶望の刑』』週刊金曜日四三九号

岩田太『合衆国における刑事陪審の現代的役割（3）——死刑陪審の量刑裁量をめぐって』法学協会雑誌

——一九卷一号

岩田太『合衆国における刑事陪審の現代的役割（4）——死刑陪審の量刑裁量をめぐって』法学協会雑誌

一一九卷三号

岩田太「合衆国における刑事陪審の現代的役割(5)」——死刑陪審の量刑裁量をめぐって」法学協会雑誌
一一九卷一一号

内田剛弘「死刑問題をめぐる国際環境と辯護士会——委員会活動の報告」第二東京弁護士会紫水会二〇周年記念誌

大林茂喜「満福寺の四人惨殺事件」月刊警察ヴァリアント二〇卷二号

大林茂喜「女義太夫師匠夫婦殺し」月刊警察ヴァリアント二〇卷三号

大林茂喜「陸軍少将の令嬢殺し」月刊警察ヴァリアント二〇卷四号

刑部明「死刑制度について考える(社会と刑事法)」警察時報五七卷九号

菊田幸一「第一回世界死刑廃止連合会議に出席して」NCCD JAPAN二四号

菊田幸一「ヨーロッパ評議会議員に來日——司法人權セミナーの開催」NCCD JAPAN二五号

菊田幸一「死刑囚・拘置所生活の実態——死刑囚へのアンケートから」法律論叢七五卷一号

菊田幸一「死刑廃止に向けて今、NGOが問われている」NCCD JAPAN二六号

重松一義「刑罰の究極的使命とその限界——二十一世紀の犯罪観・刑罰観を考える」中央学院大学法学論

叢一五卷一・二号

清水真「Harris v. Alabama, 513 U.S. 504(1995)」——裁判官が死刑量刑をする際に、陪審によってなされた

量刑勧告をどの程度考慮すべきかを州法で規定することは合衆国憲法第八修正の要請ではないと判示された事例〈海外法律事情〉(アメリカ刑事法の調査研究92) 比較法雑誌三六巻二号

白井京『死刑廃止に関する特別法案』の提出」外国の立法二二一号

隅田勝彦「Shafer v. South Carolina, 532 U.S. 36 (2001) — Simmons v. South Carolinaは現行のサウス・キャロライナ州の死刑量刑制度にも適用されるとした事例」〈外法律事情〉(アメリカ刑事法の調査研究93) 比較法雑誌三六巻三号

高倉新喜「国家による死刑執行の問題点——Austin Sarat, When the State Kills, Princeton University Press, 2001, pp. vii+324〈著書紹介〉」アメリカ法二〇〇一——

高倉新喜「法における苦痛と死 Austin Sarat(ed.), Pain, Death, and the Law The University of Michigan Press, 2001, pp. 168〈著書紹介〉」アメリカ法二〇〇一——

田森洋樹「死刑廃止は、そう遠くない時期に実現するだろう——総会記念講演『亀井静香衆議院議員講演』リポート」アムネスティ・ニュースレター三三八号

辻本衣佐「死刑問題に関する文献(23)」NCCD JAPAN二四号

辻本衣佐「死刑問題に関する文献(24)」NCCD JAPAN二五号

辻本衣佐「死刑問題に関する文献(24)」NCCD JAPAN二六号

手島史夫「死刑廃止の風を確かに感じた二〇〇一年」アムネスティ・ニュースレター三三五号

寺尾周祐「死刑制度を問う——犯罪被害者遺族 原田正治氏講演会」アムネスティ・ニューズレター三三

四号

永田憲史「死刑選択基準の動向と問題点」犯罪と刑罰一五号

永瀬隼介・千街晶之「最後に光が見える物語を」本の話八巻四号

中川正隆「著名な被告人に対する死刑求刑事件の陪審トリアルを傍聴して世界の司法——その実像を見つめて46」判例タイムズ一〇九五号

西尾憲子「拘留所長が監獄法第四六条一項に基づいてした死刑確定者の信書の発送を不許可とする処分に裁量権を逸脱した違法はないとされた事例（平成一一・二・二六最高二小判）（刑事判例研究）」法学

新報一〇九巻四号

野村稔・胡雲騰「『市民的、政治的権利に関する国際規約』第6条と中日死刑問題（日中共同シンポジウム

——「司法改革と人権問題」）Waseda Proceedings of Comparative Law 4

藤井誠二「『死刑廃止議員連盟』の奇妙な人々」文藝春秋八〇巻一四号

藤本哲也「アメリカ合衆国における死刑と法の支配（犯罪学の散歩道一二二）」戸籍時報五四六号

森下忠「平等でない司法（下）」——アメリカ刑事司法制度における人種と階級」判例時報一七七五号

山田利行「死刑制度の存廃に関する国際的な動向と日本」罪と罰四〇一号

山本雅子「『死刑存廃論』の問題性」中央学院大学法学論叢一五巻一・二号

山本祐司「司法改革——『死刑』をどう考えるか。」潮五一九号

吉峯康博・海渡雄一「自由権規約の実施状況について——未解決の問題を中心に」自由と正義五三卷三号
宮台真司「宗教のない国での癒し」一冊の本七卷九号

ポール・タカギ（藤本哲也）「アメリカ社会と死刑（講演要旨）」NCCD JAPAN二五号

Joachim Herrmann, "Death Penalty in Japan: An 'Absurd' Punishment" 法学研究七五卷一一号

Joachim Herrmann（田口守一・小川佳樹訳）「日本における死刑——「不条理な」刑罰（翻訳）」早稲田法

学七八卷一号『市民的、政治的権利に関する国際規約』第六条と中日死刑問題（日中共同シンポジウ

ム「司法改革と人権問題」J Waseda Proceedings of Comparative Law 4

「司法記者の眼 一家四人殺害の一九歳少年の死刑確定」ジュリスト一二二五号

「日本弁護士連合会・死刑制度問題に関する提言」自由と正義五三卷三号

「テロ『未遂犯』は死刑に値するか」ニューズウィーク一七卷一四号

二〇〇三年

秋山裕美『図説 拷問全書』（ちくま文庫）

安達正勝『死刑執行人サンソン——ルイー六世の首を刎ねた男』（集英社新書）

飯塚訓『完全自供——殺人魔大久保清 v s 捜査官』（講談社）

井上薫『死刑の理由』（新潮文庫）

大島康雄『あさま山荘銃撃戦の深層』（小学館）

鎌倉利行『大津事件考』（大阪大学出版会）

木下英夫『松川事件と広津和郎——裁判批判の論理と思想』（同時代社）

小坂井澄『ユダヤ人の復讐の行動原理』（講談社＋α文庫）

坂本敏夫『実録 死刑と懲役——刑務所の中の真実』（ぴいぷる社）

坂本敏夫『刑務官』（新潮文庫）

中山雅城『検証 冤罪 帝銀事件・八海事件・松山事件』（文芸社）

袴田事件弁護団編『はけないズボンで死刑判決——検証・袴田事件』（現代人文社）

原田國男『量刑判断の実際』（現代法律出版）

一橋文哉『宮崎勤事件 塗り潰されたシナリオ』（新潮文庫）

降幡賢一『オウム法廷⑩ 坂本弁護士襲撃犯』（朝日文庫）

三原憲三『死刑存廃論の系譜（第五版）』（成文堂）

新潮文庫編集部編『帝都東京殺しの万華鏡 昭和モダンノンフィクション事件編』（新潮文庫）

龍谷大学矯正・保護研究センター編『国際的視点から見た終身刑』（成文堂）

タイ・トレッドウエル／ミッシェル・バーノン（宇佐和通訳）『死刑囚 最後の晩餐』（筑摩書房）

デュウィ・グラム（本間有訳）『ライフ・オブ・デビッド・ゲイル』（新潮文庫）

マーク・グロスマン（及川裕二訳）『死刑百科事典』（明石書店）

フランツ・シュミット（藤代幸一訳）『ある首切り役人の日記』（白水社）

『年報・死刑廃止03 死刑廃止法案』（インパクト出版会）

赤池一将「フランスにおける死刑廃止後の仮釈放制度とある無期懲役囚の軌跡」矯正講座二四号

新井勉「第一議会における死刑廃止論」日本法学六九巻一号

安形静男「日本の死刑廃止論者（4）——宰相片山哲の死刑廃止論」刑罰史研究二八号

岩田太「合衆国における刑事陪審の現代的役割（6）——死刑陪審の量刑裁量をめぐって」法学協会雑誌

一一〇巻五号

岩田太「RING v. ARIZONA, 536 U.S. 584, 122 S.Ct. 2428 (2002) ——死刑量刑手続において死刑を科す

ために必要な加重事由の認定を裁判官に委ねるアリゾナ州死刑法が陪審審理を保障した合衆国憲法・

第六修正に違反するとした事例（最近の判例）」アメリカ法二〇〇三——

岩田太「精神遅滞者に対する死刑の合憲性——合衆国における死刑制度の揺れ Atkins v. Virginia, 122

S.Ct. 2242, 70 U.S.L.W. 4548 (2002).（アメリカ新判例を読む33——日本法へのインプリケーシ

ョン）ジュリスト一一三七号

鶴飼哲「戦争と死刑——国家による殺人」アムネスティ・ニュースレター三四七号

後義輝「死刑と終身刑については『体験の体験による体験的眞実』を第一に重視、尊重すべきである」N

CCD JAPAN二八号

王雲海「中国の『死刑制限論』と『二年執行猶予つき死刑』」法律時報七五卷一一号

大林茂喜「警視庁創設第一号事件 右大臣岩倉具視の暗殺未遂」月刊警察ヴァリアント二二卷二号

大道万里子「『死刑廃止はリトマス試験紙や!』——死刑への無関心は『殺人』への加担」社会評論二九卷

一号

覚正豊和「中国における未成年者に対する死刑適用」NCCD JAPAN二七号

金澤文雄「人間の尊厳と死刑制度」NCCD JAPAN二七号

鎌田慧「老弁護士の勇氣『死刑台からの生還』」、「『そして、死刑は廃止された』ロベール・ボタンテール

著、藤田真利子訳、団藤重光解説」『時代を刻む精神』(七つ森書館)

亀井静香「『死刑』制度は必要か いま改めて死刑制度の存否を問う」CAUSA九号

菊田幸一「動き出した死刑廃止とNCCD——一〇〇号記念号に寄せて」NCCD JAPAN二七号

菊田幸一「行刑改革会議と死刑執行停止」NCCD JAPAN二八号

呉智英「死刑が封じ込めた復讐権こそ基本的人権ではないか」『ホントの話』(小学館文庫)

坂田仁「アジア人権裁判所の設立を望む——JCCDニュースに寄せて」NCCD JAPAN二七号

志賀節「人権派宣言」NCCD JAPAN二七号

鈴木敬夫訳「東アジアにおける死刑廃止論考——蘇俊雄、夏勇、沈在宇、郭道暉、金日秀の所説（1）」（翻

訳）札幌学院法学一九卷二号

高橋則夫「死んでお詫びをするか、生きてお詫びをするか——死刑存廃論」佐久間修・高橋則夫・宇藤崇
『いちばんやさしい刑事法入門』（有斐閣）

辻本衣佐「死刑問題に関する文献（26）」NCCD JAPAN二七号

辻本衣佐「死刑問題に関する文献（27）」NCCD JAPAN二八号

辻本衣佐「死刑問題に関する文献（28）」NCCD JAPAN二九号

辻本衣佐「判例研究 年長少年に対する死刑適用の是非」季刊教育法一三九号

豊崎七絵「和歌山毒物カレ——事件——証拠と事実認定、故意、死刑（平成一四・一一・一一和歌山地判）

（特集 あの事件から刑事法がわかる！）法学セミナー四八巻六号

藤本哲也「死刑再考——アメリカの死刑を考える（犯罪学の散歩道128）」戸籍時報五五三三

藤吉和史「アメリカにおける死刑の廃止と復活について」NCCD JAPAN二七号

本村洋「『死刑』制度は必要か いま改めて死刑制度の存否を問う」CAUSA九号

山内敏弘「生命権と死刑制度」『人権・主権・平和』（日本評論社）

山花郁夫「法の執行モラトリアムという考え方について」NCCD JAPAN二九号

「死刑を考える 第一号」日弁連新聞三五一号

『絞首台』からのメッセージ 死刑囚——その“極限”の世界を見た！』ダカーボ二三卷二二号

二〇〇四年

菊田幸一『Q & A 死刑問題の基礎知識』（明石書店）

熊本日日新聞社『冤罪 免田事件』（新風舎文庫）

佐木隆三『深川通り魔殺人事件』（新風舎文庫）

死刑をなくす女の会編『死刑は誰を救うのか——中山千夏と語る』（一葉社）

永瀬隼介『一九歳 一家四人惨殺犯の告白』（角川文庫）

原田正治『弟を殺した彼と、僕。』（ポプラ社）

三國隆三『死刑囚——極限状況を生きる』（展望社）

免田栄『免田栄 獄中ノート——私の見送った死刑囚たち』（インパクト出版会）

山本徹美『袴田事件』（新風舎文庫）

和多田進『ドキュメント帝銀事件』（新風舎文庫）

渡辺倍夫『徳島ラジオ商殺し事件』（新風舎文庫）

コリン・ウィルソン、ドナルド・シーマン（関口篤訳）『現代殺人百科』（青土社）

リチャード・モラン（岩館葉子訳）『処刑電流』（みすず書房）

スコット・トゥロー（佐藤耕士訳）『死刑判決』上・下（講談社文庫）

『年報・死刑廃止04 無実の死刑囚たち』（インパクト出版会）

池田浩士「死刑と正義とのあいだ——晴らせぬ怨恨の行方を考える」現代思想三二卷三号

石塚伸一「終身刑導入と刑罰政策の変容——終身刑は死刑の代替刑となりうるか」現代思想三二卷三号

石塚伸一「死刑をめぐる新たな動き——法務大臣！日本は孤立しています！」法律時報七六卷一三号

鶴飼哲「死のかなたでいかに出会うか」現代思想三二卷三号

鶴飼哲・森達也「討議 死刑文化からの抜け道を求めて」現代思想三二卷三号

内海愛子「戦争裁判と死刑」現代思想三二卷三号

小早川義則「デュー・プロセスと精神遅滞犯罪者への死刑——合衆国最高裁アトキンズ判決を契機に」桃

山法学二号

萱野三平「暴力の合法性と非対称性」現代思想三二卷三号

河上和雄「麻原被告に死刑判決」月刊警察ヴァリアント二四七号

菊田幸一「死刑執行集会へのメッセージ」NCCD JAPAN三二号

郷原佳以「死刑存廃論の沸騰のなかで 一九七〇—八〇年代フランス」現代思想三二卷三号

坂上香「『被害者』の声を聴くということ——死刑に関する「語り」をめぐる」現代思想三二卷二号

笹原恵「袴田事件再審請求の不当棄却及び裁判官問題について」インパクション一四三号

澤野雅樹「死刑をめぐる幾つかのパラドクス」現代思想三二卷三号

鈴木敬夫訳「東アジアにおける死刑廃止論考——陳興良，陳澤憲，彭聖斐，許一泰，李壽成の所説（2）」

〈翻訳〉札幌学院法学二〇巻二号

田中輝和「イリノイ州死刑えん罪の原因と対策：死刑に関する州知事委員会報告書を基にして」『刑事法学の現代的課題：阿部純二先生古稀祝賀論文集』（第一法規）

田中輝和・高倉新喜訳「死刑に関するイリノイ州・州知事委員会報告書（二〇〇二年）——第一章 序論及び背景〈翻訳〉」東北学院大学法学政治学研究紀要二二号

辻本衣佐「死刑問題に関する文献（29）」NCCD JAPAN三〇号

辻本衣佐「死刑問題に関する文献（30）」NCCD JAPAN三一号

辻本衣佐「死刑問題に関する文献（31）」NCCD JAPAN三二号

土本武司「インクのしずく62 死刑&無期」捜査研究五三巻六号

中嶋博行「新人権主義がめざすもの——死刑のゆくえ」『罪と罰、だが償いはどこに？』（新潮社）

中山千夏「死刑と喫煙」現代思想三二巻三号

原田正治「弟を殺した加害者と僕」現代思想三二巻三号

袴田弁護団／村松奈緒美「袴田事件① はけないズボンで死刑判決」アーテイクル二二五号

袴田弁護団／村松奈緒美「袴田事件② はけないズボンで死刑判決」アーテイクル二二六号

橋爪信「アメリカの死刑制度をめぐる状況——イリノイ州の例を中心として」判例タイムズ一一四八号

福田雅章「アメリカの死刑執行に関するモラトリウム運動の意味（上）」山梨学院大学法学論集五一号

前田朗「死刑と国際人権法——国際法における死刑存置論をめぐる」現代思想三二卷三号

松葉祥一「死刑・主権・赦し」現代思想三二卷三号

港道隆「死刑の文字と精神——自律と他律と」現代思想三二卷三号

三原憲三「わが国における死刑の廃止と代替刑をめぐる立法の動向」朝日法学論集三〇号

森毅「いくじなし宣言」現代思想三二卷三号

安田好弘「国家と死刑——オウムという転換点」現代思想三二卷三号

柳重雄「アメリカにおける死刑モラトリウム運動の前進」法学セミナー五九七号

山本秀也「不透明な死刑制度」『本当の中国を知っていますか？』（草思社）

吉田智弥「死刑肯定と減刑嘆願のアナロジー」現代思想三二卷三号

明治大学犯罪学研究室（責任者・菊田幸一）「『死刑臨調設置法案』（死刑廃止を推進する議員連盟）に關

する衆参両院議員へのアンケート結果について」NCCD JAPAN三〇号

「特集 死刑を考える」季刊刑事弁護三七号

デビット・T・ジョンソン「アメリカと日本における死刑」NCCD JAPAN三一号

ジャン・ラブランシュ（郷原佳以訳）「人間性剥奪への道（死刑に関して）」現代思想三二卷三号

ピーター・ホジキンソン（菊田幸一訳）「死刑——改善か、それとも廃止か」NCCD JAPAN三二号

「貝原浩のベストセラー戯評 死刑執行人サンソン」出版ニュース一九九九号

「死刑制度を考える——犯罪被害者遺族と少年死刑囚の課題を通して」アムネスティ・ニュースレター三六

〇号

『被害者支援』と『死刑廃止』の連帯をめざして「アムネスティ・ニュースレター三六一号

「特集 死刑を考える」現代思想三二巻三号

菊田

幸一

教授

著作目録

菊田 幸一 教授

著作目録

一 著書

- 一九六六年 二月 『新しい刑政紀行』一粒社
- 一九六七年 三月 『刑事政策講義案（第一分冊）』プリント版 明治大学生協
- 一九六八年 四月 『刑事政策講義案（第二分冊）』プリント版 明治大学生協
- 一九六九年 三月 『保護観察の理論』（学位論文）有信堂
- 一九六九年 四月 『刑事政策講義案（第三分冊）』プリント版 明治大学生協
- 一九七〇年 二月 『犯罪学（講義案）』プリント版 明治大学生協
- 一九七一年 四月 『少年法の動態』成文堂
- 一九七一年 一月 『犯罪学（初版）』成文堂
- 一九七四年 四月 『少年教護』成文堂
- 一九七四年 二月 『司法書士試験のための刑法』週刊住宅新聞社
- 一九七八年 三月 『少年棄民』評論社
- 一九七八年 四月 『犯罪学（改訂版）』成文堂
- 一九八〇年 三月 『ホーンブック 犯罪学』北樹出版
- 一九八〇年 九月 『判例刑事政策演習（少年処遇編）』（編著）新有堂

- 一九八〇年一〇月 『少年法概説』 (有斐閣双書) 有斐閣双書
- 一九八二年九月 『ホーンブック 犯罪学(改訂版)』 北樹出版
- 一九八二年一〇月 『犯罪・非行と人間社会』 評論社
- 一九八二年十一月 『アジアの少年法(1)』 (菊田・辻本監訳) 成文堂
- 一九八二年二月 『犯罪学辞典』 (編集) 成文堂
- 一九八三年一〇月 『アジアの少年法(2)』 (菊田・辻本監訳) 成文堂
- 一九八四年三月 『司法書士のための刑法(改訂版)』 週刊住宅新聞社
- 一九八四年四月 『概説 犯罪学』 明治出版会
- 一九八四年六月 『犯罪学(三訂増補版)』 成文堂
- 一九八五年五月 『アジアの非行少年』 (明治大学社会科学研究所叢書) 勁草書房
- 一九八五年五月 『犯罪と社会正義』 ポール・タカギ著 (共訳) 成文堂
- 一九八五年十一月 『知らないと損する恩赦の知識』 第三文明社
- 一九八六年四月 『犯罪と社会正義』 (共訳) 成文堂
- 一九八六年五月 『図説 犯罪学』 青林書院
- 一九八七年二月 『判例刑事政策演習(矯正処遇編)』 (編著) 新有堂
- 一九八八年二月 『刑事六法』 (共編) 明治出版会
- 一九八八年八月 『少年法概説(改訂版)』 有斐閣
- 一九八八年九月 『死刑―その虚構と不条理』 三三書房

- 一九八九年 二月 『概説 犯罪学（改訂版）』 明治出版会
 一九八九年 七月 『犯罪学（中国版）』（菊田著 海淋他訳） 群集出版社
 一九九〇年 二月 『刑事政策の問題状況』 勁草書房
 一九九〇年 五月 『刑法サブノート』 週刊住宅新聞社
 一九九〇年 五月 『ホーンブック 犯罪学（三訂版）』 北樹出版
 一九九〇年 九月 『死刑廃止を考える』（岩波ブックレット） 岩波書店
 一九九一年 五月 『死刑・アメリカの現実（上・下）』（監訳） 恒友出版
 一九九二年 七月 『犯罪学（四訂版）』 成文堂
 一九九二年 七月 『刑事六法一九九二年版』（共編） 明治出版会
 一九九三年 二月 『死刑と世論』（編著） 成文堂
 一九九三年 三月 『概説 犯罪学（三訂版）』 明治出版会
 一九九三年 七月 『死刑廃止を考える（改訂版）』（岩波ブックレット） 岩波書店
 一九九三年 一月 『死刑廃止・日本の証言』（編著） 三一書房
 一九九四年 二月 『いま、なぜ死刑廃止か』 丸善出版
 一九九五年 四月 『ホーンブック 新・犯罪学』（共著） 北樹出版
 一九九七年 二月 『検証・プリズナーの世界』（編） 明石書店
 一九九八年 四月 『刑事六法』（編） 明石書店
 一九九八年 八月 『犯罪学（五訂版）』 成文堂

一九九九年 三月

一九九九年 三月

一九九九年 一月

一九九九年 二月

二〇〇〇年 二月

二〇〇一年 六月

二〇〇二年 四月

二〇〇二年 七月

二〇〇三年 四月

二〇〇三年 四月

二〇〇四年 八月

二〇〇五年 刊行予定

二〇〇五年 刊行予定

二〇〇五年 刊行予定

二〇〇五年 刊行予定

二〇〇五年 刊行予定

二〇〇一年

二〇〇五年

『死刑—その虚構と不条理 (新版)』明石書店

『受刑者の人権と法的地位』日本評論社

『死刑と情報公開 (共編)』インパクト出版社

『死刑問題 (共著)』日本評論社

『少年法概説 (第三版)』(有斐閣双書) 有斐閣

『受刑者の法的権利』三省堂

『ホーンブック 少年法』北樹出版

『日本の刑務所』(岩波新書) 岩波書店

『ホーンブック 犯罪学 (新版)』(共著) 北樹出版

『少年法概説 (第四版)』(有斐閣双書) 有斐閣

『Q & A 死刑問題の基礎知識』明石書店

『刑事手続論』勁草書房

『中国の少年司法改革』明石書店

『犯罪学 (大訂版)』成文堂

『刑務所改革—開かれた監獄を求めて』(復林) (編著) 日本評論社

『社会のなかの刑事司法と犯罪者』(復林) (編著) 日本評論社

少年法概説 明石書店

死刑廃止 明石書店

二 論文・小論等

- 一九六一年 一月 「犯罪予測と保護観察」 法律のひろば一四卷一一号
- 一九六一年 九月 「刑の量定と保護観察」 刑政七二卷九号
- 一九六一年十二月 「事前調査と保護観察」 刑政七二卷一二号
- 一九六二年 一月 「宣告猶予と保護観察」 刑政七三卷一号
- 一九六二年 七月 「保護司制度の現実とその対策——実態調査による一考察」 ジュリスト二五四号
- 一九六二年 七月 「アメリカにおけるプロベーション法制の発展」 法律のひろば一五卷七号
- 一九六二年 一月 「刑法第二五條二項と再度の執行猶予」 法律のひろば一五卷一一号
- 一九六二年 二月 「プロベーション法制の比較考察 (一) (二) (三)」 法律のひろば一五卷一二号
- 一九六三年 五月 「麻薬中毒者に対する保護観察」 ジュリスト二七三号
- 一九六三年 八月 「少年年齢下げ問題と保護観察」 青少年問題一〇卷八号
- 一九六三年 十月 「バークレイだより」 法律のひろば一六卷一〇号、一七卷三号
- 一九六三年 十月 「改正刑法における保護観察制度の意義」 明治大学法制研究所紀要七号
- 一九六三年 十月 「起訴猶予者の再犯の研究」 法務総合研究所研究部紀要
- 一九六四年 四月 「N・P・P・A一九五五年プロベーションおよびパロール標準法」 法務総合研究所資料一二号

- 一九六四年 四月
- 一九六四年 四月
- 一九六四年 八月
- 一九六四年 八月
- 一九六四年 一月
- 一九六四年 一月
- 一九六四年 二月
- 一九六五年 四月
- 一九六五年 五月
- 一九六五年 七月
- 一九六六年 六月
- 一九六六年 一月
- 一九六六年 一月
- 一九六七年 二月

「保護観察における行為者の類型」明治大学法制研究所紀要八号

「カリフォルニアにおける犯罪の動向」ジュリスト二九六号

「海外だより わたしのみたカリフォルニアの少年保護」更生保護一五卷八号

「カリフォルニアC・Y・A施設訪問記」法律のひろば一七卷八号

「カリフォルニア矯正施設訪問記(一)」刑政七五卷一一号

「少年非行への効果的対策」青少年問題一一卷一一号

「刑事政策に新展開を求めて」法律のひろば一七卷一二号

「不定期刑についての一考察」家庭裁判所月報一七卷四号

「アメリカにおける量刑方式の動向」法律時報三七卷六号

「アメリカ模範量刑法」明治大学法制研究所紀要九号

「カリフォルニアにおける少年非行およびプロベーションの現況」家庭裁判所月報

一八卷六号

「執行猶予者に対する保護観察」刑事裁判資料一七三号

「カリフォルニア・リハビリテーション・センターについて」法律のひろば一九卷

一一号

「交通による業務上過失致死の量刑に関する実証的研究」法務総合研究所研究部紀

要

「保護処分の多様化とプロベーション——少年法改正論議との関連において」

家裁月報一九卷一二号

一九六七年二月
「わが国における起訴便宜主義について（一）（二）（三）（四・完）」法律論叢四一卷一
号〜四二卷三号

一九六八年二月
「保護観察機関への提言（一）」法律のひろば二二卷二号

一九六八年二月
「刑の量定と保護観察」判例時報五〇六号

一九六八年三月
「保護観察機関への提言（二）」法律のひろば二二卷三号

一九六八年三月
「欧米諸国におけるプロベーション法制の史的考察」明治大学社会科学研究所紀要六集

一九六八年六月
「アメリカの少年裁判所の動き——宮崎判事の論文を読んで」法律のひろば二二卷六号

一九六八年七月
「判決前調査制度の論点と展望」明治大学法制研究所紀要一〇号

一九六八年八月
「ゴールト判決と米国少年裁判所基準」ジュリスト四〇三号

一九六八年八月
「アメリカにおける少年裁判所の現況と動向」判例タイムズ二二二二号

一九六八年十一月
「明治百年恩赦の論点」判例時報五三四号

一九六九年一月
「更生保護と恩赦、保護観察の種類と適用範囲、試験観察、更生保護、前科抹消と復権、

恩赦、非行少年に対する調査と鑑別、風俗犯罪とその対策、集団犯罪とその対策、更

生保護法の刑事政策的意義、売春防止法の刑事政策的意義」森下編『刑事政策演習』

一九六九年一月
「勤労流入少年の実態」少年補導一四卷一号

一九六九年二月
「恩赦における保護観察」法律のひろば二二卷二号

一九六九年三月
「恩赦制度の批判的考察」法律論叢四二卷四・五・六号

一九六九年 六月

一九六九年 八月

一九六九年 八月

一九六九年一〇月

一九七〇年 三月

一九七〇年 五月

一九七〇年 五月

一九七〇年 五月

一九七〇年 七月

一九七〇年 八月

一九七〇年 十一月

一九七〇年 十一月

一九七〇年 十二月

一九七一年 一月

一九七一年 一月

「受刑者の人権」『政治のなかの法』

「カリフォルニア州矯正施設長規則」法律論叢四三卷一号

「少年裁判所のための模範規則 Model Rules for Juvenile Court—NCCD 一九九六年版について」ジュリスト四三〇号

「少年非行の社会的処遇」少年補導一四卷九号

「少年裁判所模範規則」法律論叢四三卷二・三号

「交通反則通告制度の少年への適用——少年法改正の動きと関連して」判例時報五八六号

「死刑制度と世論」法律時報四二卷六号

「米国少年裁判所模範規則」家裁月報二二卷五号

「少年法を骨抜きにした道交法の改正」判例時報五九四号

「公安事件と少年法改正の動向」犯罪と非行五号

「行政権力の拡大と治安対策」法律時報四二卷一二号

「少年法改正要綱への批判」判例時報六〇七号

「米国少年裁判所基準一九六六年（一）（二）」家裁月報二二卷一一・一二号、二三卷一
号

「仮釈放」『刑事政策講座二巻』

「矯正施設内のシーンを内容とするフィルムの一般公開を禁止した事例」アメリカ法一

九七一年

一九七一年 三月

一九七一年 四月

一九七一年 五月

一九七一年 六月

一九七一年 九月

一九七一年 〇月

「少年の矯正・保護」『刑事政策講座三卷』
「一九六三年カリフォルニア州矯正規則」法務省監獄法改正資料三号
「少年法改正と選挙権年齢下げ」判例時報六二五号
「少年法改正のねらいと一八歳選挙権」青年運動九六号
「研究会レポート（少年問題研究会）」法律時報四三卷一一号
「思想犯保護觀察法の歴史的的分析（一）（二・完）」法律論叢四四卷五・六号（四五卷一
号

一九七一年 一月

一九七一年 二月

一九七一年 二月

一九七一年 五月

一九七一年 五月

「監獄法の改正と受刑者の人権」判例時報六四五号
「刑事政策と公衆参加」刑法雑誌一八卷一・二号
「犯罪の予防と公衆参加」刑法雑誌一八卷一・二号
「少年法改正における年齢区分（一）（二）」判例時報六五九号、六六三号
「非行少年の最後の砦を訪ねて——大阪市立阿武山学園における教護活動」法律時報四
四卷六号

一九七二年 九月

一九七二年 二月

一九七二年 三月

一九七二年 七月

「教護院」松尾他編著『少年法その現状と課題』
「カリフォルニア・リハビリテーションセンターを再訪して」犯罪と非行一五号
「わが国少年法史にみる年齢問題」法律論叢四六卷二・三号
「アメリカの模範量刑法について（改訂版）」ジュリスト五三八号

- 一九七三年 七月 「児童憲章制定の背景」子ども村編『はばたけ児童憲章』
- 一九七三年 八月 「カリフォルニアにおける少年法改正の現況」法律時報四五卷九号
- 一九七三年 二月 「カリフォルニアにおける少年法の改正」私学研修六一号
- 一九七四年 三月 「福祉施設収容児による第三者損害と賠償責任」ジュリスト五五六号
- 一九七四年 三月 「アメリカ模範量刑法（改訂版）」法律論叢四七卷一号
- 一九七四年 三月 「カリフォルニアにおける少年法制の実際」法制審議会少年法部会参考資料六〇号
- 一九七四年 四月 「更生保護会の現状と課題——とくに居住者減をめぐつて」罪と罰一一卷三号
- 一九七四年 四月 「教護活動における法的諸問題」非行問題一六九号
- 一九七四年 六月 「刑法改正草案の刑事政策条項への疑問」法律時報四六卷六号
- 一九七四年 八月 「中間保護施設への展望」ジュリスト五六八号
- 一九七四年 九月 「交通事故の量刑と相場」保険評論二六卷九号
- 一九七四年 一〇月 「犯罪学の実用性について——星野周弘氏の反論に答える」法律時報四六卷一〇号
- 一九七五年 二月 「教護院における教育棄民の実態（インタビュー）」学校事務二六卷二号
- 一九七五年 二月 「一九六〇年アメリカ合衆国コロンビア地区連邦矯正規則」法務省監獄法改正資料一九号
- 一九七五年 四月 「犯罪被害者に対する国家補償」公聴四一号
- 一九七五年 四月 「イギリスにおける被害者補償の現状」ジュリスト六三二号
- 一九七五年 四月 「非行少年処遇上の諸問題」法律論叢四七卷三・四号

- 一九七五年 六月 「司法と福祉と人権に関する覚書」 法律論叢四七卷六号
- 一九七五年 八月 「福祉と保護とその人権」 法学セミナー二四二号
- 一九七五年 八月 「収容少年たちと教育（一）」（九） 生徒指導五卷一五号〜六卷九号
- 一九七五年 一月 「監獄法施行規則九六条中未決拘留により拘禁された者に対し喫煙を禁止する規定と憲法一三条」 法律論叢四八卷二号
- 一九七六年 三月 「補導委託制度の現状と課題」 法律論叢四八卷四・五・六号
- 一九七八年 三月 「学校教育と少年非行」 JCCD七号
- 一九七八年 三月 「イギリスにおける非行少年取扱の実際と課題（一）」（三・完） 法律論叢五〇卷一
号〜三号
- 一九七八年 三月 「少年非行の原因について」 少年補導二六四号
- 一九七八年 九月 「女性感情コントロール学」 新しい女性一二卷九号
- 一九七八年 二月 「わが国非行少年処遇の回顧と展望」 『刑事政策の現代的課題 小川太郎博士古希祝賀』
「A・G・ピーターズ『東南アジアにおける少年非行の比較研究（一）』（三）』 法律
論叢五一卷二・三号、四・五・六号、五二卷一号
- 一九七九年 五月 「保安処分」 川端・沼野編『刑事政策』
- 一九七九年 五月 「子どもの非行・自殺と学校の指導」 教職研修七卷九号
- 一九七九年 一月 「随想 アジアの少年非行」 ジュリスト七〇四号
- 一九八〇年 三月 「現代少年法論（一）（二）（三）」 法律論叢五一卷二・三号〜五号

- 一九八〇年一〇月 「監獄法と特別権力関係論」重松編『監獄法演習』
- 一九八〇年一月 「少年裁判における裁判例の検討」法学部創立百周年記念論文集
- 一九八〇年一月 「アジアにおける少年法制の比較研究」明治大学社会科学研究所年報二二号
- 一九八一年一月 「随想 PLAZA 憲法第二六条」キャリアガイダンス一三巻一号
- 一九八一年一月 「わたくしの死刑廃止論」書斎の窓三〇一号
- 一九八一年二月 「少年裁判例の再検討（一）」（四）判例時報九八七号〜一〇〇〇号
- 一九八一年九月 「通り魔と保安処分」Law School 三六号
- 一九八一年一〇月 「非犯罪化について」Law School 三七号
- 一九八一年十一月 「永山則夫と死刑」Law School 三八号
- 一九八一年十二月 「保護処分の多様化」Law School 三九号
- 一九八一年十二月 「アジアの非行少年」法律論叢五三巻五号〜五四巻二二号
- 一九八二年一月 「収容少年の義務教育」Law School 四〇号
- 一九八二年二月 「公務員の収賄（一）」Law School 四一号
- 一九八二年三月 「公務員の収賄（二）」Law School 四二二号
- 一九八二年四月 「保護観察」、「非犯罪化」三原・斉藤編『刑事政策』
- 一九八二年五月 「非犯罪化と非刑罰化に関連して」Law School 四四号
- 一九八二年五月 「ラベリング理論」Law School 四四号
- 一九八二年五月 「児童・生徒への懲戒権をめぐる問題点」教職研修一〇巻九号

一九八二年 五月 「米最高裁における未成年者への死刑判断」法律論叢五五卷二・三号

一九八二年 六月 「児童・生徒への体罰をめぐる」JCCD二二号

一九八二年 九月 「アジアの社会的条件と少年」犯罪と非行五三号

一九八三年 一月 「アジアの少年非行(9)——一九二二年ベンガル少年法(THE BENGAL CHILDREN ACT 1922)」法律論叢五五卷五号

一九八三年 四月 「選挙違反と恩赦」法と政策二三号

一九八三年 七月 「『児童憲章』の背景」JCCD二九号

一九八三年 七月 「アジアの少年非行と少年法制」明治大学百周年記念学術研究報告書

一九八四年 三月 「監獄法の改正について(一)(二)(三)」法律論叢五七卷六号、五八卷一号、二一
号

一九八四年 六月 「制裁選択の合理化——判決前調査制度を中心として」宮澤・藤本編『講義 刑事
政策』

一九八四年 七月 「アメリカの少年非行の動向」『少年非行(法学セミナー増刊 新権利のための闘争)』

一九八四年 八月 「死刑裁判と弁護士——永山事件主任弁護人にくく」(共著)JCCD三〇号

一九八四年 九月 「死刑と世論——廃止論者と存置論者についての精細な調査(正)(続)」法律論叢五六
卷六号、五七卷三号

一九八四年 九月 「児童・生徒に対する懲戒——出席停止処分の要件と出願手続き」教職研修臨時増
刊号八号

一九八五年 三月
 一九八五年 四月
 一九八五年 七月
 一九八五年 九月
 一九八五年 九月
 一九八五年 二月
 一九八六年 三月
 一九八六年 四月
 一九八六年 五月
 一九八六年 五月
 一九八六年 六月
 一九八六年 六月
 一九八六年 六月
 一九八六年 八月
 一九八六年 八月
 一九八六年 一月
 一九八七年 一月
 一九八七年 五月

「監獄法の改正について（１）」法律論叢五七卷六号

「複写目的による秘密資料の持ち出しの窃盗罪成否」判例時報一一四二号

「監獄法の改正について（２）」法律論叢五八卷一号

「監獄法の改正について（３）」法律論叢五八卷二号

「免田榮さんに聞く」（共著）JCCD三五号

「死刑問題に関する国会議員の意識」法学セミナー七三二号

「刑務作業における賃金制について」法律論叢五八卷四・五合併号

「刑務官と死刑—元刑務官に聞く」JCCD三七号

「死刑廃止運動のあり方」JCCD三七号

「防犯」ホーム百科事典一八卷

「体罰をめぐる判例とその考え方（特集 教師の権利と責任—最近の教育裁判・判例を通して）」教職研修一四卷一〇号

「体罰をめぐる判例とその考え方」教職研修一四卷一〇号

「体罰をめぐる教師の責任—最近の教育裁判・判例を通じて」JCCD三八号

「裁判官と死刑—元裁判官に聞く」（共著）JCCD三八号

「刑が確定していないのに刑事休職処分できるのはなぜか」教職研修特集

「死刑の虚構と不条理」JCCD四〇号

「死刑と意思の自由」JCCD四一号

「死刑と意思の自由」JCCD四一号

一九八七年	七月
一九八七年	七月
一九八七年	八月
一九八七年	二月
一九八八年	四月
一九八八年	七月
一九八八年	八月
一九八八年	九月
一九八八年	九月
一九八九年	一月
一九八九年	一月
一九八九年	一月
一九八九年	三月
一九八九年	六月
一九八九年	六月

「体罰の法的根拠」教職研修特集三三三号

「生徒をかるくたたくだけで体罰となるのか」教職研修特集三三三号

「受刑者の人権——不服処理の側面から（特集 刑事施設法案）」刑政九八巻八号

『意思』『責任』と死刑」法律論叢六〇巻二・三合併号

「死刑と無機刑の限界」JCCD四四号

「死刑囚の母親に聞く」JCCD四五号

「仮釈放の積極策をめぐって」判例タイムズ六六七号

「平安時代の死刑停止を現代に」JCCD四六号

「死刑執行停止連絡会議の発足」JCCD四六号

「死刑と恩赦」判例時報一二九三

「残虐刑の禁止と日本国憲法」JCCD四七号

「中国における青少年犯罪の現状——中国青少年犯罪学会に出席して」（共著）犯罪社会学研究二二号

「アメリカにおける死刑に関する司法判断と日本国憲法——いわゆる『残虐な刑罰』を中心として」法律論叢六一巻四・五合併号

「女子高生惨殺事件の匿名報道」JCCD四八号

「不透明な昭和天皇大喪恩赦——政令恩赦の法的根拠はどこにあるのか（現代の視点）」法学セミナー三四巻六号

一九八九年	六月	「菊地さよ子さん（救援センター）に聞く」 JCCD四八号
一九八九年	七月	「争訟事例にみる学校・教師の責任——体罰の場合」 教職研修五七号
一九八九年	九月	「上海市青少年保護条例（一九八七年六月二十日，上海市第八期人民代表大会常務委員会第二九次会议採択）〈資料〉」 法律論叢六二卷一號
一九八九年	九月	「中国の肅清と日本の死刑」 JCCD四九号
一九八九年一〇月		「死刑と世論に関する序説」 JCCD五〇号
一九八九年一二月		「少年法の根本理念を考える」 JCCD五一号
一九九〇年一月		「死刑廃止への国際的動向〈資料〉」 法律論叢六二卷三號
一九九〇年三月		「死刑制度に関する意識階層の意見——本研究は辻本義男兼任講師との共同研究によるものである」 法律論叢六二卷四・五・六号
一九九〇年三月		「死刑廃止条約の早期批准を」『死刑廃止条約の批准を求めて——資料編（一）』
一九九〇年三月		「死刑廃止議定書の締結——韓国・日本・アメリカ三ヶ国共同」 JCCD五二号
一九九〇年三月		「国連による死刑廃止条約の採択〈随想〉」ジュリスト九五二号
一九九〇年三月		「改訂」少年執務資料集（三）「最高裁家庭裁判資料一四二号
一九九〇年四月		「死刑廃止条約の早期批准を」自由と正義四一巻四号
一九九〇年七月		「永山事件と司法判断」 JCCD五三号
一九九〇年七月		「死刑制度に関する意識階層の意見（共著）」 JCCD五三号
一九九〇年七月		「生徒の懲戒」（執筆）新教育学大事典

- 一九九〇年一〇月 「アメリカの処刑状況とニューヨークの現状」 JCCD五四号
- 一九九〇年一〇月 「日本ではなぜ死刑が廃止されないのか」 JCCD五四号
- 一九九〇年一二月 「国会議員は死刑についてどう考えているのか」法学セミナー増刊総合特集四六号
- 一九九一年一二月 「死刑執行停止の実現を——死刑廃止に向けて新・法相に望む」 JCCD五九号
- 一九九一年一二月 「一九九〇年におけるアメリカの死刑状況」 JCCD五九号
- 一九九一年二月 「死刑確定者の処遇」 JCCD五五号
- 一九九一年二月 「韓国の死刑と廃止運動の現状」自由と正義四二巻二号
- 一九九一年二月 「思想・良心・宗教の自由と職務遂行上の留意点」教職研修七六号
- 一九九一年二月 「死刑廃止フォーラムに参加して」 JCCD五五号
- 一九九一年三月 「アメリカにおける量刑改革と犯罪者対策」法律論叢六三巻四・五号
- 一九九一年三月 「アメリカにおける量刑改革と犯罪者対策(続)」法律論叢六三巻六号
- 一九九一年四月 「湾岸戦争と死刑」 JCCD五六号
- 一九九一年四月 「死刑担当弁護士に聞く」 JCCD五六号
- 一九九一年六月 「死刑公開の是非」 JCCD五七号
- 一九九一年七月 「アメリカにおける量刑改革と犯罪者対策(3完)」法律論叢六四巻一号
- 一九九一年七月 「連邦量刑ガイドラインとその後の状況」法律時報六三巻八号
- 一九九一年九月 「国連の死刑廃止条約が発効——死刑廃止へ国民的論議を」 JCCD五八号
- 一九九二年一月 「死刑制度に関する弁護士意識」法律論叢六四巻三・四号

一九九二年 一月

『未成年者飲酒・喫煙禁止法』、『青少年保護条例』その他六項目 教職研修創刊二〇周年記念号

一九九二年 二月

「死刑制度に関する弁護士意識」自由と正義四三卷二一〇号

一九九二年 二月

「死刑制度に関する弁護士意識」JCCD六〇号

一九九二年 三月

「被害者に対する宥恕が量刑に及ぼす範囲について——アメリカの判例を参照して（資料）」法律論叢六四卷五・六号

一九九二年 五月

「死刑の選択と被害者感情」JCCD六一号

一九九二年 五月

「日方ヒロコさんに聞く——死刑廃止運動家」JCCD六一号

一九九二年 五月

「論壇 死刑の選択と被害者感情」JCCD六一号

一九九二年 六月

「民営刑務所・在宅拘禁と電子モニタリング——アメリカにおける過剰拘禁対策」

『刑事法学の現代的展開（下）』刑法編・刑事訴訟編——八木國之先生古稀祝賀論文集

一九九二年一〇月

「国際人權（自由権）規約の政府報告書の検討——とくに生命に対する権利（第6条）」法律時報六四卷一一号

一九九三年 二月

「台湾における死刑の状況」JCCD六四号

一九九三年 二月

「後藤田法相に望む」JCCD六四号

一九九三年 三月

「ニューヨーク州における少年司法改革とその課題」法律論叢六五卷四・五合併号

一九九三年 三月

「アジアの少年非行（九）（資料）」——大韓民国新少年法」法律論叢六五卷六号

一九九三年 六月

一九九三年 六月

「経営者と刑事責任——『ともに生きる』原理を求めて」季刊・経営と法律八三号
「破られた死刑執行ゼロの記録——後藤田法相の死刑執行の意味するもの」法学セミナー三八巻六号

一九九三年 六月

「死刑執行せず！——二二二日の重み」潮四一一号

一九九三年 七月

「少年審判の再審」JCCD六五号

一九九三年 七月

「死刑問題を問う——三年四か月ぶりの執行をめぐる」JCCD六五号

一九九三年 七月

「死刑について——加賀乙彦氏に聞く」JCCD六五号

一九九三年一〇月

「刑法の基礎とその効力（刑法基本講座1）」季刊・経営と法律八四号

一九九三年一〇月

「死刑廃止アジア・フォーラムから」JCCD六六号

一九九三年一〇月

「死刑に代わる刑罰」JCCD六六号

一九九三年一〇月

「国際規約人権委員会への日本政府報告に対する意義」（原文・英文）国際規約人権委員会

権委員会

一九九三年一〇月

「国際規約に違反している日本の死刑」法学セミナー四六六号

一九九四年 一月

「細川内閣死刑執行の問題点」JCCD六七号

一九九四年 三月

「The Death Penalty in Japan: Why Hasn't It Been Abolished? Meiji Law Journal 1

一九九四年 三月

「アメリカに於ける確定死刑囚の扱い——ニュー・ジャージー州立刑務所の例にみる」

JCCD六八号

一九九四年 三月

「今こそ、死刑廃止議員連盟の結成を」JCCD六八号

- 一九九四年 四月 「構成要件と違法性」季刊・経営と法律八五号
- 一九九四年 四月 「死刑廃止への潮流——広がる人権意識 死刑執行停止法の実現を」公明三三八号
- 一九九四年 四月 「国連規約人権委員会の死刑論議——第四九回規約人権委員会を傍聴して」法律時報六卷四号
- 一九九四年 七月 『「死刑」と現代社会」松山大学地球研究ジャーナル七号
- 一九九四年 七月 「いま、なぜ世論調査か」JCCD六九号
- 一九九四年 八月 「責任・未遂（刑法基本講座3）」季刊・経営と法律八六号
- 一九九四年 九月 「受刑者の法的地位（1）——元・受刑者に聞く〈資料〉」法律論叢六七卷一号
- 一九九四年 十月 「少年に対する死刑の適用」JCCD七〇号
- 一九九四年 十月 「少年司法処理の諸問題」JCCD七〇号
- 一九九四年 十月 『「児童の権利条約」が意味するもの」教職研修一〇月増刊号
- 一九九四年 十月 「ニューヨーク州における少年司法改革」『硯愚車鏞硯博士華甲記念論文集』下巻
- 一九九四年 十一月 「死刑は被害者感情を癒していない」佐伯他編『死刑廃止を求める』
- 一九九四年 十一月 「受刑者の人権——元受刑者に聞く」法律論叢六七卷一号
- 一九九五年 二月 「受刑者の人権と残虐で異常な刑罰——アメリカ行刑判決を中心として」法律論叢六七卷二・三合併号
- 一九九五年 二月 「犯罪成立個数と刑罰の種類」季刊・経営と法律八七号
- 一九九五年 二月 「受刑者の人権と残虐で異常な刑罰——アメリカ行刑の判例を中心として」法律論

叢六七卷二号

一九九五年 三月

「受刑者の憲法上の地位——アメリカにおける判例検討を中心として」法律論叢六七卷四・五・六合併号

一九九五年 三月

「出版の自由妨害の原告となつて」通信「本当の自分を生きたい」第一号

一九九五年 五月

「死刑執行に対する権力側の論理」JCCD七二号

一九九五年 五月

「受刑者の人権と法的地位」受験新報五月号

一九九五年 五月

「判例にみる死刑囚の外部交通権①——平峰判決をめぐつて」通信「本当の自分を生きたい」第二号

一九九五年 六月

「犯罪者処遇における人間尊厳の尊重と正当手続——監獄法改正によせて」『刑事法学の新動向——下村康正先生古稀祝賀』下巻

一九九五年 七月

「受刑者が証言する日本の刑務所（１）」JCCD七三号

一九九五年 七月

「地下鉄サリン事件と死刑」JCCD七三号

一九九五年 七月

「判例にみる死刑囚の外部交通権②——特別権力関係論」通信「本当の自分を生きたい」第三号

一九九五年 八月

「矯正裁判例の検討（１）——監獄拘禁関係の特殊性」判例時報一五三一号

一九九五年 八月

「日本の監獄——元受刑者に聞く」NCCD一号

一九九五年 八月

「行刑の密行主義を排せよ」NCCD一号

一九九五年 九月

「矯正裁判例の検討（２）——図書・新聞の閲読（１）」判例時報一五三四号

一九九五年 九月

「受刑者の法的地位(2)」——元・受刑者に聞く「老人累犯者の場合」(資料)「法律論叢六八巻一号」

一九九五年 九月

「判例にみる死刑囚の外部交通権③」——特別権力関係論から比較衡量論へ「通信」(本当の自分を生きたい)第四号

一九九五年一〇月

「矯正裁判例の検討(3)」——図書・新聞の閲読(2)「判例時報一五三七号」

一九九五年一〇月

「青少年犯罪者の司法処理(共同研究)」(共著)明治大学社会科学研究所紀要三四巻一号

一九九五年一二月

「矯正裁判例の検討(4)」——在監者と外部との面会「判例時報一五四〇号」

一九九五年一二月

「ニューヨーク州の死刑復活」NCCD二号

一九九五年一二月

「矯正裁判例の検討(5)」——信書の発受「判例時報一五四三号」

一九九五年一二月

「受刑者の法的地位(3)」——六か所の刑務所を体験して(資料)「法律論叢六八巻二号」

一九九五年一二月

「それでも麻原を死刑にしたいけない」RONZA一巻九号

一九九六年 一月

「矯正裁判例の検討(6)」——差入れ・自弁「判例時報一五四六号」

一九九六年 一月

「ニューヨーク州の死刑復活」書齋の窓四五一号

一九九六年 一月

「体罰の必要性(講座)」教職研修一二月号増刊

一九九六年 一月

「図書館などへの一次隔離」教職研修一二月号増刊

一九九六年 二月

「矯正裁判例の検討(7)」——著作および著作物の発表「判例時報一五四九号」

- 一九九六年 二月 「受刑者の人権と法的地位」法律論叢六八卷三号
- 一九九六年 二月 「刑の適用（2）」（刑法基本講座5）（法学基本講座5）季刊・経営と法律九〇号
- 一九九六年 二月 「死刑執行とマスコミ報道」NCCD三号
- 一九九六年 二月 「受刑者が語る日本の刑務所（3）」NCCD三号
- 一九九六年 三月 「矯正裁判例の検討（8）」——宗教「判例時報一五五二号
- 一九九六年 三月 「受刑者の法的地位（4）」——覚醒剤中毒者の場合（資料）法律論叢六八卷六号
- 一九九六年 四月 「矯正裁判例の検討（9）」——請願・所長面接・不服申立「判例時報一五五五号
- 一九九六年 四月 「受刑者が語る日本の刑務所（4）」——元・暴力団員に聞く「NCCD四号
- 一九九六年 四月 「海外で報道された刑務作業」NCCD四号
- 一九九六年 五月 「矯正裁判例の検討（10）」——裁判を受ける権利「判例時報一五五八号
- 一九九六年 六月 「矯正裁判例の検討（11）」——移送の法的地位「判例時報一五六一号
- 一九九六年 七月 「矯正裁判例の検討（12）」——懲罰と適正手続き（1）「判例時報一五六四号
- 一九九六年 七月 「死刑制度の問題状況——アメリカの現状から」NCCD五号
- 一九九六年 七月 「死刑を主題とした三つの映画」NCCD五号
- 一九九六年 八月 「『ともに生きる』と死刑」同朋四七卷八号
- 一九九六年 八月 「矯正裁判例の検討（13）」——懲罰と適正手続き（2）「判例時報一五六七号
- 一九九六年 八月 「保安処分（刑法基本講座6）」季刊・経営と法律九一号
- 一九九六年 九月 「矯正裁判例の検討（14）」——独居拘禁の相当性「判例時報一五七〇号

一九九六年 九月

「國際的視野からみた受刑者の人權」『現代國際社会と人權の諸相——宮崎繁樹先生古稀記念』

一九九六年 九月

一九九六年 一〇月

「受刑者の法的地位（５）——元刑務官に聞く（上）〈資料〉」法律論叢六九卷一號

一九九六年 一〇月

「矯正裁判例の検討（１５）——輕屏罰と行動の規制」判例時報一五七三號

一九九六年 一〇月

「受刑者の法的地位（６）——元刑務官に聞く（下）〈資料〉」法律論叢六九卷二號

一九九六年 一〇月

“Inside the hidden hell of Japan's prisons” TIME

一九九六年 一〇月

「『麻原を死刑に』という大合唱のいまこそ死刑廢止論にこだわる」『日本の論点』

一九九六年 一〇月

「矯正裁判例の検討（１６）——戒護」判例時報一五七六號

一九九六年 一〇月

「被害者補償の問題点」NCCD六號

一九九六年 一〇月

「矯正裁判例の検討（１７）——保健（頭髮、入浴、運動）と医療措置」判例時報一五七九號

一九九七年 一月

「確定裁判が実刑判決の場合におけるいわゆる余罪について刑の執行を猶予することの可否（最新判例批評８）」判例時報一五八二號

一九九七年 二月

「矯正裁判例の検討（１８）——刑務官の職務上の注意義務」判例時報一五八五號

一九九七年 二月

「犯罪被害者救済の問題状況」法律論叢六九卷三・四・五合併號

一九九七年 三月

「矯正裁判例の検討（１９）——刑務作業」判例時報一五八八號

一九九七年 三月

“The legal rights of prisoners in Japan” Meiji Law Journal 4

一九九七年 四月

「矯正裁判例の検討（２０）——糧食・喫煙」判例時報一五九一號

一九九七年 四月
 一九九七年 五月
 一九九七年 五月
 一九九七年 六月
 一九九七年 八月
 一九九七年 一月
 一九九七年 二月
 一九九七年 二月
 一九九七年 二月
 一九九七年 二月
 一九九八年 七月

「公務員の犯罪（刑法基本講座最終回）」季刊・経営と法律九三号
 「矯正裁判例の検討（21）」——刑務官の職務権限の範囲」判例時報一五九四号
 「宮崎勤の死刑判決と終身刑」NCCD八号
 「矯正裁判例の検討（22完）」——代用監獄の法的性質」判例時報一五九七号
 「神戸男児殺害事件をめぐって」NCCD九号
 「カンザス州矯正局受刑者規則——一九九四年六月発行（資料）」法律論叢七〇巻二号
 「生徒の万引きの告発」学校の法律常識第四卷
 「性非行に対する指導」学校の法律常識第四卷
 「青少年保護育成条例」学校の法律常識第四卷
 「神戸連続児童殺傷事件と永山の処刑」NCCD一〇号
 「児童自立支援施設」教職研修総合特集
 「少年審判非公開の原則」教職研修総合特集
 「審判に付すべき少年」教職研修総合特集
 「少年事件の処理」教職研修総合特集
 「少年院在院生徒の卒業証書」教職研修総合特集
 「死刑廃止先進国における死刑代替刑について（1）」（共著）NCCD一一号
 「無期懲役・終身刑・死刑，そして」NCCD一一号
 「国際化における受刑者の人権」NCCD一二号

- 一九九八年 七月 「死刑廃止先進国における死刑代替刑について(2)」(共著) NCCD一二号
- 一九九八年 九月 「(資料) 連邦矯正施設、ファートン在監者情報ハンドブック」(翻訳) 法律論叢七一卷
一号
- 一九九八年 一月 「死刑廃止先進国における死刑代替刑について(3)」(共著) NCCD一三号
- 一九九八年 一月 「アメリカの終身刑」 NCCD一三三号
- 一九九八年 一月 「国連人権委員会の死刑に関する審査——第四回規約委員会を傍聴して」 NCCD一三
号
- 一九九九年 二月 「日本の死刑状況と政府報告書審議——第四回規約人権委員会を傍聴して」 法律時報七
一卷二二号
- 一九九九年 三月 「児童自立支援施設について」 NCCD一四号
- 一九九九年 四月 「児童・生徒に対する体罰の禁止」 教職研修総合特集一三七号
- 一九九九年 六月 「死刑廃止に動きだした宗教界」 NCCD一五号
- 一九九九年 七月 「ペンシルバニア州矯正局受刑者ハンドブック(前半) (Commonwealth of
Pennsylvania, Department of Corrections, Inmate Handbook) (資料)」(監訳) 法
律論叢七二巻一号
- 一九九九年 一〇月 「受刑者の人権と法的地位に関する研究(個人研究)」 明治大学社会科学研究所紀要三
八巻一号
- 一九九九年 一月 「死刑廃止先進国における死刑代替制について(4)」(共著) NCCD一六号

一九九九年一二月

「ペンシルバニア州矯正局受刑者ハンドブック（後半）（Commonwealth of Pennsylvania, Department of Corrections, Inmate Handbook）〈資料〉」（監訳）法律論叢七二巻四号

一九九九年一二月

「犯罪被害者の側から死刑を考える」部落解放四六二号

二〇〇〇年三月

“Capital punishment in Japan and international code” Meiji Law Journal 7

二〇〇〇年三月

「韓国の死刑囚教誨師と面談して」NCCD一七号

二〇〇〇年三月

「ベネトン・グループの死刑廃止広告」NCCD一七号

二〇〇〇年四月

「特別寄稿『人間の尊厳の尊重について』」法学会会誌五〇号

二〇〇〇年六月

「長期受刑者の処遇と死刑の代替制」NCCD一八号

二〇〇〇年六月

「ストーカー規制法の問題点」NCCD一八号

二〇〇〇年七月

「校内暴力への対応（学校運営トラブルへの対応）」教職研修総合特集

二〇〇〇年七月

「『いじめ』被害に対する学校の責任（学校運営トラブルへの対応）」教職研修総合特集

二〇〇〇年九月

「死刑に代替する終身刑について——アメリカでの現状を踏まえて」法律時報七二巻一〇号

二〇〇〇年一〇月

「非行少年の司法政策および処遇に関する総合的検討（特別研究）」明治大学社会科学研究所紀要三九巻一号

二〇〇〇年一〇月

「アメリカの死刑状況——ニューヨーク・タイムズから」NCCD一九号

二〇〇一年二月

「長期受刑者の諸問題」法律論叢七三巻四・五合併号

二〇〇一年 三月

「死刑に代替する終身刑について——アメリカでの経験を踏まえて」『年報死刑廃止・終身刑を考える』

二〇〇二年 五月

「第一回世界死刑廃止大会——ストラスバーク」NCCD二二号

二〇〇二年 五月

「死刑廃止運動と終身刑——武田和夫氏に聞く」NCCD二二号

二〇〇二年 五月

「第一回死刑廃止世界会議」NCCD二二号

二〇〇二年 六月

「刑務所そして社会復帰へ」アエラムック『犯罪学がわかる』

二〇〇二年 八月

「アジアにおける死刑廃止について」NCCD二〇号

二〇〇二年 九月

「第二回世界死刑廃止会議の日本での可能性」NCCD二二号

二〇〇二年 九月

「少年事件 最新生徒指導の法律知識」教職研修

二〇〇二年 九月

「触法少年 最新生徒指導の法律知識」教職研修

二〇〇二年 十二月

「韓国の死刑廃止特別法案をめぐって（特集 第二回アジア死刑廃止フォーラム）」NCCD二三号

NCCD二三号

二〇〇二年 十二月

「テロと戦争と犯罪」NCCD二三号

二〇〇二年

“First World Congress Against the Death Penalty” Meiji Law Journal 9

二〇〇二年 一月

「受刑者」『国際化のなかの人権問題（第三版）』

二〇〇二年 三月

「第一回世界死刑廃止会議に参加して」NCCD二四号

二〇〇二年 三月

「ヨーロッパ評議会議員の来日——司法人権セミナーの開催」NCCD二四号

二〇〇二年 三月

「中華人民共和国における少年司法処理（1）」（共著）NCCD二四号

二〇〇二年 七月

「児童自立支援施設」最新教育法規

二〇〇二年 七月

「少年法改正のポイント」最新教育法規

二〇〇二年 七月

「中華人民共和国における少年司法処理(2)」(共著) NCCD二五号

二〇〇二年 〇月

「改正少年法」教職研修総合特集

二〇〇二年 〇月

「死刑囚・拘留所生活の実態(資料)」法律論叢第七五卷一号

二〇〇二年 一月

「確定死刑囚の分析」『三原憲三先生古希祝賀論文集』

二〇〇二年 二月

「少年の修復的正義『犯罪被害とその修復』『西村春夫先生古希祝賀論集』

二〇〇二年 二月

「死刑廃止に向けて今、NGOが問われている」NCCD二六号

二〇〇二年 二月

「日本の刑務所政策に異議アリ——無能な刑務所政策が犯罪の再生工場になっている」NCCD二六号

二〇〇三年 三月

「動きだした死刑廃止とNCCD——一〇〇号記念号に寄せて」NCCD二七号

二〇〇三年 八月

『行刑改革について』鴨下守孝氏に聞く」NCCD第二八号

二〇〇三年 八月

「行刑改革会議と死刑執行停止」NCCD第二八号

二〇〇三年 一〇月

「犯罪容疑者の逮捕後における扱い」日本医事新報一〇月四日号

二〇〇三年 一月

「高齢犯罪者の刑務所収容」日本医事新報一月一五日号

二〇〇三年 一月

「加害者を死刑にしても遺族は癒されない。仮釈放のない終身刑を導入せよ」『日本の

論点(二〇〇四)』

二〇〇三年 二月

「世界の死刑制度と日本の現況」日本医事新報二月一三日号

二〇〇三年十二月 「行刑改革會議の成果と今後の課題」 NCCD第二九号

二〇〇四年一月 「刑罰の原則と加害者死亡等に対する対応」 日本医事新報一月二四日号

二〇〇四年三月 「受刑者の法的地位——最近の矯正裁判例から」 法律論叢七六卷四・五合併号

二〇〇四年四月 「『死刑臨調設置法案』(死刑廃止を推進する議員連盟)に関する衆参両院議員へのアンケート結果について」 NCCD三〇号

二〇〇四年四月 「有期刑上限の引き上げ(刑法改正)」 NCCD三〇号

二〇〇四年六月 「『行刑改革會議』の提言と死刑」 監獄人權センター通信三七号

二〇〇四年八月 「児童買春の禁止」 教育改革関連法理百科

二〇〇四年八月 「対談 行刑改革會議の成果と今後の刑務所(菊田・海渡)」 NCCD三一号

二〇〇四年九月 「生徒の非行防止と警察との協力」 児童・生徒問題対応百科

二〇〇四年十二月 「ピーター・ホッジキンソン(編著)『死刑——改善か、それとも廃止か』(翻訳) NCCD三二号

三 書評・批評等

一九六二年 七月 グリュック夫婦著『犯罪と非行の予測』(紹介) 明治大学法制研究所紀要六号
一九六六年 六月 H・ジョーンズ著 西村克彦訳『犯罪の条件』(紹介) 法律のひろば一九卷六号

一九六六年 七月 アラン・バーズ著 児島武雄監訳・刑事読書会訳『市民の自由と警察権力』（紹介）法律のひろば一九巻七号

一九六七年 二月 宮澤浩一著『被害者学の基礎理論』（書評）法律のひろば二〇巻二号

一九六八年 三月 宮澤浩一編『世界諸邦 少年法制の動向』（紹介）法律のひろば二二巻三号

一九六八年 三月 齊藤静敬著『死刑再考論』（紹介）法律のひろば二二巻三号

一九六九年 二月 グリニツク著『*Delinquents and Nondelinquents in Perspective*』（紹介）アメリカ法一九六九年二号

一九六九年 三月 澤登俊雄他編『展望少年法』（紹介）法律のひろば二二巻三号

一九六九年 一月 中谷謹子「女子犯罪と量刑」法学研究四一卷六号（批評）法律時報四一卷一三号

一九七〇年 二月 前田俊郎「量刑の不满に関する先行指標」上智法学論集一一巻二・三号（批評）法律時報四二巻二号

一九七〇年 二月 宮崎昇訳『ソビエト犯罪学序説』（紹介）法律のひろば二三巻一二号

一九七一年 二月 矯正協会編『矯正論集』（批評）法律時報四三巻二号

一九七一年 一月 宮澤浩一「精神障害者に対する刑事処分について」法学研究四三巻三号（批評）法律時報四三巻一四号

一九七二年 二月 小川・柏熊編『犯罪防止のための地域診断』（批評）法律時報四四巻二号

一九七二年 四月 柳本正春「矯正施設の社会的機能」刑政八二巻七号（批評）法律時報四四巻四号

一九七二年 八月 森本益之「受刑者の開放処遇」島大法学一六号（批評）法律時報四四巻一〇号

- 一九七三年 四月 柳本正春著『英米における犯罪者処遇』(批評) 法律時報四五卷四号
- 一九七四年 三月 シュトルプ著 小沢禧一訳『異常犯罪の者の社会復帰』(紹介) 法律のひろば二七卷三号
- 一九七四年 四月 星野周弘「行動科学としての犯罪学の実用性」警察学論集二六卷二号(批評) 法律時報四九卷四号
- 一九七五年 一月 小林充「少年に対する不定期刑の言渡し基準について」家裁月報二五卷一二号(批評) 法律時報四七卷一号
- 一九七五年 七月 金沢文雄「自然法と死刑」広島大政経論叢二三卷六号(批評) 法律時報四七卷七号
- 一九七八年 九月 吉岡一男「刑罰の犯罪処理機能」澤登俊雄「行刑の目的と国家の処遇権」(批評) 法律時報五〇卷九号
- 一九七九年 五月 伊福部『社会変動と犯罪統制』犯罪社会学研究一号(批評) 法律時報五一卷五号
- 一九七九年 一月 西村春夫「伝統主義態度と刑事政策観」犯罪社会学研究三号(批評) 法律時報五一卷二二号
- 一九八〇年 九月 吉岡一男著『刑事学』(紹介) 法律時報五二卷九号
- 一九八一年 五月 横山実「犯罪理論としてのラベリング論」犯罪社会学研究三号(批評) 法律時報五三卷五号
- 一九八二年 六月 阿部・澤登他著『刑事政策入門』(紹介) 法学セミナー二六卷六号
- 一九八三年 六月 瀬川晃「仮釈放と社会内処遇体制(一)(二)(三)——イギリスにおけるパロールを素材とし

て」同志社法学一六六、一七一、一七二号（一九八一〜八二年）（批評）法律時報五五卷六号

一九八四年 二月 森武夫「日本の女性犯罪——危機理論からのアプローチ」『刑事法の諸問題二』専修大学法学部研究所紀要八号、一九八三年（批評）法律時報五六卷三三三

一九八四年 二月 森武夫『犯罪における日本の特質において』（批評）法律時報五六卷三三三

一九八四年 三月 森武夫『日本の女性犯罪』専修大学法学部紀要八号（批評）法律時報五六卷三三三

一九八八年 八月 前野育三著『刑事政策論』（紹介）法学セミナー三三三卷八号

一九九〇年 九月 『平成元年犯罪白書』（書評）犯罪社会学研究一五号

一九九一年 四月 ロジャー・フット著（辻本義男訳）『世界の死刑』（紹介）法学セミナー三六卷四号

一九九一年 二月 団藤重光著『死刑廃止論』（紹介）エコノミスト六九卷五一号

一九九二年 二月 鴨下守孝著『新行刑法要論』（紹介）JCCD六〇号

一九九二年 二月 団藤重光著『死刑廃止論』（紹介）JCCD六〇号

一九九二年 三月 鴨下守孝著『新行刑法要論』（紹介）法学セミナー三七卷三三三

一九九二年 三月 団藤重光著『死刑廃止論』（紹介）潮三月号

一九九二年 八月 池田浩士著『死刑の昭和史』（書評）JCCD六二二

一九九四年 一月 辻本義男・辻本衣佐編著『アジアの死刑』（書評）考える葦創刊号（中央学院）

一九九五年 一月 潮谷総一郎著『死刑囚34年：不屈の男・免田栄の歳月』（紹介）産経新聞一九九五年

一月五日

- 一九九六年 二月 ロベール・バダンテール著 藤田真利子訳『死刑執行』（紹介）公明新聞
 一九九六年 二月 ロベール・バダンテール著 藤田真利子訳『死刑執行』（紹介）潮
 一九九六年 四月 免田栄著『死刑囚の告白』（書評）NCCD四号
 一九九六年 四月 西野勝久ほか著『俺たちの少年期』（書評）NCCD四号
 一九九六年 四月 村井敏邦監訳『刑事施設と国際人権』（書評）NCCD四号
 一九九六年 四月 北村泰三著『国際人権と刑事拘禁』（書評）NCCD四号
 一九九六年 七月 刑事立法研究会編『監獄改革』（書評）NCCD五号
 一九九六年 七月 矢島正見著『少年非行文化論』（書評）NCCD五号
 一九九六年 七月 マルタン・モネステイエ著 吉田春美・大塚宏子訳『図説死刑全書』（書評）NC
 CD五号
 一九九六年 七月 島田荘司著『死刑囚・秋好英明との書簡集』（書評）NCCD五号
 一九九六年 一月 森武夫著『かれらはなぜ犯罪を犯したか』（書評）NCCD六号
 一九九六年 一月 林則清著『組織暴力の一断面』（書評）NCCD六号
 一九九六年 一月 宗岡嗣郎著『法と実存——反死刑の理論』（書評）NCCD六号
 一九九六年 一月 来栖宥子著『113号事件 勝田清孝の真実』（書評）NCCD六号
 一九九七年 三月 中山千夏著『ヒットラーでも死刑にしないの？』（書評）NCCD七号
 一九九七年 三月 石塚伸一著『刑事政策のパラダイム転換』（書評）NCCD七号
 一九九七年 三月 伊藤信吉著『監獄裏の詩人たち』（書評）NCCD七号

- 一九九七年 三月 渡辺則芳著『アメリカ少年司法の再生』(書評) NCCD七号
- 一九九七年 三月 S・トロンブル著 藤田真利子訳『死刑産業』(書評) NCCD八号
- 一九九七年 三月 倉田哲治著『倉田弁護士事件簿』(書評) NCCD八号
- 一九九七年 三月 原祐司著『殺されるために生きるということ』(書評) NCCD八号
- 一九九七年 八月 岩井宜子著『精神障害者福祉と司法』(書評) NCCD九号
- 一九九七年 八月 『年報死刑廃止97——死刑存置と廃止の出会い』(書評) NCCD九号
- 一九九七年 一月 坂本敏夫著『刑務所——元刑務官が語る』(書評) NCCD一〇号
- 一九九七年 一月 鮎川潤『犯罪学入門——殺人・賄賂・非行』(書評) NCCD一〇号
- 一九九八年 三月 後藤弘子編『少年犯罪と少年法』(書評) NCCD一一号
- 一九九八年 三月 大道寺将司著『死刑確定中』(書評) NCCD一一号
- 一九九八年 三月 飯室勝彦ほか編『報道される側の人権』(書評) NCCD一一号
- 一九九八年 三月 ノーマン・メイラー著 岡枝慎二訳『死刑執行人の歌』(書評) NCCD一一号
- 一九九九年 三月 津田玄児著『少年法と子どもの人権』(書評) NCCD一四号
- 一九九九年 三月 野口善国著『それでも少年を罰しますか』(書評) NCCD一四号
- 一九九九年 三月 坂上香著『癒しと和解への旅』(書評) NCCD一四号
- 一九九九年 四月 坂上香著『癒しと和解への旅』(新刊紹介) 公明新聞四月二一日
- 一九九九年 五月 坂上香著『癒しと和解への旅』(新刊紹介) 第三文明
- 一九九九年 六月 諸澤英道著『トラウマから回復するために』(書評) NCCD一五号

- 一九九九年 六月 大谷恭子著『死刑事事件弁護人——永山とともに』（書評）NCCD一五号
- 一九九九年 六月 島田莊司・錦織淳著『死刑の遺伝子』（書評）NCCD一五号
- 一九九九年 六月 西日本新聞社会部「犯罪被害者」取材班著『犯罪被害者の人権を考える』（書評）NCCD一五号
- 一九九九年 六月 西山明著『少年漂流記』（書評）NCCD一五号
- 一九九九年 六月 八塩弘二著『少年保護事件と少年法』（書評）NCCD一五号
- 一九九九年 六月 佐々木護・石附敦著『「非行」が語る親子関係』（書評）NCCD一五号
- 一九九九年 六月 田中道代著『アメリカの日本人政治犯』（書評）NCCD一五号
- 二〇〇〇年一〇月 黒沼克史著『少年法を問い直す』（書評）NCCD一九号
- 二〇〇〇年一〇月 青木信人著『子どもたちと犯罪』（書評）NCCD一九号
- 二〇〇一年 五月 ムミア・アブ・ジャマル著 今井恭平訳『死の影の谷間から』（書評）NCCD二一号
- 二〇〇一年 五月 『年報死刑廃止2000—2001 終身刑を考える』（書評）NCCD二一号
- 二〇〇一年 九月 木下信男著『裁判官の犯罪「冤罪」』（書評）NCCD二二号
- 二〇〇二年 七月 ロベール・バダンテール著 藤田真利子訳『そして死刑は廃止された』（書評）NCCD二五号
- 二〇〇三年 八月 北澤信次著『犯罪者処遇の展開——保護観察を焦点として』（書評）NCCD二八号
- 二〇〇三年 九月 刑事立法研究会編『二一世紀刑事施設』（書評）赤旗二〇〇三年九月一日

四 新聞発表・雑誌記事・コメント等

- 一九八四年二月 「『かい人二面相』の社会学」朝日ジャーナル二六卷四七号
- 一九八五年二月 「死刑問題に関する国会議員の意識（アンケート）」法学セミナー三〇卷一二号
- 一九八五年二月 「死刑廃止フォーラムの課題と展望」フォーラム90三四号
- 一九八六年六月 「死刑廃止を考える」東弁、第一、第二講演集
- 一九八七年二月 「現代社会の陥穽『現代に死刑は必要であるか』」明治大学社会科学研究所公開講演集
- 一九八八年八月 「『インタビュー』今月の人 菊田幸一氏に聞く」法学セミナー三三卷八号
- 一九八八年一〇月 「死刑廃止運動と被害者感情」死刑執行停止会議ニュースレター二号
- 一九八九年一月 「政令恩赦に国民的論議を——近代法治国家ではいまや無用（論壇）」朝日新聞一九八九年一月一九日
- 一九八九年二月 「死刑廃止運動と被害者感情」死刑停止会議ニュースレター三号
- 一九九〇年三月 「韓国で始まった死刑廃止運動」死刑執行停止会議ニュースレター五号
- 一九九〇年六月 「永山判決にみる日本の三審制度の虚構」死刑執行停止会議ニュースレター六号
- 一九九〇年九月 「アメリカの死刑状況とニューヨークの現状」死刑執行停止会議ニュースレター七号

- 一九九〇年十二月 「死刑停止会議への展望」 死刑執行停止会議ニュースレター八号
- 一九九一年四月 「死刑事件担当弁護士に聞く」(共著) JCCD五六号
- 一九九一年四月 「台湾における死刑の状況」 死刑執行停止会議ニュースレター九号
- 一九九一年六月 「追悼・中尾文策氏」 JCCD五七号
- 一九九一年七月 「死刑廃止に向けて国民的論議を望む」(論点) 朝日新聞一九九一年七月九日
- 一九九一年十二月 「死刑執行停止の実現を」(論壇) 朝日新聞一九九一年十二月一九日
- 一九九二年三月 「まず死刑執行停止を」 草の根通信二二二号
- 一九九二年三月 「追悼・中尾文策」『中尾文策追想録』(矯正協会)
- 一九九二年五月 「日方ヒロコさんに聞く」(共著) JCCD六一号
- 一九九二年五月 「私の死刑廃止論」 死刑廃止の会一四五号
- 一九九二年七月 「追悼・小林高記先生」 小林高記著作集
- 一九九二年七月 「国会議員へのアンケート調査結果(第二次)」フォーラム90一一号
- 一九九二年七月 「論壇 共に生きること」 明治大学広報三三一号
- 一九九二年八月 「国際人権規約と日本の立場」 死刑執行停止会議ニュースレター一一号
- 一九九二年八月 「西村克彦氏の逝去を悼む」 JCCD六二号
- 一九九二年八月 「死刑制度について——団藤重光先生に聞く」(共著) JCCD六二号
- 一九九二年九月 「死刑条項へのカウンター・レポート——人権規約(B規約)への報告に対して(随想)」
ジュリスト一〇〇七号

一九九二年二月

「死刑について——志賀節先生に聞く」JCCD六三号

一九九二年二月

「後藤田新法相に望むこと（論壇）」朝日新聞二月二二日

一九九三年二月

「死刑廃止は被害者とともに——犯罪被害者補償の改正を」死刑執行停止会議ニュース
レター一一二号

一九九三年二月

「犯罪被害者制度について」四国フォーラム92報告集

一九九三年二月

「死刑に関する二、三の世論調査について」フォーラム90一六号

一九九三年四月

「死刑制度の是非、国会論議を期待」社会新報三五八一号

一九九三年四月

「いま、なぜ死刑執行か」時事教養六八二号

一九九三年五月

「死刑の執行と現行法」図書新聞二二四九号

一九九三年六月

「死刑廃止を急ごう」死刑廃止女性の会ニュース

一九九三年一〇月

「死刑廃止を求める刑事法研究者意見集（特別企画 死刑廃止を考える）」法学セ
ミナー三八卷一〇号

一九九三年一月

「人権規約遵守状況の審議——第四九回国連人権委員会を傍聴して」フォーラム9
0二二二号

一九九三年一月

「後藤田法相の死刑執行は何の合理的根拠もない蛮行である」文芸春秋編『日本の論点
90』

一九九三年二月

「死刑廃止を考える」創価新報

一九九三年二月

「法律家をたずねて・インタビュー」受験新報四三卷一二号

一九九四年 一月
 一九九四年 二月
 一九九四年 七月
 一九九四年 一月
 一九九四年 二月
 一九九六年 六月
 一九九六年 六月
 一九九六年 六月
 一九九六年 八月
 一九九六年 九月
 一九九六年 二月
 一九九七年 二月
 一九九七年 三月
 一九九七年 四月
 一九九七年 四月

「死刑とともに『生きる』こと」中外日報一月一日号

「生命の尊厳の認識を」中外日報二月一五日号

「(対談) 死刑廃止への展望」JCCD六九号

「三浦被告『無期懲役』は警察・検察の『威信』に迎合した不当な判決である」文芸春秋編『日本の論点94』

「憲法の原点から『命と人権を考える』」かあちゃん、ここが地球のおへソだよ

「死刑廃止を考える」創価新報

「ラストダンス」死刑制度のもつ全ての問題を提起している」スタジオジャンプ

「死刑廃止と三本の映画」シネ・フロント二二巻六号

「日本とアメリカの刑務所状況(上)(下)」琉球新聞

「『つねに考え、疑念を抱きながら生きた裁判官』映画・宣告アミックス

「名古屋から届いた二通の手紙——死刑囚・木村修治」大きな手の中で(最終号)

「『デッドマン・ウォーキング』を観る」公明月報三八二号

「犯罪被害者救済の論点」フォーラム90三九号

「二・一シンポジウムに寄せて」フォーラム・シンポ

「畏友辻本義男氏を悼む(特集 辻本義男先生追悼)」NCCD七号

「検証・プリズナーの世界」——本贈呈に際して」CPRニュース一四号

「ステイヴン・トロンブレ著 藤田真利子訳『死刑産業』すべての人間を不幸にする

死刑（書評）「インパクション」二〇二号

一九九七年	五月
一九九七年	六月
一九九七年	六月
一九九七年	七月
一九九七年	七月
一九九七年	八月
一九九七年	八月
一九九七年	八月
一九九七年	八月
一九九七年	九月
一九九七年	一〇月
一九九七年	二月
一九九八年	三月
一九九八年	三月
一九九八年	四月
一九九八年	六月

「被害者支援と死刑廃止」週刊金曜日八五号

「犯罪被害者の心のケアと援助」ふみん（婦人民主新聞）二四九一号

「死刑・いまなにが問われているのか（座談会）」年報死刑廃止97

「品なき権力者——ペルー人質事件に思う」ふみん（婦人民主新聞）二四九二号

「ヨーロッパ拷問展の意義」明大学園だより二六二号

「対談」死刑問題を考える（1）「NCCD九号

「特集『うそについて』」ダ・ヴィンチ八月号

「通り魔事件と犯罪被害者」週刊SPA八月二七号

「死刑問題を考える（1）」〈対談〉渥美東洋・菊田幸一・橋本裕藏「NCCD九号

「被害者支援と死刑廃止」社会新報九月一七号

「神戸事件について」早稲田大学新聞

「死刑問題を考える（2）」〈対談〉渥美東洋・菊田幸一・橋本裕藏「NCCD一〇号

「最近の二つの事件から死刑を考える——テロ事件、宮崎事件」フォーラム90ニュー
ス

「死刑制度と受刑者の人権（平成9年度 法学部講演会）」札幌法学九卷二号

「永山則夫の死刑と神戸・児童殺傷事件から人権を考える」東京青年（YMC A）

「丸山友岐子さんさようなら」丸山友岐子追悼文集

一九九八年 八月

『だれもしらない『少年院生活』』 スコラ

一九九八年 九月

『死刑を執行しつづける法務官僚と法相の保身』 第三文明

一九九八年 九月

『永山の処刑を超えて』 フォーラム90四三号

一九九八年 二月

『国際法違反の死刑を考える——政府による執行新たに三名』 (新聞発表) 朝日新聞

二月九日

一九九八年 二月

『安田弁護士逮捕について』 (記者会見) 司法記者クラブ

一九九九年

『アメリカのネオ・ナチと犯罪状況』 映画 アメリカン・ヒストリーX (映画解説)

一九九九年

『安田弁護士逮捕と死刑廃止運動』 死刑廃止フォーラムニュース

一九九九年

『安田弁護士逮捕』 (コメント) 週刊金曜日

一九九九年 三月

『安田弁護士逮捕の意味するもの (評論)』 NCCD一四号

一九九九年 四月

『インタビュー』 死刑問題』 共同通信社

一九九九年 六月

『死刑廃止に動きだした宗教界 (評論)』 NCCD一五号

一九九九年 六月

『(インタビュー) 犯罪被害者の人権を考える』 西日本新聞社

一九九九年 六月

『死刑廃止論者・倉田哲治が残した宿題』 倉田弁護士を偲ぶ記

一九九九年 六月

『心を癒す刑事司法を (対談)』 週刊金曜日

一九九九年 六月

『犯罪者支援のあり方 (対談)』 NCCD一五号

一九九九年 七月

『死刑執行停止し終身刑導入を (論壇)』 朝日新聞七月二八日

一九九九年 一月

『(対談) 被害者支援のあり方 菊田幸一・対馬滋』 NCCD一六号

- 一九九九年十二月
「日本における死刑廃止への問題状況」アムネスティ・ニュースレター三二二
- 一九九九年二月
「死刑執行抗議」(記者会見) 司法記者クラブ
- 二〇〇〇年三月
「ヘインタビュ」生命尊重の時代は『死刑』廃止からはじまる」第三文明
- 二〇〇〇年四月
「アメリカにおける死刑制度と終身刑——代替刑論議に向けて」フォーラム90 ニュース56号
- 二〇〇〇年四月
「母子殺害事件の無期懲役判決」週刊SPA四月五日号
- 二〇〇〇年五月
「癒されぬ被害者」日本経済新聞五月五日
- 二〇〇〇年五月
「少年法における加害者と被害者——今、憲法の視点から考える」図書新聞五月一二日号
- 二〇〇〇年五月
「終身刑導入について」公明新聞五月二七日
- 二〇〇〇年五月
「死刑代替に『終身刑』提唱」(講演記録) 下都新聞五月三一日
- 二〇〇〇年六月
「シンポジウム『死刑制度と私』(シンポジウム記録書・閉ざされたいのちの前に)」真宗大谷派宗務所
- 二〇〇〇年六月
「主犯格も少年院送致——名古屋の恐喝家裁審判」日本経済新聞六月九日
- 二〇〇〇年六月
「日本の死刑廃止運動の状況」ロサンゼルス・タイムズ六月一八日
- 二〇〇〇年六月
「『死刑』廃止への軟着陸をめざす道」愛媛新聞六月九日
- 二〇〇〇年六月
「ザ・激論——交通犯の量刑」テレビ朝日六月二七日
- 二〇〇〇年六月
「無期懲役判決をめぐる理不尽な厳しさ」週刊SPA六月二八日号

- 二〇〇〇年 八月 「一五歳少年事件」(コメント) 読売新聞八月一四日
- 二〇〇〇年 九月 「少年の顔写真インターネットによる掲載について」 読売新聞(関西) 九月六日
- 二〇〇〇年 九月 「集団暴行損害賠償訴訟」 共同通信社九月一四日
- 二〇〇〇年一〇月 「復活した死刑、わが身に及ぶ——名画日本史、第一巻」朝日新聞日曜版
- 二〇〇〇年十一月 「終身刑について」フジテレビ十一月二四日
- 二〇〇〇年十一月 「犯罪と刑罰のバランスは、どう決まるか」週刊SPA十一月二九日号
- 二〇〇〇年十一月 「死刑執行抗議」司法記者クラブ十一月三〇日
- 二〇〇〇年十二月 「いま、なぜ終身刑か」フォーラム90ニュース59号
- 二〇〇〇年十二月 「死刑」『部落問題・人権事典』
- 二〇〇〇年十二月 「(インタビュ) 日本の死刑」ワシントンポスト十二月一九日
- 二〇〇〇年十二月 「映画『バトル・ロワイアル』暴力表現論争」(コメント) 週刊現代十二月二三日
- 二〇〇〇年十二月 「死刑執行について」(談話) 中日新聞十二月二日
- 二〇〇一年 「死刑問題を考える」(対談) 放送大学
- 二〇〇一年 二月 「運転手殺しの少年犯特別少年院収容判決」(コメント) 読売新聞(関西) 二月一三日
- 二〇〇一年 二月 「レイプされた女性を殺害した男に死刑判決(東京高裁)」(コメント) 読売新聞二月二八日
- 二〇〇一年 二月 「凶悪犯罪の『異常度』を考える」週刊SPA二月二一日号
- 二〇〇一年 二月 「与党三党終身刑プロジェクト」(参考人陳述) 参議院二月六日

二〇〇一年 三月 「終身刑導入は死刑廃止への近道か」(共著)『年報・死刑廃止 終身刑を考える』

二〇〇一年 四月 「小学生が母親殺人」読売新聞(大阪) 四月一六日

二〇〇一年 五月 「一五歳少年——少年院送致」びわこ放送五月一七日

二〇〇一年 五月 「アメリカの死刑」東京新聞五月一七日

二〇〇一年 七月 「連載(全三一回)世界」公明新聞七月〜九月

二〇〇一年 七月 「犯罪とは何か(インタビュ)」週刊プレイボーイ七月三日号

二〇〇一年 七月 「少年事件判決」毎日新聞(名古屋) 七月九日

二〇〇一年 七月 「少年事件判決」読売新聞七月九日

二〇〇一年 七月 「日本人は知っておいた方がよい世界の潮流(第一回世界廃止会議)」週刊金曜日

七月一三日号

二〇〇一年 九月 「実録!『ムショ行き』自由を束縛する刑罰」別冊宝島〇二二

二〇〇一年 一〇月 「飯塚女児殺害事件」朝日新聞(福岡版) 一〇月一日

二〇〇一年 一〇月 「少年非行」朝日新聞一〇月一二日

二〇〇一年 一〇月 「テロと戦争と死刑」共同通信一一月一五日

二〇〇一年 一〇月 「死刑執行抗議」(記者会見)司法記者クラブ一二月二七日

二〇〇二年 三月 「終身刑について——アメリカの経験から」フォーラムニユース二六号

二〇〇二年 三月 「光市母子殺人事件控訴判決」(コメント)山口放送三月一四日

二〇〇二年 三月 「光市母子殺人事件控訴判決」(コメント)毎日放送(西日本) 三月一四日

二〇〇二年 三月
 二〇〇二年 三月
 二〇〇二年 三月
 二〇〇二年 七月
 二〇〇二年 八月
 二〇〇二年 八月
 二〇〇二年 十月
 二〇〇二年 十月
 二〇〇二年 二月
 二〇〇二年 二月
 二〇〇二年 二月
 二〇〇二年 二月
 二〇〇二年 三月
 二〇〇二年 三月
 二〇〇二年 三月
 二〇〇二年 三月

「光市母子殺人事件控訴判決」(コメント) 朝日新聞(山口) 三月一四日

「高速度路少女遺棄事件」朝日新聞(神戸) 三月二五日

「日本の死刑」(インタビュー) 西ドイツ新聞三月四日

「世界の中の日本の死刑(座談会)」『年報死刑廃止二〇〇二』

「日本の死刑制度存廃論」(コメント) 朝日新聞八月二八日

「命で罪を償えるものなのか(私の視点)」朝日新聞八月二八日

「死刑廃止論を追う」(インタビュー) 読売新聞一〇月八日

「犯罪者になった時、被害者になった時」リバティーアカデミー公開大学(講演)

治大学

「(対談) 日本の刑務所政策に異議あり 高木淳也・菊田幸一」NCCD二六号

「(対談) 日本の刑務所政策に異議あり 高木淳也・菊田幸一」アウトロー・ジャ

パン二〇〇二年四号

「死刑論議活発化の兆し」(コメント) 朝日新聞一月二一日

「How Long must be guilty wait to hang?」The Japan Times 二月一日

「法務省管轄刑務所の人権侵害を暴く①」解放新聞三月

「死刑廃止運動の今 菊田幸一さんに聞く」朝日新聞三月二十日

「具体的情報の開示を——名古屋刑務所四名死亡事件」(コメント) 東京新聞三月十四

日

二〇〇三年	三月	『骨髓移植のドナー』——受刑者の自由どこまで』（コメント）朝日新聞三月一九日
二〇〇三年	四月	「法務省管轄刑務所の人権侵害を暴く②」解放新聞二〇〇三年四月
二〇〇三年	五月	「刑務所にみる前近代性」（コメント）AERA五月二五日号
二〇〇三年	五月	「名古屋刑務所放水死事件」（コメント）東京新聞五月一五日
二〇〇三年	五月	「人権擁護法案」（コメント）東京新聞五月一三日
二〇〇三年	五月	「刑務所暴行事件」（コメント）LE MONDE（国際面）五月一六日
二〇〇三年	五月	「新しい刑務所像確立を」（コメント）読売新聞五月一日（朝刊）
二〇〇三年	五月	「受刑者アンケート実施へ」（コメント）東京新聞五月二〇日
二〇〇三年	六月	『受刑者に人権を』と研究四〇年」赤旗六月二一日
二〇〇三年	六月	「宅間被告の死刑求刑」（コメント）朝日新聞（大阪）六月二七日
二〇〇三年	七月	「一二歳殺人事件」（コメント）読売新聞七月一〇日
二〇〇三年	七月	「一二歳殺人事件」（出演）フジテレビ七月一日
二〇〇三年	八月	「刑務官傷害事件」（コメント）共同通信八月四日
二〇〇三年	八月	「宅間被告の死刑判決」（コメント）スポーツ新聞八月二九日
二〇〇三年	十一月	「本公演から日本の今の刑務所を考える」三百人劇場パンフ
二〇〇三年	十一月	「生かされている」月刊健康（共同通信社）一一月号
二〇〇三年	十一月	「国際規準からみた日本の刑務所」赤旗（日曜版）一一月八日
二〇〇三年	十二月	「女子元受刑者に聞く」NCCD二九号

二〇〇三年二月

『来日外国人犯罪』張荊著（解説）明石出版

二〇〇三年二月

『死刑囚』（インタビュ）ダカーボ五二七号（二月三日号）

二〇〇四年二月

『重刑罰化について』（コメント）共同通信二月一日

二〇〇四年三月

『神戸児童連続殺傷事件』（コメント）Yomiuri Weekly 三月二十八日号

二〇〇四年三月

『中国の日本人への死刑』（コメント）週刊プレイボーイ三月九日号

二〇〇四年三月

『刑務所受刑者の物品購入』（コメント）共同通信三月一日

五 報告書（法務省行刑改革会議）

二〇〇三年五月

『行刑改革会議で論議すべきこと』法務大臣森山真弓宛

二〇〇三年五月

『受刑者及び刑務官に対するアンケートについての提案（１）（２）（３）』

二〇〇三年六月

『法制度の改正を待たずに実施できる緊急改革事項のリスト』

二〇〇三年六月

衆議院法務委員会「行刑改革会議の状況」衆議院法務委員長室

二〇〇三年一月

『海外視察結果報告書（イギリス）』（共同）

二〇〇三年一月

『海外視察結果報告書（フランス）』（共同）

二〇〇三年一月

『ウイチタ州立刑務所訪問（アメリカ）報告』（単独）

二〇〇三年一月

『行刑改革会議の動向』（報告）第一五回死刑廃止大会会宿（早稲田奉仕園）

六 講演

- 二〇〇〇年 二月 「死刑執行抗議——終身刑について」 明治大学会館 一二月二日
- 二〇〇一年 一月 「菊田クリミノロジ」賞授与式——女性犯罪について」お茶の水ビューレストラン 一月一四日
- 二〇〇一年 五月 「日本における受刑者処遇」監獄人權センター総会（早稲田奉仕園）五月二六日
- 二〇〇一年 六月 「日本の死刑廃止運動」イタリア国会議事堂内 六月一九日
- 二〇〇一年 六月 「日本における死刑（英語）」第一回死刑廃止国際会議総会（ストラスブール）六月二三日
- 二〇〇一年 六月 「第一回死刑廃止世界会議出發記者会見（日本派遣団長）」アムネスティ・インターナショナル日本支部 六月一六日
- 二〇〇一年 六月 「第一回死刑廃止国際会議に出席して」パリ（放送会館で記者会見）六月二四日
- 二〇〇一年 八月 「アジアにおける死刑廃止」韓国ソウル（ロッテホテル）八月二八日
- 二〇〇一年 八月 「アジアの死刑廃止」第二回死刑廃止アジア大会（韓国国会議事堂）八月二九日
- 二〇〇一年 一月 「明治大学公開講座」第一回 犯罪とは何か
- 二〇〇一年 一月 「明治大学公開講座」第二回 少年法改正は何をもたらしたか

二〇〇一年一月

「明治大学公開講座」第三回 終身刑と無期懲役

二〇〇一年一月

「明治大学公開講座」第四回 老人と累犯者で占める日本の刑務所

二〇〇一年一月

「第二回死刑廃止アジア大会」に出席して」報告会 一月三〇日

二〇〇一年一月

「明治大学公開講座」第五回 死刑は必要か——第一回死刑廃止国際会議に出席して

二〇〇一年二月

講演——テロと戦争犯罪」第二回アジア死刑廃止フォーラム

二〇〇二年一月

「菊田クリミノロジ」賞授与式」NHK青山荘 一月一四日

二〇〇二年一月

「第一回死刑廃止準備会議 (Discours de M.Kikuta du 24 janvier 2002)」ブリュッセル

日

二〇〇二年一月

「死刑執行抗議集会・ブリュッセル国際会議報告」市政会館 一月二八日

二〇〇二年三月

「死刑の代替性——終身刑を」名古屋弁護士会 三月十四日

二〇〇二年一月

「死刑に代替する終身刑」(講演) フォーラムシンポ(早稲田奉仕園) 一月二三

日

二〇〇三年四月

「法務省管轄刑務所内の人権侵害を暴く」(インタビュー) 四月一四日

二〇〇三年四月

「犯罪者になった時、被害者になった時」リバティアカデミー公開大学(講演) 第一

講 第八講 四月一〇日〜七月二四日

二〇〇三年五月

「死刑についてのセミナー」聖エジデイオ共同体主催・講演(主婦会館)

二〇〇三年五月

「参議院法務委員会 参考人(行刑改革会議委員として)」五月一三日

二〇〇三年五月

「衆議院法務委員会 参考人(行刑改革会議委員として)」五月一四日

二〇〇三年 五月

「死刑執行停止を推進する議員連盟の死刑執行停止法案を考える」日弁連主催・パネリ

スト（弁護士会館）五月二四日

二〇〇三年 六月

「日本の刑務所の今と将来」（講演）東京弁護士会（日弁連会館）六月二〇日

二〇〇三年 七月

「行刑の基本的理念・ビジョン」民主党法務委員会・勉強会（衆議院議員会館）七月一・三日

二〇〇三年 七月

「加害者と被害者」（講演）監獄人權センター主催（明治大学第一〇会議室）

二〇〇三年 八月

「監獄法について」（講義）第一回参議院法務委員会調査室 八月二六日

二〇〇三年 九月

「監獄法について」（講義）第二回参議院法務委員会調査室 九月二日

二〇〇三年 九月

「日本の刑務所」（講演）全国盲聾啞者大会（札幌）九月六日

二〇〇三年 九月

「拷問等禁止条約と日本の拘禁施設」（講演）東京・麻布台 九月二八日

二〇〇三年 九月

「刑務所改革の現状」（挨拶）日弁連シンポ 九月二九日

二〇〇三年 一月

「日本の死刑」（講演）青少年国際会議（青少年国際センター）十一月三日

二〇〇三年 一月

「死刑執行に終止符を！」（講演）市民集会（千代田公会堂）十一月二四日

二〇〇三年 二月

「民営刑務所について」（講義）UFJ銀行シンクタンク 二月一七日

菊田 幸一 教授 略歴

菊田 幸一 教授 略歴

一九三四年十二月二十五日生まれ

一九五三年 三月 滋賀県立長浜北高等学校卒業

一九五三年 四月 中央大学法学部法律学科入学

一九五七年 三月 同大学卒業

一九五九年 四月 明治大学大学院法学研究科修士課程入学

一九六一年 三月 同大学院修士課程修了

一九六一年 四月 明治大学大学院法学研究科博士課程入学

一九六二年 六月 法務省法務総合研究所研究官補

一九六三年 九月 カリフォルニア大学（バークレー）大学院犯罪学部留学のため渡航

一九六四年 九月 世界二三か国の矯正施設を訪問して帰国（約二か月）

一九六四年 三月 明治大学大学院法学研究科博士課程単位取得

一九六四年 五月 ネブラスカ少年の町名誉町民

一九六六年 三月 法学博士（明治大学）学位取得

一九六七年 三月 法務省退職

一九六七年 四月 明治大学法学部専任講師（刑事政策担当）

一九七〇年 四月 同大学法学部助教授

一九七〇年 四月 国立武蔵野学院教護職員養成所講師（刑事学）——一九七七年三月まで

一九七二年 七月 カリフォルニア大学イースト・アメリカン・センター客員研究員

（同大学ロサンゼルス校に二か月滞在）

一九七五年 四月 明治大学法学部教授

一九七五年 四月 関東矯正研修所講師（刑事政策）——一九八一年三月まで

一九七五年 九月 犯罪と非行に関する全国協議会・常任理事（事務局長）

一九七六年 八月 明治大学在外研究員としてイギリス・ロンドン大学留学（二年）

一九七八年 四月 明治大学大学院法学研究科修士課程（犯罪学）担当

一九八〇年 四月 同大学院博士課程（犯罪学）担当

一九八一年 四月 明治学院大学法学部講師（刑事法）——一九八三年三月まで

一九八八年 七月 死刑執行停止連絡会議・代表世話人——現在

一九八九年 四月 独協大学大学院法学研究科（博士前期課程）兼任講師

一九九〇年 九月 コロンビア大学法学部客員教授（明治大学在外研究員）

一九九〇年 四月 明治大学大学院法学研究科公法学専攻主任

一九九二年 四月 明治大学社会科学研究所・所長（二期半）

一九九二年 九月 日本犯罪社会学会・理事（一期）

一九九三年 九月 犯罪と非行に関する全国協議会・副会長

一九九五年 八月 犯罪と非行に関する全国協議会から独立し、「全国犯罪非行協議会」を創設・会長——現在

一九九九年 四月 明治大学大学院特別研究員（コロンビア大学滞在）

二〇〇二年 四月 明治大学大学院法学研究科委員長

二〇〇三年 四月 法務省行刑改革会議委員

二〇〇四年 三月 弁護士登録（第二東京弁護士会）

二〇〇四年 四月 法務省行刑改革推進委員會顧問—現在

二〇〇四年 七月 明治大学犯罪学研究所所長—現在